

国際学部の学生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、国際学部へようこそ！
皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

世界に通用するコミュニケーション能力と教養を兼ね備えた人材を育成するために、国際学部は、2学科から構成されています。異なる文化間をつなぎ、よりよい世界の実現に向けた対話を促すファシリテーター（促進者）を育成する「国際文化学科」、そして外国語運用能力を含む豊かなコミュニケーション能力と教養を国際舞台上で活かし、リーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルスタディーズ学科」です。それぞれの学科の概要は次のとおりです。

国際文化学科では、【世界を学び、日本を知る】、【世界と日本をつなぐ】をキーワードに、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」という3つのコースを設け、自分自身の関心や将来の職業選択にあわせて学ぶことができるカリキュラムを用意しています。また、異文化理解を深めるためのツールとして、外国語は必修・選択を含め11言語の中から好きなものを学ぶことができ、さらに2年次以降には、長期留学・短期語学研修・国内外文化研修・インターンシップ等の実践的な教育プログラムの中から希望するものを選び、学生が主体的に取り組む「国際文化実践プログラム」を必修としています。これらを通じて、修得した知識を実践することで理解を深め、自己成長を促すことができるよう配慮しています。

一方、グローバルスタディーズ学科では、グローバルなコミュニケーションツールである英語の教育を「徹底的に」行います。その目的を実現するため、2年次以降に開講する専攻科目の約80%を英語のみ、または英語と日本語の併用で行い、さらに1セメスター以上の英語圏への留学を必修としています。また、TOEIC[®]スコア730点以上を卒業の条件として設定し、外国の大学院等に進学可能な水準にまで学生の能力を伸ばすことも目標の一つにしています。

さて問題は、このカリキュラムの枠組みの中で、具体的にどんな科目を履修すべきなのかということです。新学年度の始まりに皆さんが取り組むべき課題が、この科目選択と履修登録という作業なのです。この作業を適切にすすめるためのガイドラインの役を果たしているのが、今皆さんが手にしている『履修要項』です。ここには、単位の取り方に関わる様々なルール、試験や成績評価に関わる事項、また資格取得に関わる諸課程の説明など、重要な情報が掲載されています。このような枠組みを理解したうえで、具体的な科目選択・登録にあたって、皆さんがぜひとも参考にしなければならないのが「Webシラバス」です。Webシラバスには、それぞれの授業内容が説明されており、とくに自分で準備しておかなければならない資料や課題等も掲載されている場合もあるので、ぜひ目を通しておいてください。この履修要項およびWebシラバスを参考にしながら、卒業後に役立つような授業を系統的に選び、登録しましょう。

この一年間の皆さんの学業生活が実り豊かなものとなるよう、積極的に授業に取り組んでください。私たち教員も事務職員も、皆さん一人一人の頑張りに期待し、必要なサポートを提供してゆきます。

2016年4月

国際学部長
久松 英二

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

学部・学科英文名

龍谷大学 Ryukoku University

国際学部 Faculty of International Studies

国際文化学科 Department of Intercultural Communication

『履修要項』は卒業まで使用します。大切に保管し、活用してください。

今後は、新入生以外には改めた『履修要項』の配布はいたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変更、『履修要項』配布後に発生した変更等については、履修説明会や本学ホームページ (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) 等を通じてお伝えします。

龍谷大学の教育にかかわる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

国際学部では、教育研究上の目的を実現するため、以下の方針を定め、教育研究をおこなっています。

国際学部国際文化学科における方針

学位授与の方針〔学士（国際文化学）〕【ディプロマ・ポリシー】

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づく豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解することができる。
- 日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。
- 「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語・人文・社会科学にわたる幅広い教養を身につける。

(思考・判断)

- 異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識できる。
- 異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的・建設的な解決策を論理的に導く能力を持つ。

(興味・関心)

- 世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなき探究心を持つ。
- 国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム教）に対する関心を持つ。
- 日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持つ。

(態度)

- 複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持つ。
- 自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を養う。
- 常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考・判断・行動することができる。

(技能・表現)

- 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書く方法を習得し、実践することができる。
- 情報および情報伝達手段を主体的に選択し、自己と社会のために有効に活用することができる。
- 英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。
- フィールド調査に基づき、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持つ。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。

教育課程編成・実施の方針【カリキュラム・ポリシー】

- 「世界を学び、日本を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターを育成するため、『多文化共生』、『世界と日本』、『芸術・メディア』の3コースを設けて、それぞれの学問領域を系統的に学修できるカリキュラムを展開する。
- 大学での学びの基礎を確立するため、「基礎演習A・B」(各2単位)を1年次に必修科目として展開する。また、3年次からは「演習I・II・III・IV」(各2単位)を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。同時に卒業論文(6単位)の完成を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で少人数教育を受けることを可能とする。
- 学位授与方針に基づき、異文化間の壁を乗り越え、世界と日本をつなぐための実践的な経験を獲得することを目的に、「国際文化実践プログラムI・II」(各2単位)を2年次以降に必修科目として展開する。
- 学生が個別の問題意識や目標を持って学修できるようにするため、フリーゾーン(20単位以上を履修)を設定する。また、学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するため、できるだけ多くの科目を選択科目として展開する。
- 学位授与方針に基づき、主に1年次を対象に「学科基礎科目」を開講する(「仏教の思想A・B」を含めて16単位以上を履修)。また、2年次以降は「学科専攻科目」(46単位以上を履修)を開講する。
- 世界と日本をつなぐ人材に求められる豊かな教養と現代的視野を獲得するため、人文・社会・自然科学ならびにスポーツ分野に属する「教養教育科目」(18単位以上を履修)を幅広く開講する。
- 外国語運用能力を涵養するため、1年次には週5回、2年次には週3回の「学科外国語科目」(英語・中国語・韓国語・フランス語から20単位以上を履修)を必修科目として開講する。また、2年次からは、「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目(ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語)を配置する。
- 留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学(交換留学および私費留学)を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。
- 「仏教の思想A・B」(各2単位)合計4単位を、1年次配当で全学必修科目として展開する。また、「仏教の思想A・B」を履修した学生より高度な知的要求に応える仏教関連科目として、「歎異抄の思想I・II」(各2単位)を2年生以上に提供する。
- 人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目を幅広く開講し、最低18単位を卒業要件として履修させる。

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の36%は海外出身で、日本人教員の多くもバイリンガルです。海外出身教員の出身国・地域は、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、ニュージーランド、フィリピン、中国、韓国、台湾と国際色豊かです。教員と日常的・意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 本学部の前身である国際文化学部における海外からの留学生は約140名在籍（2015年度）しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦勞を理解した上で、留学生に積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制を整えています。
3. 深草学舎 和顔館1Fに設置されている「グローバルコモンズ」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習・各種試験対策ができるスペース（約130席）が整備されています。また、同「グローバルコモンズ」内には国際学部 に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザーに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができ、4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する横習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文をまとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、健康管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間の成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

はじめに

履修要項とは

この履修要項は、龍谷大学国際学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。みなさんは、この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、詳細な履修に関するガイダンスが行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば国際学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

このガイダンスは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行ったりするための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。

これらの連絡は、前述のとおり掲示板を通しておこなわれるため十分に注意しなければなりません。

大学からの連絡・通知の掲示

— 登校したら掲示板を、下校前にも掲示板を —

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

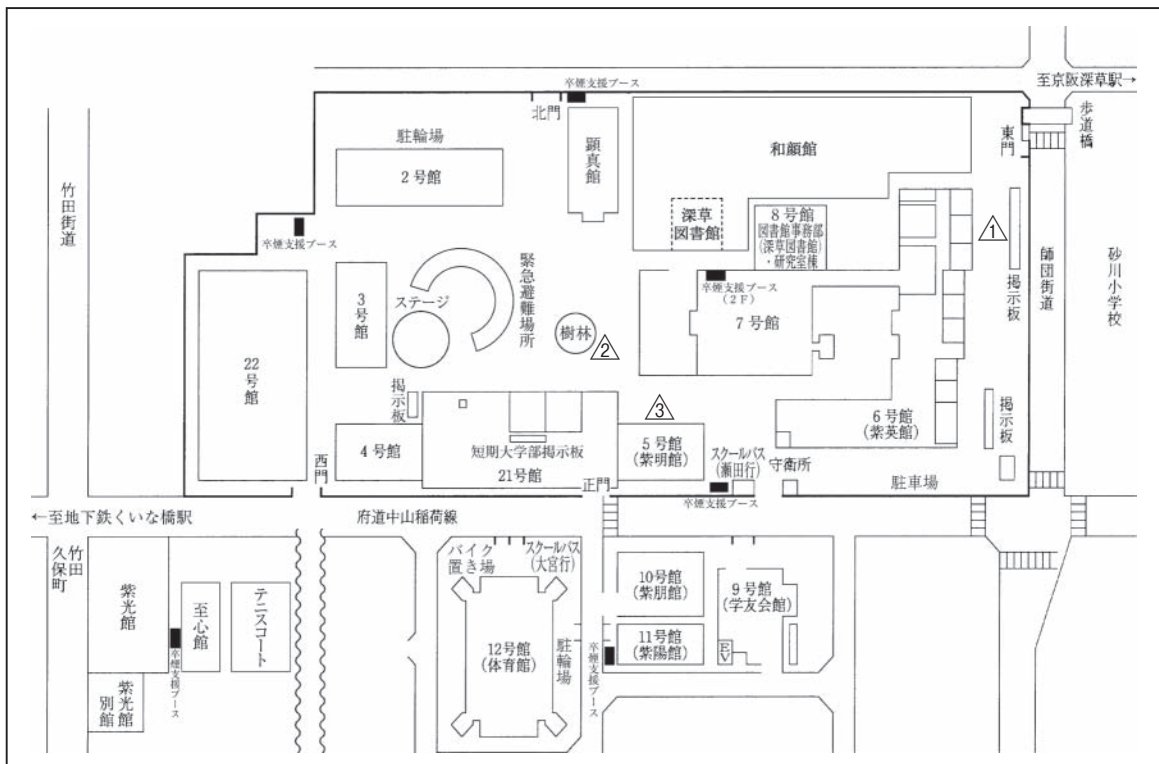
大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落したために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

各種掲示内容別の掲示板とその位置

設置場所	掲示板の名称	掲示の内容
① 6号館（紫英館） 東側	国際学部掲示板	○履修方法、休講・補講情報、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること
	教学部掲示板	○履修方法など教育課程に関すること ○学部共通コースに関すること
	グローバル教育 推進センター掲示板	○留学生別科・国際交流に関すること
	教職センター 掲示板	○教職課程に関すること
② 樹林	学生部掲示板	○奨学金やアルバイトなど、学生生活に関する こと
③ 5号館（紫明館）1階 キャリアセンター	キャリアセンター 掲示板	○就職、資格講座等に関すること

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。



休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、上記掲示板以外に本学のポータル上でも公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

(1) アクセス方法 〈パソコン用〉

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト (学内者向け)」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

〈携帯電話用〉

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 〈パソコン用〉

休講：休講日を含めて30日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

〈携帯電話用 (フィーチャーフォン)〉

休講：休講日を含めて2日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて2日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後28日分を表示しています。

- ### (4) 注意事項
- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
 - ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず国際学部掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

2016年度 龍谷大学国際学部国際文化学科 履修要項 目 次

国際学部の学生の皆さんへ	
龍谷大学の「建学の精神」	
龍谷大学の教育にかかわる基本方針	
国際学部の教育理念・目的	I
国際学部国際文化学科における方針	I
文化の多様性に接する学内環境の整備	III
学生支援の方針	IV
はじめに	V
大学からの連絡・通知の掲示	VI

履修の心得

I. 履修をはじめるとにあたって	
1. 長期的な履修計画を立てること	2
2. 系統的に科目を履修すること	2
3. 自主的に学修をすること	2
II. 教育課程の編成方法	
1. 授業科目の区分	3
2. 必修科目、選択科目	3
3. クラスの編成・アドバイザー（担任）	3
4. オフィスアワー	3
III. 単位制度と単位の認定	
1. 単位制度	5
2. 履修登録制度	6
3. 授業科目の履修	7
4. 授業時間	7
5. 卒業要件単位および学士号	7
IV. 授業科目の開設方法	
1. セメスター制	9
2. 授業科目の開設方法	9
3. 学期完結型授業科目の開設方法	10
4. 授業科目と授業テーマ	10
V. 履修登録	
1. 履修登録手続きのスケジュール	11
2. 履修登録制限単位数	11
3. 予備・事前登録	12

4. 履修登録要件	12
5. 履修辞退制度	13
6. 科目履修の特例	14

VI. 成績評価

1. 成績評価の方法	15
2. 成績評価の基準	15
3. GPA制度	16
4. 成績疑義	16
5. 筆答試験の時期	16
6. 受験資格	16
7. 受験の注意事項	17
8. 答案の無効	17
9. 筆答試験における不正行為	17
10. レポート試験における不正行為	17
11. 追試験	18
12. 筆答試験時間	19

教育課程

I. 教育課程の編成	
1. カリキュラム概念図	22
II. 国際文化学科での学び	24
III. 科目区分と卒業に必要な単位数	27
IV. 各コース紹介	30
V. 国際文化学科生のキャリア設計について	33
1. 想定する進路	33
2. 国際文化学科のキャリア関連科目	33
3. その他	34
VI. 履修方法	
1. 教養教育科目の教育目的および履修方法	35
2. 「仏教の思想」について	36
3. 教養科目の予備登録について	37
4. 必修外国語の履修方法	38
5. コース選択について	40

6. 国際文化実践プログラムについて	41
7. 演習および卒業論文の履修方法	43
8. 必修科目の再履修について	43
9. 国際文化学科における先修制	43
10. グレードナンバー制	45
11. 開設科目	46

Ⅶ. 卒業

1. 卒業の要件	57
2. 卒業の時期	58

卒業論文

1. 卒業論文執筆および提出要領	60
2. 注意事項	62
3. 評価方法	62

諸課程

(1)諸課程	64
(2)特別研修講座・各種講座・試験について	64

学修生活の手引き

I. 窓口事務・保健管理センター・ 障がい学生支援室について	68
-----------------------------------	----

II. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う 授業および定期試験の取り扱いについて	69
III. 学籍の取り扱い	70
IV. 大学院国際文化学研究科の紹介	74

Q&A

登録・履修・試験について	76
留学制度・留学生について	79
証明書について	81
学籍について	82
学生生活について	83
こんな場合には？	85

教員

国際学部専任教員名簿	88
国際文化学科専任教員紹介	89

付録

深草・大宮学舎近隣医療機関	104
学舎・教室見取図	108
留学サポートデスクについて	131

履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること…………… 2
2. 系統的に科目を履修すること…………… 2
3. 自主的に学修をすること…………… 2

II. 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分…………… 3
2. 必修科目、選択科目…………… 3
3. クラスの編成・アドバイザー（担任）…………… 3
4. オフィスアワー…………… 3

III. 単位制度と単位の認定

1. 単位制度…………… 5
2. 履修登録制度…………… 6
3. 授業科目の履修…………… 7
4. 授業時間…………… 7
5. 卒業要件単位および学士号…………… 7

IV. 授業科目の開設方法

1. セメスター制…………… 9
2. 授業科目の開設方法…………… 9
3. 学期完結型授業科目の開設方法…………… 10
4. 授業科目と授業テーマ…………… 10

V. 履修登録

1. 履修登録手続きのスケジュール…………… 11
2. 履修登録制限単位数…………… 11
3. 予備・事前登録…………… 12
4. 履修登録要件…………… 12
5. 履修辞退制度…………… 13
6. 科目履修の特例…………… 14

VI. 成績評価

1. 成績評価の方法…………… 15
2. 成績評価の基準…………… 15
3. GPA制度…………… 16
4. 成績疑義…………… 16
5. 筆答試験の時期…………… 16
6. 受験資格…………… 16
7. 受験の注意事項…………… 17
8. 答案の無効…………… 17
9. 筆答試験における不正行為…………… 17
10. レポート試験における不正行為…………… 17
11. 追試験…………… 18
12. 筆答試験時間…………… 19

I 履修をはじめるにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら二つの科目群から卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてる際には、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」でのテーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われて、はじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接教員に質問したり、教員や友人・先輩とのディスカッションを通じたりして理解を深めることも大切です。

Ⅱ 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、国際学部国際文化学科の内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」「教養科目」）
- ・学部専攻科目（「外国語科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「国際文化実践プログラム」）

2. 必修科目、選択科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

「必修科目」とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

「選択必修科目」とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

「選択科目」とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「随意科目」とは、主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。随意科目は、それゆえ教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成・アドバイザー（担任）

- (1) クラスとは
クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。
- (2) クラスの種類
クラスには次の種類があります。
 - ① 必修外国語クラス
 - ② 学部専攻教育クラス（基礎演習等）
 これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

アドバイザーとは、みなさんの大学における学修生活の相談相手となる担当教員を意味します。基礎演習のクラス担任、国際文化実践プログラムや演習の担当教員がアドバイザーとなります。

4. オフィスアワー

国際学部専任教員のオフィスアワーを国際学部掲示板・ポータルサイトなどでお知らせします。

- オフィスアワーとは
学生が事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れてよい時間です。教員は授業の内容や学

習方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。

国際学部専任教員は特定の時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。

オフィスアワーに教員を訪ねる際に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、円滑な問題解決に繋がるかもしれません。

オフィスアワーの時間帯でなくても教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、遠慮無く研究室を訪ねてください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間) ×15週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき) =2単位
学期連結型 授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間) ×30週=180時間	180時間÷45時間(1単位につき) =4単位

○外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間) ×15週=45時間	45時間÷45時間(1単位につき) =1単位
学期連結型 授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間) ×30週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき) =2単位

<単位の認定>

一つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

(1) 履修登録の意味

履修登録は、自らの学修計画に従って科目を履修するための手続きであり、学修計画の出発点となるものです。履修登録をしていない科目は履修できません。

(2) 履修登録の方法

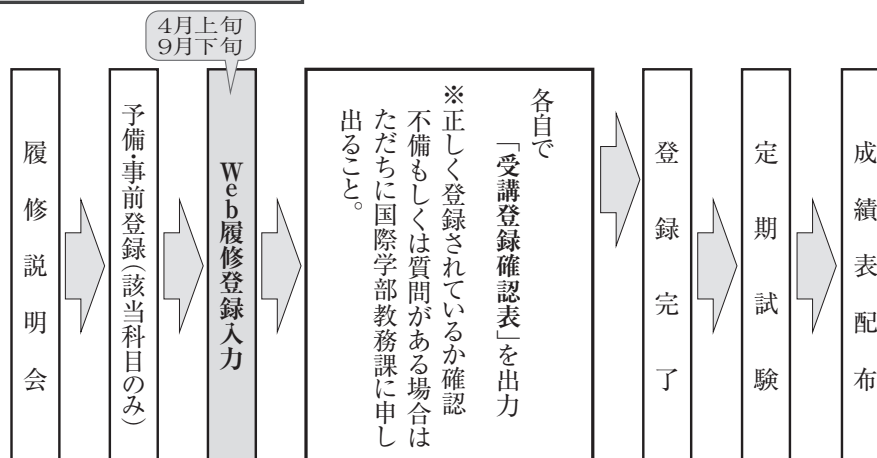
Semester制により履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講される集中講義科目を登録します。

第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

履修登録から単位取得に至る流れは以下のとおりです。（詳細な日程については、国際学部掲示板・ポータルサイトで確認してください。）

「履修登録・単位取得」の流れ



3. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。**総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。**

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

授業配置時間

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:00 ~ 10:30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10:45 ~ 12:15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:15 ~ 14:45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:00 ~ 16:30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16:45 ~ 18:15	○	○	○	○	○	
6 講時	18:25 ~ 19:55	○	○	○	○	○	
7 講時	20:05 ~ 21:35	○	○	○	○	○	

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目の別を指定しています（詳細は「第2部教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

科目区分	必要単位数	必修科目
①学科外国語科目	20 単位以上	1 年次：英語週 5 回または初修外国語週 3 回 + 英語週 2 回 2 年次：英語週 3 回または初修外国語週 3 回
②教養教育科目	18 単位以上	必修 4 単位（「仏教の思想 A」、「仏教の思想 B」）を含む
③学科基礎科目	16 単位以上	必修 4 単位（「基礎演習 A」「基礎演習 B」）を含む
④学科専攻科目	46 単位以上	所属コースが提供する科目から 34 単位以上を修得 「演習 I」～「演習 IV」、「卒業論文」は 34 単位を含む
⑤国際文化実践プログラム	4 単位以上	必修 2 単位（「国際文化実践プログラム I」）を含む
⑥フリーゾーン	20 単位以上	グローバルスタディーズ学科からの提供科目を含む
合計	124 単位以上	

(注) フリーゾーンについて

卒業要件 124 単位の内、各①～⑤の必要単位数を超えた単位が「フリーゾーン」として認定されます。

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3 月）に行います。

(2) 9 月卒業の取り扱いについて

教授会が必要と認めるときは、在学期間が 4 年以上の者について、前期終了時（9 月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9 月卒業を希望する者は、4 月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください（本人の申し出がなければ、9 月卒業の対象にはならないので注意してください）。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

国際学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目のため、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※：実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

①【学期完結型（前期・後期型）】 [学期] → (授業15週間)	講義科目	外国語科目	実技科目
	2単位	1単位	
	4単位	2単位	
②【学期連結型（通年型）】 [学期] → [学期] → (授業30週間)	講義科目	外国語科目	実技科目
	4単位	2単位	

[留意点]

- 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合

は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。

(注 1) それぞれの科目には担当セメスターが設定されています。設定された担当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や担当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注 2) すでに修得した科目 (= 既修得科目) の再履修はできません。

(4) サマーセッション・集中講義を利用して開講される科目については、下記の取り扱いとなります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション 集中講義	第 2 学期 (後期) 科目	・ 開講期間については、履修説明会・ポータルサイト (学内者向け) 等で確認してください。 ・ 第 1 学期 (前期) 開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 履修登録できる科目数は 2 科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1 科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッション・集中講義の開講期間・開講場所などについては、別途掲示等にてお知らせします。

3. 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週 2 回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則にしたがって配置されています。

この科目は、週 2 回の授業を 1 学期間継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週 2 回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業 (週 2 回開講科目) の開講組合せ (原則)

※見方: 「月 1」は「月曜日 1 講時」を示しています。

月 1 - 木 1	火 1 - 金 1	水 1 - 土 1
月 2 - 木 2	火 2 - 金 2	水 2 - 土 2
月 3 - 木 3	火 3 - 金 3	
月 4 - 木 4	火 4 - 金 4	

注) 1 日に 2 講時連続で開講される科目もあります。

4. 授業科目と授業テーマ

「**授業科目**」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「**授業テーマ**」が示されています。

同じ授業科目名で複数の授業テーマで講義が開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマの講義を履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは **1 つの科目に対して 1 つの講義だけです** (同じ授業科目名の異なる複数の授業テーマの講義を履修することはできません)。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

V 履修登録

1. 履修登録手続きのスケジュール

履修登録スケジュールは毎年度変更されますので、本学ホームページ（<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修は、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、国際学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

所属セメスター 学部	1	2	3	4	5	6	7	8	計
1 年次入学生	22	22	22	22	22	22		48	180
3 年次編転入学生					24	24		48	96

(注 1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注 2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(注 3) この履修制限には、次の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果(自主的な学修時間の確保)や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（授業時間割表に「随意」、「教職」、「本山」のいずれかの記号のある科目）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ④ 放送大学科目
- ⑤ 国際文化学科で定める科目

国際文化実践プログラムⅡA～ⅡG、卒業論文、日本語論文表現（初級・上級／留学生のみ）

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 — 1) 予備登録 ……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。
（広義）	教養教育科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録 ……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。
	選択外国語科目や一部の専攻科目においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録（本登録）…	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が
（狭義）	確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されている年次に登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各セメスター（学期）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、国際学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
登録期間は履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。
- ④ 履修登録は確実にを行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、国際学部教務課窓口申し出てください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履修および履修辞退履修として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション・集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

※教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
国際学部 国際文化学科	事前登録が必要となる科目 調査分析の基礎A・B、キャリアガイダンス SNSを活用した異文化交流実践 日本語論文表現（初級・上級）※留学生対象 演習I

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に国際学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に学期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 科目履修の特例

それぞれの科目には、履修可能なセメスターが設定されていますので、いつでも履修できるわけではありません。ただし、次のような場合には、指定されたセメスター以後に履修することができます。

- (1) 必修科目で、その配当セメスターにおいて単位修得できなかったとき。なお、必修科目によっては再履修科目が開講される場合があります。この場合は、この再履修科目を受講しなければなりません。
- (2) 9月入学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるとき。ただし、履修登録にあたっては予め国際学部教務課窓口で相談してください。

Ⅵ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数に合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90～100点)	A (80～89点)	B (70～79点)	C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は別途掲示等でお知らせします。

3. GPA 制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

算出方法は、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評価点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「心の科学」（2単位）80点、「人権論A」（2単位）40点、「アジアの歴史」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (2 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 2 + 2 + 4} = \frac{22}{10} = 2.2$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、国際学部教務課窓口へ提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、事前に国際学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案(白紙答案を含む)を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合。
- (2) 指定された場所に提出しない場合。
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- (4) 受験態度の不良な場合。

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - ② 監督者の指示に従わない場合。
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合。
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合。
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合。
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合。

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

次の各号に該当する者は、追試験を受験することができます。

- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
- ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
- ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学・地域コンソーシアム科目）、放送大学科目の試験により受験ができなかった者。
- ⑥ インターンシップ（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
- ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
- ⑩ 短期大学部実習科目受講により4年制学部定期試験の受験ができなかった者。
- ⑪ その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書(医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等)をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課窓口に提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取るができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に国際学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前に国際学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

(1) 筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目 文・経済・経営・政策・国際学部専攻科目 短期大学部共通科目・専攻科目 学部共通コース科目 諸課程科目 (60分)	法学部専攻科目 (70分)
1 講時	9 : 00	10 : 00	10 : 10
2-A 講時	10 : 30	11 : 30	11 : 40
2-B 講時	12 : 00	13 : 00	13 : 10
3-A 講時	13 : 30	14 : 30	14 : 40
3-B 講時	15 : 00	16 : 00	16 : 10
4 講時	16 : 30	17 : 30	17 : 40
5 講時	18 : 00	19 : 00	19 : 10
6 講時	19 : 15	20 : 15	-
7 講時	20 : 30	21 : 30	-

(注 1) 教養教育科目および学部共通コース科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります。

(注 2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

教 育 課 程

I. 教育課程の編成

1. カリキュラム概念図 22

II. 国際文化学科での学び 24

III. 科目区分と卒業に必要な単位数 27

IV. 各コース紹介 30

V. 国際文化学科生のキャリア設計について 33

1. 想定する進路 33
 2. 国際文化学科のキャリア関連科目 33
 3. その他 34

VI. 履修方法

1. 教養教育科目の教育目的および履修方法 35
 2. 「仏教の思想」について 36
 3. 教養科目の予備登録について 37
 4. 必修外国語の履修方法 38
 5. コース選択について 40
 6. 国際文化実践プログラムについて 41
 7. 演習および卒業論文の履修方法 43
 8. 必修科目の再履修について 43
 9. 国際文化学科における先修制 43
 10. グレードナンバー制 45
 11. 開設科目 46

VII. 卒業

1. 卒業の要件 57
 2. 卒業の時期 58

1年生	2年生	3年生	4年生
1セメスター	3セメスター	5セメスター	7セメスター
2セメスター	4セメスター	6セメスター	8セメスター
● 学科基礎科目	● 学科専攻科目	● 演習I ● 演習II	● 演習 ● 演習III ● 演習IV ● 卒業論文
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎演習A・B 国際文化学科のイントロダクション。大学での学び方を理解します。 ■ 調査分析の基礎A・B コンピュータの基本的な利用法から応用までを学びます。 ■ 比較文化入門 明治期の来日外国人が見た日本から、異文化の表現について学びます。 ■ キャリアガイダンス 自分の個性や生き方、将来の進路を見つけてみます。 ● 多文化共生入門 ● 自然人類学概論 ● 環境共生論入門 ● 社会心理学 ● 映像文化入門 ● 大衆文化入門 ● 多文化交流入門 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ語 ● スペイン語 ● ロシア語 ● トルコ語 ● ポルトガル語 ● アラビア語 ● ペルシア語 	● 演習I ● 演習II	● 演習 ● 演習III ● 演習IV ● 卒業論文
<h3>多文化共生コース</h3> <p>文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追求します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多文化共生と宗教 ○ 多文化交流論 ○ キリスト教の文化 ○ イスラームの文化 ○ イスラームの社会 ○ 都市計画論 ○ 環境保全論 ○ 比較言語学 ○ NGO/NPO論 ○ Exploring Cultures 			
<h3>世界と日本コース</h3> <p>「世界を学び、日本を知る」ことで、多面的な文化理解を志向します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の宗教と日本 ○ 海外における日本観 ○ 国際経済と日本 ○ アジアの文化遺産 ○ アジアの仏教文化 ○ 日本の近現代と国際関係 ○ 世界と日本の民俗 ○ 観光経営論 ○ 観光文化論 ○ 日本語からみた歴史と文化 			
<h3>芸術・メディアコース</h3> <p>表現形式としての芸術と、情報伝達手段としてのメディアの観点から、文化の分析を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 映像文化論 ○ 大衆文化論 ○ 芸術表現法 ○ メディア文化論 ○ アジアの美術 ○ 日本の美術 ○ 西洋の美術 ○ 伝統芸能論 ○ 欧米の演劇 ○ 音楽芸術論 			
<p>※ コースによっては選考を行う場合があります。</p> <p>海外留学 [交換留学・私費留学・短期留学 (学科企画・コース企画・自己応募)・BIEプログラム]</p> <p>国際文化実践プログラムI 国際文化実践プログラムII</p>			

コース選択

■ 必修外国語 (1・2年生)

- 1言語集中型
「英語」を選択し、1年生で週5回、2年生で週3回の授業を履修します。
- 2言語型
1年生は「フランス語」・「中国語」・「ロシア語」から1言語を選択して週3回、「英語」を週2回の合計週5回の授業を履修します。2年生では、1年生に選択した「フランス語」・「中国語」・「ロシア語」のなかから週3回の授業を履修します。

※ 留学生は日本語 (1言語集中型) を選択します。

Ⅱ 国際文化学科での学び

「世界と日本をつなぐ人材」となるために、「世界を学び、日本を知る」

国際文化学科では、「世界と日本をつなぐ人材」の育成を目標としています。

世界と日本をつなぐ人材とは、異なる文化間に生じる問題を調整することのできる人材、日本文化を世界に発信できる人材、日本の地域社会における「多文化共生」（＝国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと）の推進に貢献できる人材を指します。

そうした人材（「人財」と表現されることもあります）になるためには、日本を含む世界の多様な言語と文化を学ぶことが必要です。そこで国際文化学科では、『世界を学び、日本を知る』という基本理念を掲げ、入学した皆さんが異なる文化間に生じる問題を率先して調整できるファシリテーター（促進者）として成長できるよう、体系的な教育課程（カリキュラム）を提供します。

入学から卒業に至る、一般的な学びの流れは以下のようになります。

1 年次

- ・「基礎演習 A・B」を履修し、大学での学びに必要な基礎的な学修能力を身につけます。
- ・「仏教の思想 A・B」を履修し、龍谷大学の建学の精神を学び、龍谷大学生として求められる基本的な知識を学びます。
- ・外国語については、1 言語（英語のみ）または 2 言語（初修外国語＋英語）を選択します。
- ・学科基礎科目のうち、入門系科目を履修し、2 年次以降に所属したいコースを考えます。
- ・「基礎演習 B」の授業内で、2 年次以降の所属コースを決めます。

「大学での学び」とは、簡単に言えば、自ら問題を発見・設定し、その解決のために資料を収集・分析し、レポートとして文書にまとめたり、口頭発表（プレゼンテーション）したりすることです。中学や高校での学びは知識を詰め込むことに重点が置かれていますが、大学では主体的に「何を、どのように学ぶか」を決め、行動することが求められます。「時間割を自分で考えて組む」ことはその典型です。また、大学の教員はそうした主体的な学びをサポートする役割を担っています。

以上を踏まえ、新入生は、全員必修の「基礎演習 A」と「基礎演習 B」を履修し、大学での学びのスタイルに一日でも早く慣れることが求められます。また、本学の建学の精神を涵養する科目として、すべての龍谷大学生が必ず履修する「仏教の思想 A」と「仏教の思想 B」も 1 年次に受講します。

その一方で、異なる文化を理解し、異なる文化間をつなぐツール（道具）として、外国語能力を重視する国際文化学科では、1 年次から外国語を重点的に学びます。外国語は、1 言語集中型（英語のみ週 5 回）と 2 言語型（フランス語・中国語・韓国語のいずれか週 3 回＋英語週 2 回）の履修パターンがあり、入学時にどちらかを選びます（外国人留学生は日本語のみとなります）。

世界の共通語としての英語の重要性は今さら指摘するまでもありませんが、外国語は英語だけではありません。英語以外の外国語に挑戦してみたい人は、初修外国語（フランス語・中国語・韓国語）を学ぶ 2 言語型も検討してみてください。英語の習得に集中するか、英語に加えてもう一つ外国語を学ぶか。外国語の選択に関しても、上述の「学びの主体性」が求められます。

1 年次は外国語を含めて必修科目が多いため、「時間割を自分で組む」余地は多くありませんが、選択科目も存在します。「教養教育科目」のほか、「学科基礎科目」に分類される授業の中から入門系科目を幅広く履修し、入学直後の段階から 2 年次以降の所属コースを考えておくことが重要です。なお、2 年次以降に所属するコースの選択・決定は、後期に開講される「基礎演習 B」内でおこなわれます。

また、海外留学にも積極的に挑戦してください。海外留学には多様な種類・期間などがあります。いずれも相応の準備期間や費用が必要になりますので、海外留学を希望する場合は、早目に情報収集を開始しましょう。

2年次

- ・「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかひとつのコースに所属します。
- ・前期に「国際文化実践プログラムⅠ」を履修し、実践プログラムⅡの内容を決めていきます。
- ・後期以降に「国際文化実践プログラムⅡ」を履修し、世界と日本をつなぐ実践学習をします。
- ・引き続き、1年次に選択した外国語を履修し、外国語能力のさらなる向上を目指します。
- ・より専門的に「世界を学び、日本を知る」ことができる学科専攻科目の受講が始まります。
- ・3年次から所属を希望する演習（ゼミ）を決めます。

国際文化学科では、2年次から全員が、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかのコースに所属します。

所属コースによって、日本を含む世界の多様な言語と文化を学ぶに当たり、どのような分野・対象・方法等から深く学ぶかが変わってきます。また、3年次以降の演習（ゼミ）の選択にも関係しますので、慎重に選択する必要があります（各コースに関する説明ならびに選択は、「基礎演習B」の授業内でおこなわれます）。

外国語については、1年次に引き続き、選択した外国語（英語・フランス語・中国語・韓国語のいずれか）を週3回学び、運用能力をさらに高めていきます（外国人留学生は日本語のみ）。

また、自身の興味と関心にもとづき、それぞれの科目区分ごとに定められた卒業に必要な単位数（卒業要件単位）を満たすように、「教養教育科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」を計画的に履修していきます。1年次に比べて、自分自身で授業を選択できる余地が大きくなりますので、授業の概要を記した「シラバス」を熟読し、主体的に自分の学びをデザインします。

学科専攻科目には、各コースが提供する国際文化に関する専門性の高い科目のほか、コース共通の科目もあります。コース共通科目として、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語などの外国語も揃っています。また、これまで学んできた英語・フランス語・中国語・韓国語についても、コース共通の学科専攻科目として、より高度で実践的な内容の科目も揃っています。

また、2年次には全員が必ず「国際文化実践プログラムⅠ」と「国際文化実践プログラムⅡ」を履修します。国際文化実践プログラムは、「世界と日本をつなぐ人材」になるための素養を、様々な実践を通じて体得することを目的としています。前期に履修する国際文化実践プログラムⅠ（事前学習）は所属コースごとに開講され、各コースで求められる知識や研究方法への理解を深め、後期以降に履修する国際文化実践プログラムⅡ（実践学習）の内容を決定します。

国際文化実践プログラムⅡは、国際文化に関わる様々な内容があり（留学・文化研修・インターンシップ・集中講義など）、自分自身の興味や関心にもとづき、教員の助言を受けながら自ら課題を設定し、他の受講者とも協働し、「計画→実行→成果発表」という一連の流れに主体的に取り組むものです（実施の時期・進め方などはプログラムによって異なります）。

また、2年次の後期に、3年次以降に所属する演習（ゼミ）を選び、決定します。演習（ゼミ）とは、20人程度の少人数で行われる専門的な研究の機会であり、大学生生活後半の柱となるものです。ゼミは3年次～4年次と同じ受講者・担当教員で固定され、演習担当教員の指導や助言を受けながら、大学生生活の集大成となる卒業論文（または卒業制作）を完成させていくものです。

3年次および4年次

- ・演習を履修し、演習担当教員の下で、卒業論文の完成に向けた研究を進めます。
- ・引き続き、教養教育科目、学科基礎科目、学科専攻科目を計画的に履修していきます。
- ・就職活動が3年次後期末頃から本格化してきます。学業と両立できるようにしましょう。

3年次からは**演習**（ゼミ）が始まります。演習では、演習担当教員（指導教員）の助言を日常的に受けながら、各コースならびに各ゼミの専門性を踏まえた研究を進めます。

演習はⅠ～Ⅳで構成され、3年次前期に**演習Ⅰ**（演習Ⅰは全員が必ず履修します）、3年次後期に**演習Ⅱ**、4年次前期に**演習Ⅲ**、4年次後期に**演習Ⅳ**を履修します。また、演習Ⅲと同時に「**卒業論文**」も履修登録し、演習Ⅰ～Ⅳならびに大学生生活の総まとめとして、卒業論文を執筆します。教員によっては、卒業論文の代わりに卒業制作を認める場合があります。なお、演習および卒業論文を不合格になった場合や履修しない場合は、学科専攻科目（コース提供科目）を代わりに履修し、所定の単位数を取って卒業することとなります。

3年次からは必修の外国語科目はありませんが、学科専攻科目として、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語のほか、英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語についてもより高度で実践的な内容の科目が揃っていますので、これらを履修することで外国語能力を高めていくことが可能です。

3年次以降は学科専攻科目の履修が中心となりますが、「学科外国語科目」、「教養教育科目」、「学科基礎科目」についても、科目区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を満たしていない場合、これらの科目を引き続き履修することになります。4年次後期末の段階で卒業要件単位を満たしていない場合、卒業ができなくなります（＝留年）ので注意しましょう。

なお、3年次後期末頃から4年次前期にかけて就職活動が本格化します（企業によって時期は異なりますが、近年はこの時期がピークのようなようです）。就職活動の時期になると、平日でも企業の説明会や面接が頻繁におこなわれます。学業と就職活動を両立できるよう、計画的な履修を心掛けてください。

Ⅲ 科目区分と卒業に必要な単位数

国際文化学科の学生が受講できる授業は、いずれも「科目区分」と呼ばれるグループに分類されています。科目区分ごとに卒業に必要な単位数や、必修科目（必ず修得しなければならない科目）が定められています。裏返せば、どんなに単位を多く取っても、こうした科目区分ごとに定められた要件を満たさないと卒業することができません（各区分で修得した所定以上の単位数を、フリーゾーンを除き他の区分に置き換えることはできません）。本履修要項をよく読み、また、不明な点は国際学部教務課に直接確認するなどして、計画的かつ正確な履修を心がけてください。

① 学科外国語科目（卒業要件：20単位以上）

「世界を学び、日本を知る」上で、外国語を習得することは重要です。そのため国際文化学科のカリキュラムでは、外国語科目が大きな比重を占めており、20単位以上修得することが求められます。

学科外国語科目は、英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語（外国人留学生のみ）の5言語で構成されています。いずれの科目も、オーラルコミュニケーション能力を重視した少人数教育を特色としています。国際文化学科の学生は、① 1言語集中型（英語のみ）、または② 2言語型（英語+フランス語・中国語・韓国語のいずれか）のどちらかを入学時に選択します。世界共通語としての重要性から、英語はいずれのパターンでも必ず学ぶこととなります。ただし外国人留学生については、日本語のみを2年間学びます。

1言語集中型は1年次に英語週5回、2年次に英語週3回となります。2言語型では、1年次に初修外国語（フランス語・中国語・韓国語）週3回+英語週2回、2年次に初修外国語週3回となります。2言語型を選択した場合、2年次に必修外国語としての英語の授業はありません。外国人留学生は日本語を1年次に週5回、2年次に週3回学びます。

※外国人留学生で日本語以外の言語を学びたい場合、2言語型選択者で2年次も英語を学びたい場合、3年次以降も外国語を学びたい場合は、「学科専攻科目」内でコース共通科目として提供されている外国語関連科目を履修してください。

② 教養教育科目（卒業要件：18単位以上）

教養教育科目は、学生の興味・関心や研究テーマをより広い視野から理解し、充実したものにすることを旨とした科目区分です。人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目で構成され、深草学舎の他学部学生と共に受講します。様々な科目がありますので、自分の興味・関心・進路の希望に応じて選択・履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想A」（2単位）と「仏教の思想B」（2単位）は、必修科目です。詳細については、「教養教育科目の教育目的および履修方法」（P.35～）を参照してください。

③ 学科基礎科目（卒業要件：16単位以上）

国際文化学科の学生として、また、「世界と日本をつなぐ」人材を目指すに当たって、入学後の早い段階で接しておくべき入門的な内容を扱った科目区分です。学科基礎科目には、各教員がその専門にもとづき単独で行う科目のほか、教員が共同で1つの授業（チェーンレクチャー）をおこなう科目もあります。

このうち、「基礎演習A」（2単位）と「基礎演習B」（2単位）は必修です。「基礎演習A」では、少人数教育を通じて、資料の収集、レポートの執筆、プレゼンテーション（口頭発表）など、大学での学びに必要な基礎的な知識や技法を身につけます。「基礎演習B」では、「基礎演習A」での学修内容を再確認しつつ、同時に、2年次以降所属することになるコースの紹介・選択などもおこなわれます。

④ 学科専攻科目（卒業要件：46単位以上 ※うち34単位以上は所属コースから）

学科専攻科目は、国際文化学科での学修の根幹を成す科目区分です。学科基礎科目での学修内容を土台に、さらに発展した内容を専門的に学ぶ科目を揃えています。学科専攻科目の中に必修科目は設定されていません。

学科専攻科目は大別して二種類あり、コースに関係なく提供されるもの（コース共通科目）と、コースから提供されるもの（コース提供科目）があります。卒業要件として、学科専攻科目から46単位以上修得することが求められますが、そのうち34単位以上は、必ず自身が所属するコースの科目（コース提供科目）を修得しなければなりません。

学科専攻科目には外国語科目も多く含まれますので、外国語能力を伸ばしたい人は、こうした科目を積極的に履修してください。なお、外国語科目（11か国語）の多くはコースに関係なく提供されるコース共通科目であるため、合格した場合は、自身が所属するコースの科目としてはカウントされません（コース外の12単位としてカウントされます）。

また、学科専攻科目には、「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」（計8単位）と「卒業論文」（6単位）も含まれます。基本的に「演習Ⅰ～Ⅳ」と「卒業論文」は、所属コースの教員が担当するものを選択しますが、教員によっては他コース所属の学生の履修を認めている場合があります。他コース教員の演習を履修した場合、「演習Ⅰ～Ⅳ」と「卒業論文」の計14単位は、例外的に自コース分の34単位にカウントします。

なお、演習は必修科目ではありませんが、「演習Ⅰ」は必ず履修登録します。また、「卒業論文」は「演習Ⅲ」と同時に履修登録します。演習や卒業論文を不合格となった学生は、他の学科専攻科目で卒業要件に必要な単位数を満たすか、翌年度に再履修することになります。

⑤ 国際文化実践プログラム（卒業要件：4単位以上）

国際文化実践プログラムは、国際文化学科の特色の一つであり、必修科目である「国際文化実践プログラムⅠ」（2単位）と、いずれかを必ず履修する（選択必修）「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」（各2単位）で構成されています。

国際文化実践プログラムは、1年次の基礎演習と3年次の演習を橋渡しする科目として位置づけられ、学生自らが課題を設定し、また、他の学生との協働し、国際文化に関わる実践的な学びの機会を追求するプロジェクト型の科目です。

「国際文化実践プログラムⅠ」は所属コースごとに受講します。この授業は、「国際文化実践プログラムⅡ」の事前学習に充てられます。また、「国際文化実践プログラムⅡ」は、コースとは関係なく任意のものを履修することができ、①長期留学期、②短期語学研修型、③短期国外文化研修型、④短期国内文化研修型、⑤集中講義型、⑥インターンシップ型、⑦自己応募型の7種類から選択します。科目内容によっては定員が設けられており、また、留学や研修など、授業料とは別に費用がかかるものもあります。

国際文化実践プログラムの詳細については、「国際文化実践プログラムについて」（P.41～）を参照してください。

⑥ フリーゾーン（卒業要件：20単位以上）

卒業要件124単位のうち、上記科目区分①～⑤それぞれで定められた卒業に必要な単位数を差し引くと20単位が不足します。これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味で、フリーゾーンと呼びます。

フリーゾーンは、学生自身の興味や関心にもとづき、多様な選択ができ自由に履修することができる区分となっています。学科外国語科目、教養教育科目、学科基礎科目、学科専攻科目、国際文化実践プログラムのいずれを履修しても構いません。上記科目区分①～⑤における卒業要件単位数（例：学科基礎科目であれば16単位）を越えて修得した科目の単位は、自動的にフリーゾーンの単位数としてカウントされます。

また、開設科目一覧（P.46～）に記載されている、「グローバルスタディーズ学科開講科目」を履修

し合格した場合、その単位もフリーゾーンで認定されます。なお、グローバルスタディーズ学科開講目の一部には受講条件が設定されているものがあります。詳細については、該当科目のシラバスを参照してください。

その他（単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など）

上述の科目区分表には含まれないものとして、単位互換科目や資格関連の科目があります。

「単位互換科目」は、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目や、放送大学の科目を履修するものです（これらの科目は2年次以上で履修できます）。単位互換科目の詳細については、ホームページを参照してください。

また、国際文化学科では、「中学校教諭一種免許（英語科）」、「高等学校教諭一種免許（英語科）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師資格」を取得できます。こうした資格を取得するためには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。詳細については、ホームページを参照してください。

Ⅳ 各コース紹介

多文化共生コース（Concentration on Multicultural Societies）

〈コース概要ならびに学びの目標〉

異なる文化間の対話や交流の可能性を探るべく、「コミュニケーション」、「宗教」、「社会」、「政治」、「暮らし」、「環境」をキーワードに、文化に関連した現代社会の様々な課題について学びます。グローバル化した現代社会では、ヒトやモノに加えて様々な価値観も国境を越え、文化の多様性が際立つ一方で、異なる文化間の摩擦や対立も深刻化しています。多文化共生コースでは、グローバルな時代に求められる知識や技法を学び、人類が多様性を保ちながら、いかに異文化間のコミュニケーションを図り、生活と環境に配慮しつつ共生していくことができるかを追究していきます。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、言語・社会・宗教・生活環境など、幅広い分野における多文化共生と異文化理解の必要性を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、アメリカ・ヨーロッパに加え、存在感を強めるアジア・イスラーム世界や、世界三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム教）などについて学びを深めます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、実践的な経験を積み、多文化社会の課題とその解決方法を修得していきます。

外国語については、国際共通語としての英語に加えて、コースでの学びと関連の深い、トルコ語、ペルシア語、アラビア語などのイスラーム系諸言語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などのヨーロッパ系諸言語を学ぶことも期待されます。

〈想定される進路〉

観光・運輸・航空業のほか、商社や製造業など、特に顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業での活躍が期待されます。また、地方自治体の多文化共生施策担当者、中学校・高等学校教員（英語科）、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

磯江 源（英語学、比較言語学、音声学）
 佐野 東生（イスラーム地域研究、イラン近現代史）
 壽崎 かすみ（都市計画、住環境計画、まちづくり）
 鈴木 滋（人類学、霊長類学）
 ターヒュン ノエル（英語学）
 林 則仁（比較美術史、建築史）
 久松 英二（比較宗教学、キリスト教研究）
 二葉 晃文（教育言語学）
 古川 秀夫（社会心理学、社会学、NGO/NPO論）

世界と日本コース (Concentration on the World and Japan)

〈コース概要ならびに学びの目標〉

「世界から見た日本」、「日本から見た世界」をキーワードに、世界の多面的な文化について学びます。特にアジアならびに環太平洋地域を中心に、世界の多様な文化の根底にある「基層」を学び、地域研究の枠組みを超えた多様なカルチュラルルート（文化が伝わってきた道程）を解明していきます。その一方で、日本文化と密接に関係する東アジアの言語や文化、移民を含む人々の相互交流が文化に与える影響、仏教を中心とした宗教文化などを深く学ぶことで、自らが所属する文化の正確な理解を目指します。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、世界と日本の関わり、世界の中における日本の位置づけ、また、フィールドワークなど調査分析方法の基礎を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、興味と関心にもとづく専門的な観点から、世界と日本の関わりについて学びます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、世界と日本の関わりを実体験し、一つの国や地域を学ぶだけでは見えてこない、世界と日本を結ぶ文化的なつながりを追究します。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語や韓国語を履修し、東アジアの影響を強く受けた日本社会・文化の理解を深めることが期待されます。

〈想定される進路〉

日本文化を世界に発信するような幅広い業界・職種が考えられます。具体的には、日本を訪問する外国人観光客と接する旅行・運輸・観光業、日本語教員、通訳・翻訳者などのほか、アジアに進出している日本企業での勤務、中学校・高等学校教員（英語科）、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

- 泉 文明（日本語学、日本語教育学、京都学）
- カルロス マリア（国際労働移動、アジア経済、開発経済学）
- 史 形嵐（中国語学、中国語教育学）
- 徐 光輝（東アジア考古学、地域文化交流研究）
- 嵩 満也（仏教学、日本の宗教）
- 友永 雄吾（文化人類学（含民族学、民俗学）、教育学、社会学）
- 朴 炫国（韓国文学、民俗学、韓国語教育）
- 三谷 真澄（仏教文化学、古写本学）
- 劉 虹（言語学、中国語学）

芸術・メディアコース (Concentration on Arts and Media)

〈コース概要ならびに学びの目標〉

「さまざまな表現形式としての芸術」、「情報の伝達手段としてのメディア」をキーワードに、文化を学び、分析するための知識や技法を学びます。古典・伝統から現代のポップカルチャー／サブカルチャーに至るまで、多様化する芸術活動とメディアの広がり注目しながら、「文化とは何か」について解明していきます。また、自ら日本文化を世界に発信できる人材の育成も重視し、制作や表現活動に必要な実践的な知識、技法も学ぶことができるカリキュラムとしています。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、多様な芸術のジャンルとメディアの広がり、さらにその分析方法について基礎的な知識を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、自らの興味や関心に応じた専門的な学びを深めていきます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、自ら経験し実践することで、文化の理解・分析・表現をしていく際に求められる知識や技法を修得していきます。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語・フランス語・韓国語を履修し、各地域の豊かな芸術・文化表現について理解を深めることが期待されます。

〈想定される進路〉

芸術・文化・表現に関わる多様な職種が考えられます。例えば、地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業の社会貢献活動（芸術・文化関係）担当者、博物館学芸員、マスメディア（新聞・出版・放送）、コンテンツ関連業界（映画・音楽・ゲーム・アプリ開発など）などが考えられます。また、旅行・運輸・観光業のほか、中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

カルドネル シルヴァン（哲学、人文学）

佐々木 英昭（比較文学、比較文化、日本近代文学）

サルズ ジョナ（比較演劇、伝統芸能、狂言、映画）

杉本 バウエンス ジェシカ（マンガ研究、ジェンダー研究）

ファーマノフスキー マイケル（ポップカルチャー、アメリカ史、ファッション史）

松居 竜五（比較文学、比較文化）

八幡 耕一（メディア文化論、ジャーナリズム、情報社会学）

V 国際文化学科生のキャリア設計について

グローバル化の影響を受け、また、国内の少子化・高齢化を背景に、日本では外国から人材を受け入れる傾向が強まっており、日本社会の「内なるグローバル化」が急速に進んでいます。内なるグローバル化とは、日本で暮らす諸外国出身の人々が増えることであり、日本社会の構成員が、これまで以上に文化的・民族的に多様になることを意味します。

社会構成員の多文化・多民族化は、様々な意味で豊かさをもたらします。その一方で、言語・風習・宗教などの違いに起因する文化的な摩擦を生じさせることも否定できません。それゆえ、日本社会の内なるグローバル化が進めば進むほど、異なる文化間に生じる課題を解決できるファシリテーター（促進者）への期待が高まるはずです。このような時代、「世界と日本をつなぐ人材」としての素養を身につけた国際文化学科生が活躍できる領域は、今後、国内外に大きく広がっていくと予想されます。

以下、国際文化学科の人材育成方針や教育課程（カリキュラム）にもとづき、国際文化学科の学生にとってどのようなキャリア設計が考えられ、また、どのような計画・行動が望ましいかをまとめておきます。自分自身のキャリアについて考えるのが早ければ早いほど、大学生活は充実していくはずで、キャリアセンターも活用しながら、自分自身のキャリアについて早目の考え、行動を心がけてください。

1. 想定する進路

旧国際文化学部の卒業生の多くは民間企業に就職しています。そうした実績と各コースの設置・教育理念を踏まえた場合、想定する進路（国際文化学科で学修したことを比較的活かしやすいと考えられる業界・職種・職業）としては、次のようなものが例として挙げられます。

多文化共生コース

一般企業・団体等のうち、特に顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業（外資系企業、海外に展開する日本企業など）、地方自治体の多文化共生施策担当者（外国人住民の支援に関する業務）、国際協力や多文化共生に関する業務を行うNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

世界と日本コース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて世界に日本文化を発信するような業界（旅行会社を含む観光業、運輸業など）、日本企業の海外支社・支店等での勤務（特にイスラーム圏、仏教系諸国など）、特定地域で活動するNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、通訳・翻訳者、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

芸術・メディアコース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて芸術・文化に携わる業界（マスメディア、コンテンツ関連産業など）、地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業のメセナ活動（企業がおこなう社会貢献活動）担当者、芸術・文化関連の活動をおこなうNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

2. 国際文化学科のキャリア関連科目

以下は、国際文化学科の学生を対象としたキャリア関連科目です。どちらも必修ではありませんが、自身のキャリア設計の動機付けに役立ちますので、入学後の早い段階に履修しておくことを推奨します。

① キャリア・ガイダンス (学科基礎科目、2単位) ※第1 Semesterから履修可

責任ある仕事を継続的に体験する機会の少ない学生にとって、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要があることから、キャリアデザインへの早期からの取り組みがキャリア形成上重要であることを実践的に学ぶ科目です。大学卒業を控えた就職活動に絶大な威力を発揮するのは、「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることであると言えます。本科目では、自分のキャリアをつくっていく上で、なぜそうしたという考え方や知識が必要なのか、また、それを自分の言葉で語る重要性を理論的・体験的に学びます。

② グローバル時代のキャリア設計 (学科専攻科目、2単位) ※第3 Semesterから履修可

現代社会は急速にグローバル化しており、キャリア形成も社会経済のグローバル化を意識する必要があります。本科目では、世界経済の大きな変化を理解し、また、それを日本の文脈で捉え直し、今後どのようなキャリア形成が必要になるのか、どのような業界や職種がグローバル化の影響を受けやすい(受けにくい)のかといったことを学びます。授業では、担当教員および外部のゲストスピーカーによる講義に加え、受講者間での討議・発表機会を積極的に導入し、受講者自らが主体的に学ぶ機会を追求する予定です。

3. その他

・企業や団体等でのインターンシップは、就職活動を控えた学生に様々な経験を与えてくれます。「国際文化実践プログラムⅡ」の中には、インターンシップを実践学習の機会とする「国際文化実践プログラムⅡF」がありますので、必修科目である国際文化実践プログラムの一環として、企業や団体等でのインターンシップをすることも可能です。

・教養教育科目には「経済学のすすめ」(2単位)があります。また、学科専攻科目には「日本の経済と社会」(2単位)、「国際経済と日本」(2単位)などがあります。社会経済のグローバル化が著しい現代にあって、キャリア形成上、日本を含む世界経済に関する知識と理解は大きく役立つはずで、積極的に受講してみましょう。

・外国語の資格試験を念頭に置いた授業もあります。就職活動時に、自身の外国語能力を客観的に証明するには、就職活動が本格化する前に公的な資格を取得しておくことも有効です。興味・関心がある学生はこうした授業も受講してみましょう。

資格試験名称	授業科目名・科目区分・単位数
TOEIC	Advanced English B (学科専攻科目、2単位)
フランス語検定	実践フランス語A～D (学科専攻科目、各2単位)
HSK (中国政府公認の中国語検定)	実践中国語A～D (学科専攻科目、各2単位)
韓国語能力試験	実践コリア語A～D (学科専攻科目、各2単位)

・REC (龍谷エクステンションセンター) では、学生ベンチャー育成に関する様々な企画(教育事業、イベント事業、インキュベーション事業)を展開しています。そのねらいは、①日本経済復興の鍵となる新事業・新産業の創出のため、「大学発学生ベンチャー」の発掘・育成を行う、②新しい目標や課題に対して、積極的にアイデアを出し企画・実行していく応用能力・実践能力を養成し、チャレンジ精神、創造性の豊かな人材を社会に輩出することにあります。就職活動のみならず、自ら起業することも立派なキャリア形成の一つです。興味・関心がある学生は、ぜひこうした事業にも積極的にチャレンジしてみましょう。

・龍谷大学のキャリアセンターを積極的に利用しましょう。各種セミナーや個別のカウンセリングがおこなわれるほか、職業や業界・企業に関する豊富な資料を常時閲覧可能です。また、資格試験対策講座なども実施しています。「まだ早い」とは決して思わず、1年次から積極的に利用することを強く推奨します。

Ⅵ 履修方法

国際文化学科の学生は、卒業後、異なる文化間に生じる問題を率先して調整できるファシリテーター（促進者）、すなわち「世界と日本をつなぐ人材」として活躍することが期待されます。そのために、龍谷大学の建学の精神につながる仏教の思想を学びつつ、大学での4年間で「世界を学び、日本を知る」ことが求められています。同時に、高校までとは大きく異なる「大学での学び」（＝研究）に一日でも早く慣れるよう、基礎的な知識や技法を習得する必要があります。

国際文化学科では、こうした教養・知識・技法などを体系的に学び、身につけることができるよう教育課程（カリキュラム）を準備していますが、履修に当たっては細かいルールがあります。こうしたルールを守らないと、4年間で卒業することができなくなりますので、入学時に熟読するだけでなく、大学生生活を通じて日常的に確認・参照するようにしてください。

1. 教養教育科目の教育目的および履修方法

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

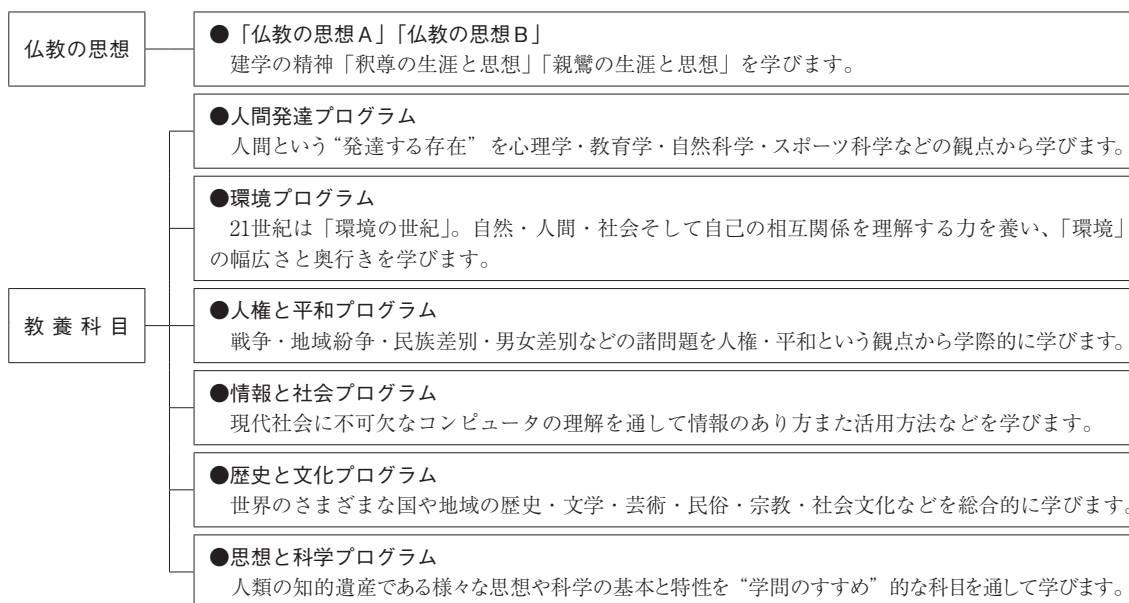
つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、京都学舎では、仏教の思想と6つのプログラム（人間発達/環境/人権と平和/情報と社会/歴史と文化/思想と科学）が設置されています。そして、その履修を通して、高い倫理性を求める学修、幅広い知識の修得のための学修、テーマに基づく学生の自主的選択による学修を可能にしています。

教養教育科目は、建学の精神を学ぶための必修科目としての「仏教の思想」、およびテーマに基づく幅広い総合的知識を学ぶ「教養科目」から構成されています。



2. 「仏教の思想」について

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて、自己をふり返り、幅広い物の見方と心の豊かさを育てることを目的としています。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法について

① 必修科目

「仏教の思想A」（2単位）および「仏教の思想B」（2単位）は必修科目ですので、担当されたゼミスターにおいて必ず受講してください。

② 単位認定

「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目で、単位認定は別々におこなわれます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、同一の授業担当者の講義を履修してください。

学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

④ 再履修

配当された Semester で不合格となった場合は、次の年次において再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次生以上は、同一 Semester で、A・B同時履修することが可能です。

学 期	科 目 名
第 1 学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B（再）」
第 2 学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A（再）」

3. 教養科目の予備登録について

教養科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目の受講に際しては、各学期に予備登録をする必要があります。（第 1 学期（前期）には前期科目と通年科目、第 2 学期（後期）には後期科目の予備登録を行います。）

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください（ただし、一部予備登録が不要な科目もあるので、以下に記載されている「(5) 予備登録が不要な科目（P.40）」の項を参照してください。）。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合は、「予備登録をしなくても履修登録が可能な科目」をWeb履修登録画面に表示しますので、その中から選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルログイン」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

※次年度以降、予備登録受付期間については、履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第 1 学期（前期）（通年科目含む）：7 科目

第 2 学期（後期）：5 科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表について

※次年度以降、予備登録結果発表日時については、履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

① 第 1 学期（前期）予備登録は、前期および通年開講科目のみ予備登録対象となり、第 2 学期（後期）予備登録は、後期開講科目が予備登録対象科目となります。ただし、4年次生以上は通年登録（年 1 回登録）のため、後期開講科目（「3年次生以上も予備登録が必要な科目」のみ）についても第 1 学期（前期）に予備登録を行ってください。

② 各年次について定められている履修制限単位の範囲で予備登録をしてください。

③ 重複登録（同一曜講時に 2 科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに所定単位を修得し

た授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること)をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録(本登録)をしてください。

「人権論A」「人権論B」(1年次担当科目)

4. 必修外国語の履修方法

国際文化学科では、「学科外国語」という科目区分で必修外国語を定めています。国際文化学科で開講されている必修外国語は、英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語の5つです。フランス語・中国語・韓国語は初級者を、英語は本学入学前に基礎を勉強した人を、日本語は母語が日本語以外の人(外国人留学生)を対象にしています。必修外国語は卒業までに20単位を修得しなければなりません。

必修外国語は、下表のとおり、入学時に1ヶ国語(英語週5回の1言語集中型)あるいは2ヶ国語(フランス語、中国語、韓国語のいずれかを週3回+英語週2回の2言語型)を選択して受講します。

必修外国語の履修パターン(入学時に選択)

	1年次	2年次
1言語集中型	英語(週5回)	英語(週3回)
	日本語(週5回)※	日本語(週3回)※
2言語型	フランス語(週3回)+英語(週2回)	フランス語(週3回)
	中国語(週3回)+英語(週2回)	中国語(週3回)
	韓国語(週3回)+英語(週2回)	韓国語(週3回)

※日本語は留学生のみ選択

1年次は、各言語のⅠ・Ⅱおよび「English Communication(EC)-Seminar A・B」(留学生は「日本語セミナー」)を合わせて週5回受講します。2年次は、各言語のⅢ・Ⅳを週3回受講します。必修外国語(学科外国語科目)の履修条件は以下のとおりです。なお、EC-Seminar Aでは討論手段としての英語を、EC-Seminar Bでは比較的高度な英文読解や英文法を学びます。

① 留学生を含めて、母語を外国語として選択することはできません。

例1)日本人学生は日本語を選択できません(英語・初修外国語から選択する)。

例2)英語圏出身の留学生は英語を選択できません(日本語を選択する)。

② 必修外国語は先修制となっています。ローマ数字(Ⅰ～Ⅳ)が付いた科目の場合、「○○Ⅰ」を修得していなければ、続く「○○Ⅱ」を履修することはできません。同様に、Ⅱ→Ⅲ、Ⅲ→Ⅳについても、それぞれ先行する科目を修得しなければ続く科目を履修できません。先行する科目を不合格となった場合、再履修する必要があります。

③ 1言語集中型の場合は、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれⅠ～Ⅳ(各1単位)を履修します。また、第1～第2セメスターでは「ECⅠ・Ⅱ-Seminar A・B」(各2単位)も履修します。

例えば、英語を選択した場合、1年次(第1～第2セメスター)は、「EC-SpeakingⅠ・Ⅱ」、「EC-WritingⅠ・Ⅱ」、「EC-ReadingⅠ・Ⅱ」の6科目(計6単位)と、「ECⅠ・Ⅱ-Seminar A・B」の4科目(計8単位)、合計14単位を履修します。2年次(第3～第4セメスター)は、「EC-SpeakingⅢ・Ⅳ」、「EC-WritingⅢ・Ⅳ」、「EC-ReadingⅢ・Ⅳ」の6科目(計6単位)を履修します。

日本語の場合は、第1～第4セメスターで「日本語Ⅰ～Ⅳ」(各3単位)を履修します。また、第1～第2セメスターでは「日本語セミナーA～D」(各2単位)も履修します。

1 言語集中型を選択した場合の必修外国語

1年次（英語週5回）				2年次（英語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
EC I-Speaking	1	EC II-Speaking	1	EC III-Speaking EC III-Writing EC III-Reading	1 1 1	EC IV-Speaking EC IV-Writing EC IV-Reading	1 1 1
EC I-Writing	1	EC II-Writing	1				
EC I-Reading	1	EC II-Reading	1				
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

日本語を外国語とする場合（留学生対象）

1年次（日本語週5回）				2年次（日本語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
日本語 I	3	日本語 II	3	日本語 III	3	日本語 IV	3
日本語セミナー A	2	日本語セミナー C	2				
日本語セミナー B	2	日本語セミナー D	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

- ④ 2言語型の場合は、選択した外国語（フランス語・中国語・韓国語のいずれか）につき、必修外国語として第1～第4 SemesterでそれぞれI～IV（各3単位）を履修します。また、第1～第2 Semesterでは「EC I・II-Seminar A・B」（各2単位）も履修します。2言語選択型の場合、1年次のみ英語も学修します。2年次（第3～第4 Semester）では必修外国語としての英語はありません。

2 言語型でフランス語を選択した場合の必修外国語

1年次（フランス語週3回+英語週2回）				2年次（フランス語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
フランス語 I	3	フランス語 II	3	フランス語 III	3	フランス語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

2 言語型で中国語を選択した場合の必修外国語

1年次（中国語週3回+英語週2回）				2年次（中国語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
中国語 I	3	中国語 II	3	中国語 III	3	中国語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

2 言語型で韓国語を選択した場合の必修外国語

1年次（韓国語週3回+英語週2回）				2年次（韓国語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
韓国語 I	3	韓国語 II	3	韓国語 III	3	韓国語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

5. コース選択について

国際文化学科では、すべての学生が2年次からコースに分かれて所属します。コース選択は、学科専攻科目の卒業要件（=46単位のうち、所属コースが提供する科目から34単位以上を修得しなければなりません）や、演習（ゼミ）の選択に関係してきますので、入学直後の段階からコース選択の意識を強く持ち、納得のいく選択をできるようにしましょう。

各コースの概要

多文化共生：文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追求します。
世界と日本：「世界を学び、日本を知る」ことで、多面的な文化理解を志向します。
芸術・メディア：表現形式・手段としての芸術およびメディアの視点から文化を分析します。

コース選択の時期・方法、注意点など

- ① コース選択は1年次後期におこないます。3つのコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）から1つを選びます。コースの選択は、必修科目の「基礎演習B」の授業内（授業の一部として各コースの紹介や体験講義などが含まれます）でおこなわれます。また、1年次後期に、コース紹介を目的とした小冊子も作成・配布する予定です。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。
- ② 各コースの定員は概ね110人（一学年の定員を3コースで均等割した人数）ですが、コースの担当教員数等により、人数制限をする場合があります。希望者が制限人数を超えた場合の選抜方法については、別途掲示板等でお知らせします。
- ③ 所定の期間内にコースの選択（希望の登録）が学生本人によっておこなわれない場合、学部で所属コースを決定します。
- ④ コース選択は卒業要件単位と深く関係します。2年次から配当される学科専攻科目の卒業要件46単位のうち、34単位は所属コースが提供する科目から修得しなければなりません。学科専攻科目のうち、コース共通科目（主として外国語やキャリア系授業など）や他コース提供科目を修得した場合、12単位までは学科専攻科目の卒業要件単位として、それ以上の余剰単位はフリーゾーンで認定されます。なお、一部の科目については、所属コース以外の学生が履修できないものがあります。

6. 国際文化実践プログラムについて

「世界と日本をつなぐ人材」を目指す上で、言語・歴史・宗教・社会体制などのちがいに起因する文化間の壁を乗り越え、課題を解決するための実践的な学びの経験が必要かつ重要になります。そのため、国際文化学科では、「世界と日本をつなぐ人材」に求められる素養を、様々な実践の機会を通じて体得できるよう、必修科目として「国際文化実践プログラム」を導入しています。

国際文化実践プログラムは、事前学習に充てられる「国際文化実践プログラムⅠ」と、学生自身が選択する「国際文化実践プログラムⅡ」（実践学習）の二段階で構成されています。国際文化実践プログラムでは、学生自らが興味や関心にもとづき課題を設定し、他の受講者とも協働しながら、計画→実行→成果発表という一連の流れに主体的に取り組むことが大きな特色となっています。

概要

2年次前期（第3セメスター）に、所属コースごとに受講する「国際文化実践プログラムⅠ」（2単位）と、2年次後期（第4セメスター）以降に、コースに縛られずに受講する「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」（各2単位）があります。

国際文化実践プログラムⅠ（事前学習）

国際文化学科生の必修科目であり、学生は、2年次から所属するコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）ごとに受講します。各コース2クラスを開講するため、学生はどちらかのクラスを指定されます。

「国際文化実践プログラムⅠ」では、プログラムの意義や手続きの流れ、実践に際して必要となる手法（フィールドワークやインタビューなど）に関する講義がおこなわれます。併せて学生は、「国際文化実践プログラムⅡ」で取り組む実践学習の対象や方法を構想し、教員の指導や助言を受けながら、計画書を作成し、担当教員から了承を得ることが求められます。

なお、2年次前期に海外留学する場合は、メール等を通じて担当クラス教員から指導・助言（遠隔地指導）を受けます。

国際文化実践プログラムⅡ（実践学習）

学生は、国際実践プログラムⅠ修得後に、「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」のいずれかを必ず履修し（選択必修）、「国際文化実践プログラムⅠ」で作成した計画書にもとづく実践的な経験を積みます。実践学習終了後は、指定された期日までに報告書あるいは成果物を提出することが求められます。また、3年次生以降に履修する演習内での報告、基礎演習Bを受講中の後輩に対する報告なども予定しています。国際文化実践プログラムⅡの種類は以下のとおりです（いずれも2単位）。

① 国際文化実践プログラムⅡA（長期留学型）

- ・海外への長期留学を以て実践学習の機会とします。
- ・留学時期は原則として2年次後期以降、期間は1セメスター以上となります。

② 国際文化実践プログラムⅡB（短期語学研修型）

- ・国際学部の教員が企画し、海外の教育機関でおこなわれる語学研修への参加を以て実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり30～40名程度を定員とし、期間は3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践プログラムⅠ」終了後の夏期・春期休暇中になります。
- ・海外の語学研修では研修内容に応じて単位を取ることができですが、3単位以上を修得した場合、2単位分は「国際文化実践プログラムⅡB」として認定し、超過分は「語学研修（外国語）」科目として単位認定します。

<プログラム例>

短期英語研修（オーストラリア、マルタ共和国、フィリピン他）、短期フランス語研修（フランス・リール）、短期韓国語研修（韓国・ソウル）、短期中国語研修（中国・北京）など

③ 国際文化実践プログラムⅡC（短期国外文化研修型）

- ・各コースが企画する国外文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり20名程度を定員とし、期間は1～3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践プログラムⅠ」終了後の夏期・春期休暇中になります。
- ・国外文化研修では研修内容に応じて単位を取ることができますが、3単位以上を修得した場合、2単位分は「国際文化実践プログラムⅡC」として認定し、超過分は語学研修（外国語）、学科基礎科目または学科専攻科目に読み替えて単位を認定します。

<プログラム例>

アジア宗教文化研修、キリスト教美術研修、イスラーム文化研修、ヨーロッパ芸術文化研修など

④ 国際文化実践プログラムⅡD（短期国内文化研修型）

- ・各コースが企画する国内文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり20名程度を定員とし、期間は1～3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践プログラムⅠ」終了後の夏期・春期休暇中になります。
- ・国外文化研修では研修内容に応じて単位を取ることができますが、3単位以上を修得した場合、2単位分は「国際文化実践プログラムⅡD」として認定し、超過分は学科基礎科目または学科専攻科目に読み替えて単位を認定します。

<プログラム例>

日本文化・京都学研修、東アジアからの文化伝播ルート研修（九州）など

⑤ 国際文化実践プログラムⅡE（集中講義型）

- ・各コースが指定した夏期集中講義の受講を以て実践学習の機会とします。
- ・夏季集中講義の内容に応じて受講人数に制限がかけられる場合があります。

<プログラム例>

専門家との協働による映像・演劇作品制作、フィールド実習（屋久島）など

⑥ 国際文化実践プログラムⅡF（インターンシップ型）

- ・企業や団体等のインターンシップへの参加を以て実践学習の機会とします。
- ・公益財団法人「大学コンソーシアム京都」実施のインターンシップ・プログラムや協定型インターンシップのほか、各コースが企画または指定するインターンシップも対象とします。各コース企画または指定のインターンシップの詳細については、別途掲示板等でお知らせします。
- ・インターンシップでは研修内容に応じて単位を取ることができますが、3単位以上を修得した場合、2単位分は「国際文化実践プログラムⅡF」として認定し、超過分は学科基礎科目または学科専攻科目に読み替えて単位を認定します。

⑦ 国際文化実践プログラムⅡG（自己応募型）

- ・上記A～Fのいずれにも該当しないパターンで、教員の指導・助言を受けながら進める自発的な取り組みを以て実践学習の機会とします。
- ・夏期・春期休暇中のほか、他の授業に支障のない範囲で授業実施期間中に取り組むこともあります。また、内容によっては一般的な授業の形式を採る場合もあります。
- ・3単位以上を修得した場合、2単位分は「国際文化実践プログラムⅡG」として認定し、超過分は学科基礎科目または学科専攻科目に読み替えて単位を認定します。

※国際文化実践プログラムⅠ（事前学習）については、2年次から所属するコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）ごとに受講します。各コース2クラスを開講するため、学生はどちらかのクラスを指定されます。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。

※国際文化実践プログラムⅡ（実践学習）については、国際実践プログラムⅠ修得後に履修し、「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」のいずれかを選択します。履修登録の時期・方法等の詳細については、「国際文化実践プログラムⅠ」の授業内や掲示板等でお知らせします。

7. 演習および卒業論文の履修方法

「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」は3～4年次に配当され、同一の演習担当教員の指導の下、少人数（約20人）で調査や研究を進める科目で、一般に「ゼミ」とも呼ばれます。「卒業論文」（教員によっては卒業制作も可）は、大学における学修の集大成であり、演習と並行して取り組みます。なお、演習および卒業論文は必修科目ではありませんが、「演習Ⅰ」は全員が履修登録します。

※所属する演習の選考は2年次後期（第4セメスター）におこなわれる予定です。

詳細については、別途掲示板等でお知らせします。

※所属コースによって選択できる演習に制限があります。原則として所属コース教員の演習を選択しますが、演習ごとにコースを指定して他コースからも受講を認めています。他コース教員の演習・卒業論文を修得した場合、学科専攻科目のうち、自身の所属コースから修得しなければならない34単位の一部としてカウントします。

8. 必修科目の再履修について

必修科目を不合格となった場合、再度履修すること（再履修）が必要となります。科目によって再履修上のルールがありますので、再履修の場合はそれにしてください。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。また、不明な点は国際学部教務課で確認するようにしてください。

① 「基礎演習A」および「基礎演習B」

「基礎演習A・B」を再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。

② 「学科外国語科目」（必修外国語）

「学科外国語」を再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。

③ 「仏教の思想A」および「仏教の思想B」の再履修

「仏教の思想A・B」を再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。

なお、3年次生以上は、同一セメスターにおいて、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」を同時に履修することが可能です。

学 期	科 目 名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B（再）」
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A（再）」

9. 国際文化学科における先修制

先修制とは、その科目の学修成果を高めるために設けられた「学修の順序」であり、ある科目を履修する場合に、特別に指定された別の科目をすでに履修（単位を修得）していなければ、その科目を履修できない

制度です。したがって、ある科目と、その科目の履修要件となっている科目（先修科目）を、同一学期において同時に履修することはできません。

国際文化学科で先修制を採用しているのは、学科外国語科目（必修外国語）、国際文化実践プログラムⅠ～Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅳです。具体的な先修制の関係は以下のとおりです。

【必修外国語・英語】

授業科目名	履修要件となる授業科目名
EC II-Speaking	EC I-Speaking
EC II-Writing	EC I-Writing
EC II-Reading	EC I-Reading
EC III-Speaking	EC II-Speaking
EC III-Writing	EC II-Writing
EC III-Reading	EC II-Reading
EC IV-Speaking	EC III-Speaking
EC IV-Writing	EC III-Writing
EC IV-Reading	EC III-Reading
EC II-Seminar A	EC I-Seminar A
EC II-Seminar B	EC I-Seminar B

※EC：English Communicationの略

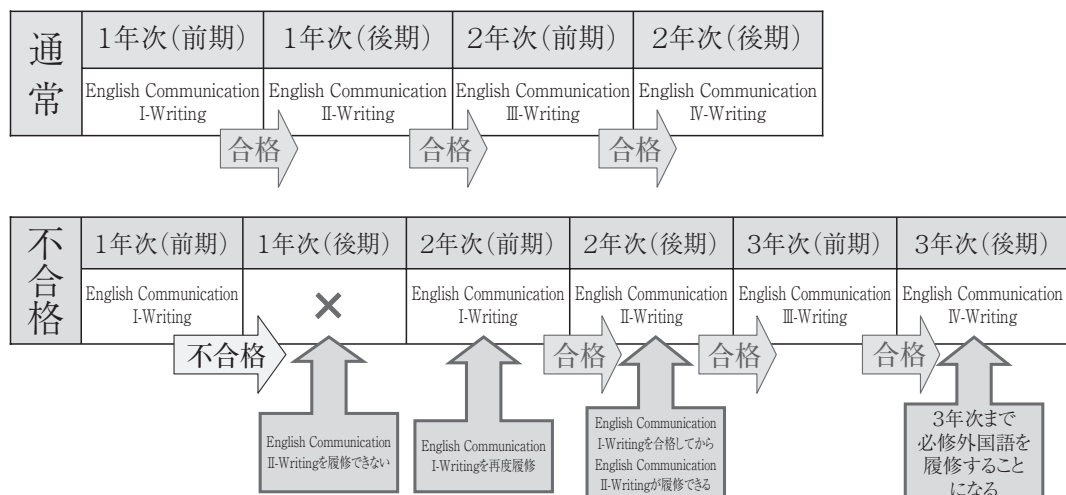
【国際文化実践プログラム】

国際文化実践プログラムⅡ	国際文化実践プログラムⅠ
--------------	--------------

⚠ 注意事項

※フランス語・中国語・韓国語・日本語を「外国語」と表記しています。

〈参考〉先修制について



【必修外国語・初修外国語】

授業科目名	履修要件となる授業科目名
外国語Ⅱ	外国語Ⅰ
外国語Ⅲ	外国語Ⅱ
外国語Ⅳ	外国語Ⅲ

※フランス語、中国語、韓国語

【演習】

演習Ⅱ	演習Ⅰ
演習Ⅲ	演習Ⅱ
演習Ⅳ	演習Ⅲ

10. グレードナンバー制

国際学部で開設される授業科目には、グレードナンバーが付されています。これは科目のレベルを簡明に表示したものです。

みなさんは学修計画の設計にあたって、参考にしてください。

(1) 国際文化学科提供科目のグレードナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレードナンバーが設定されています。このグレードナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) English Communication I -Speaking (C1101X)

$\frac{C}{①}$ $\frac{1}{②}$ $\frac{1}{③}$ $\frac{01}{④}$ $\frac{X}{⑤}$

- ①開設学科を表します：C=国際文化学科 / G=グローバルスタディーズ学科
- ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
- ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専攻（コース共通）、4=学科専攻（多文化共生）、5=学科専攻（世界と日本）、6=学科専攻（芸術・メディア）、7=演習、8=卒業論文、9=国際文化実践プログラム
- ④科目番号を表します：1-99
- ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(2) グローバルスタディーズ学科開設科目のグレードナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレードナンバーが設定されています。このグレードナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) 英語 (Reading) I (G1101B)

$\frac{G}{①}$ $\frac{1}{②}$ $\frac{1}{③}$ $\frac{01}{④}$ $\frac{B}{⑤}$

- ①開設学科を表します：G=グローバルスタディーズ学科 / C=国際文化学科
- ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
- ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専門、4=演習、8=留学、9=その他
- ④学問領域を表します：10～=C分野、20～=G分野、30～=E分野、40～=C+G分野、50～=C+E分野、60～=G+E分野、70～=C+G+E分野、80/90～=その他
- ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(3) 教養教育科目のグレードナンバーについて

以下の基準で、3桁の数字のグレードナンバーが設定されています。

	基 礎 \longrightarrow 応 用				
グレード	100	200	300	400	500

11. 開設科目

○は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です(一部例外あり)。
(例：1年次配当科目であれば、2年次生・3年次生も受講可能)

■教養教育科目

分野等	授業科目名	ナン ブレ ード	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
教 養 教 育	仏教の思想A	200	2	○								必修
	仏教の思想B	200	2		○							必修
	心の科学	200	2	○	○							予備登録対象科目
	哲学思想	200	2				○					予備登録対象科目
	倫理思想	200	2		○							予備登録対象科目
	教育原論A	200	2			○						予備登録対象科目
	教育原論B	200	2				○					予備登録対象科目
	学習・発達論A	200	2			○						予備登録対象科目
	学習・発達論B	200	2				○					予備登録対象科目
	教育学のすすめ	200	2	○								予備登録対象科目
	ヨーロッパの歴史A	200	4	○								予備登録対象科目
	ヨーロッパの歴史B	300	2			○	○					予備登録対象科目
	欧米の文学芸術	200	2			○	○					予備登録対象科目
	世界の宗教A	200	2	○								予備登録対象科目
	世界の宗教B	200	2		○							予備登録対象科目
	宗教と文化	200	4				○					通年科目・予備登録対象科目
	日本の歴史	200	4		○							予備登録対象科目
	日本の文化	200	4				○					予備登録対象科目
	日本の文学	200	2			○						予備登録対象科目
	アジアの歴史	200	4	○								予備登録対象科目
	中国の文学	200	2	○								予備登録対象科目
	宗教学入門	100	2	○								予備登録対象科目
	哲学入門	100	2	○								予備登録対象科目
	倫理学入門	100	2	○								予備登録対象科目
	論理学入門	100	2	○								予備登録対象科目
	歎異抄の思想I	200	2			○						予備登録対象科目
	歎異抄の思想II	200	2				○					予備登録対象科目
	言語と文化	200	2	○	○							予備登録対象科目
	人権論A	200	2	○								
	人権論B	200	2		○							
	ジェンダー論	200	2	○								予備登録対象科目
	現代社会と政治	100	2	○								予備登録対象科目
	日本国憲法	200	2	○								予備登録対象科目
	現代司法の実際	300	2	○								予備登録対象科目
	社会統計学I	200	2	○								予備登録対象科目
	社会統計学II	200	2		○							予備登録対象科目
	情報社会論	300	2				○					予備登録対象科目
	メディア論	200	2			○	○					予備登録対象科目
	経済学のすすめ	100	2		○							予備登録対象科目
	社会学のすすめ	200	2		○							予備登録対象科目
	時間と空間の科学	200	2	○								予備登録対象科目
	人類進化学	200	2			○						予備登録対象科目
	環境論	200	4		○							通年科目・予備登録対象科目
	生物と環境	200	4		○							通年科目・予備登録対象科目
	里山学	200	2		○							予備登録対象科目
確率・統計入門	100	2	○								予備登録対象科目	
自然科学史	200	2	○								予備登録対象科目	
数学入門	100	2	○								予備登録対象科目	
数学への旅	100	2	○								予備登録対象科目	
物質の科学	100	4		○							予備登録対象科目	
生物学のすすめ	200	4		○							通年科目・予備登録対象科目	
人類学のすすめ	100	4	○								予備登録対象科目	
銀河と宇宙	100	4	○								予備登録対象科目	
スポーツ技術学演習	100	2	○								予備登録対象科目	
人間とスポーツ	100	2	○								予備登録対象科目	
健康とスポーツ	200	2			○						予備登録対象科目	
スポーツ文化史	200	2			○						予備登録対象科目	
現代社会とスポーツ	100	2	○								予備登録対象科目	
スポーツと人権・平和	200	2				○					予備登録対象科目	
海外英語研修	-	2		○							1年次生と2年次生のみ履修可	
教養教育科目特別講義	300	2	○								予備登録対象科目	
教養教育科目特別講義	300	4	○								予備登録対象科目	

■学科外国語科目

分野等	授業科目名	ナンバード	単位	1年		2年		3年		4年		備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
外国語	English Communication I -Speaking	C1101X	1	○								選択必修
	English Communication I -Writing	C1102X	1	○								選択必修
	English Communication I -Reading	C1103X	1	○								選択必修
	English Communication I -Seminar A	C1104X	2	○								必修
	English Communication I -Seminar B	C1105X	2	○								必修
	English Communication II -Speaking	C1106X	1		○							選択必修
	English Communication II -Writing	C1107X	1		○							選択必修
	English Communication II -Reading	C1108X	1		○							選択必修
	English Communication II -Seminar A	C1109X	2		○							必修
	English Communication II -Seminar B	C1110X	2		○							必修
	English Communication III -Speaking	C2111X	1			○						選択必修
	English Communication III -Writing	C2112X	1			○						選択必修
	English Communication III -Reading	C2113X	1			○						選択必修
	English Communication IV -Speaking	C2114X	1				○					選択必修
	English Communication IV -Writing	C2115X	1				○					選択必修
	English Communication IV -Reading	C2116X	1				○					選択必修
	フランス語 I	C1117X	3	○								選択必修
	フランス語 II	C1118X	3		○							選択必修
	フランス語 III	C2119X	3			○						選択必修
	フランス語 IV	C2120X	3				○					選択必修
	中国語 I	C1121X	3	○								選択必修
	中国語 II	C1122X	3		○							選択必修
	中国語 III	C2123X	3			○						選択必修
	中国語 IV	C2124X	3				○					選択必修
	韓国語 I	C1125X	3	○								選択必修
	韓国語 II	C1126X	3		○							選択必修
	韓国語 III	C2127X	3			○						選択必修
	韓国語 IV	C2128X	3				○					選択必修
	日本語 I	C1129X	3	○								留学生のみ
	日本語 II	C1130X	3		○							留学生のみ
	日本語 III	C2131X	3			○						留学生のみ
	日本語 IV	C2132X	3				○					留学生のみ
	日本語セミナー A	C1133X	2	○								留学生のみ
	日本語セミナー B	C1134X	2	○								留学生のみ
	日本語セミナー C	C1135X	2		○							留学生のみ
	日本語セミナー D	C1136X	2		○							留学生のみ
選択	バークレー語学	C1137X	12	○								
	語学研修 A (英語)	C1138X	2	○								
	語学研修 B (英語)	C1139X	4	○								
	語学研修 A (フランス語)	C1140X	2	○								
	語学研修 B (フランス語)	C1141X	4	○								
	語学研修 A (中国語)	C1142X	2	○								
	語学研修 B (中国語)	C1143X	4	○								
	語学研修 A (韓国語)	C1144X	2	○								
語学研修 B (韓国語)	C1145X	4	○									

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

■学科専攻科目

分野等	コース	授業科目名	ナンバード	単位	1年		2年		3年		4年		備考		
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
学 科 基 礎		基礎演習A	C1201X	2	○								必修		
		基礎演習B	C1202X	2		○								必修	
		調査分析の基礎A	C1203X	2	○									事前登録対象科目	
		調査分析の基礎B	C1204X	2		○								事前登録対象科目	
		キャリア・ガイダンス	C1205X	2	○									事前登録対象科目	
		多文化共生入門	C1206X	2	○										
		多文化交流入門	C1207X	2		○									
		宗教学概論	C1208X	2	○										
		自然人類学概論	C1209X	2	○										
		環境共生論入門	C1210X	2		○									
		まちづくり入門	C1211X	2	○										
		社会心理学	C1212X	2		○									
		言語とこころ入門	C1213X	2	○										
		「世界と日本」入門	C1214X	2	○										
		東アジアの地域交流	C1215X	2		○									
		現代経済と文化	C1216X	2		○									
		文化人類学入門	C1217X	2	○										
		日本語論文表現（初級）	C1218X	2		○									
		日本語論文表現（上級）	C1219X	2		○									
		芸術・メディア入門	C1220X	2	○										
		映像文化入門	C1221X	2		○									
		大衆文化入門	C1222X	2	○										
		メディア文化入門	C1223X	2		○									
		比較演劇入門	C1224X	2		○									
		物語と文学	C1225X	2		○									
		比較文化入門	C1226X	2	○										
学 科 通 用		English Workshop A	C2301X	2			○						事前登録対象科目		
		English Workshop B	C2302X	2			○						事前登録対象科目		
		English Workshop C	C2303X	2				○					事前登録対象科目		
		English Workshop D	C2304X	2				○					事前登録対象科目		
		上級英語A	C3305X	2					○				事前登録対象科目		
		上級英語B	C3306X	2						○			事前登録対象科目		
		Advanced English A	C3307X	2						○			事前登録対象科目		
		Advanced English B	C3308X	2						○			事前登録対象科目		
		Advanced English C	C3309X	2							○		事前登録対象科目		
		Advanced English D	C3310X	2							○		事前登録対象科目		
		フランス語セミナーⅠ	C2311X	4			○								
		フランス語セミナーⅡ	C2312X	4				○							
		フランス語セミナーⅢ	C3313X	4					○						
		中国語セミナーⅠ	C2314X	4			○								
		中国語セミナーⅡ	C2315X	4				○							
		中国語セミナーⅢ	C3316X	4					○						
		コリア語セミナーⅠ	C2317X	4			○								
		コリア語セミナーⅡ	C2318X	4				○							
		コリア語セミナーⅢ	C3319X	4					○						
		日本語セミナーE	C3320X	2						○					
		日本語セミナーF	C3321X	2						○					
		日本語セミナーG	C3322X	2							○				
		日本語セミナーH	C3323X	2							○				
		ベルシア語セミナーⅠ	C2324X	4			○								
		ベルシア語セミナーⅡ	C2325X	4				○							
		トルコ語セミナーⅠ	C2326X	2			○								
トルコ語セミナーⅡ	C2327X	2				○									
アラビア語セミナーⅠ	C2328X	2			○										
アラビア語セミナーⅡ	C2329X	2				○									
スペイン語セミナーⅠ	C2330X	2			○							事前登録対象科目			
スペイン語セミナーⅡ	C2331X	2				○						事前登録対象科目			
ドイツ語セミナーⅠ	C2332X	2			○							事前登録対象科目			
ドイツ語セミナーⅡ	C2333X	2				○						事前登録対象科目			
ロシア語セミナーⅠ	C2334X	2			○							事前登録対象科目			
ロシア語セミナーⅡ	C2335X	2				○						事前登録対象科目			

分野等	コース	授業科目名	ナンバード	単位	1年		2年		3年		4年		備考	
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
学 科 専 攻	共通	ロシア語セミナーⅢ	C3336X	2					○				事前登録対象科目	
		ロシア語セミナーⅣ	C3337X	2						○			事前登録対象科目	
		ポルトガル語セミナーⅠ	C2338X	2			○						事前登録対象科目	
		ポルトガル語セミナーⅡ	C2339X	2				○					事前登録対象科目	
		ポルトガル語セミナーⅢ	C3340X	2					○				事前登録対象科目	
		ポルトガル語セミナーⅣ	C3341X	2						○			事前登録対象科目	
		実践フランス語A	C2342X	2				○						
		実践フランス語B	C2343X	2				○						
		実践フランス語C	C3344X	2						○				
		実践フランス語D	C3345X	2						○				
		実践中国語A	C2346X	2				○						
		実践中国語B	C2347X	2				○						
		実践中国語C	C3348X	2						○				
		実践中国語D	C3349X	2						○				
	実践韓国語A	C2350X	2				○							
	実践韓国語B	C2351X	2				○							
	実践韓国語C	C3352X	2						○					
	実践韓国語D	C3353X	2						○					
	多 文 化 専 攻	住居学概論	C2401X	2			○							
		居住環境概論	C2402X	2				○						
		多文化交流論A	C2403X	2			○							
		多文化交流論B	C2404X	2				○						
		多文化共生と宗教	C2405X	2				○						
		キリスト教の文化A	C2406X	2			○							
		キリスト教の文化B	C2407X	2				○						
		環境人類学	C2408X	2			○							
		環境保全論	C2409X	2				○						
		フィールド実習	C2410X	2				○						事前登録対象科目
		中東政治論	C2411X	2				○						
		イスラームの文化A	C2412X	2			○							
		イスラームの文化B	C3413X	2						○				
		イスラームの社会A	C2414X	2			○							
		イスラームの社会B	C3415X	2						○				
		言語とこころA	C2416X	2			○							
		言語とこころB	C2417X	2				○						
		音声学概論	C2418X	2				○						事前登録対象科目
NGO/NPO論		C2419X	2				○							
国際政治学入門		C2420X	2				○							
都市計画論		C3421X	2						○					
比較宗教思想		C3422X	2						○					
自然と文化	C3423X	2						○						
社会調査法	C3424X	2						○						
英語外書講読A	C3425X	2						○				事前登録対象科目		
英語外書講読B	C3426X	2						○				事前登録対象科目		
比較言語学	C3427X	2						○						
Exploring Cultures	C2428E	2				○								
世 界 と 日 本	世界の宗教と日本	C2501X	2			○								
	日本の宗教	C2502X	2			○								
	日本の仏教文化	C3503X	2					○						
	アジアの仏教文化	C2504X	2			○								
	アジアの文化遺産	C2505X	2			○								
	東アジアの古代文化	C3506X	2					○						
	中央アジアと日本	C3507X	2					○						
	日本の経済と社会	C2508X	2			○								
	国際人口移動	C2509X	2			○								
	国際経済と日本	C3510X	2					○						
海外における日本観	C2511X	2			○									
オセアニアと日本	C2512X	2			○									
パンパシフィックの移民	C3513X	2						○						
日本の社会	C3514X	2						○						
日本の言語文化	C2515X	2			○									
日本語からみた歴史と文化	C2516X	2			○									

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修生活
引きのQ
&
A教
員付
録

履修の心得
教育課程
卒業論文
諸課程
学修生活の
Q & A
教員付録

分野等	コース	授業科目名	ナンバード	単位	1年		2年		3年		4年		備考
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
世界と日本		日本語教育入門	C2517X	2				○					
		日本語教育実践	C2518X	2				○					
		日本の思想	C2519X	2				○					
		日本の近現代と国際関係	C2520X	2				○					
		京ことばと京文化	C2521X	2				○					
		世界と日本の民俗	C3522X	2						○			
		観光行動論	C2523X	2				○					
		観光経営論	C2524X	2				○					
		観光文化論	C3525X	2						○			
		世界と日本の文学	C2526X	2				○					
		Comparative Culture	C2527E	2				○					
芸術・メディア		映像文化論A	C2601X	2			○						
		映像文化論B	C2602X	2				○					
		映像文化論C	C3603X	2					○				
		映像文化論D	C3604X	2					○				
		映像文化論E	C3605X	2						○			
		大衆文化論A	C2606X	2			○						
		大衆文化論B	C2607X	2			○						
		大衆文化論C	C2608X	2				○					
		大衆文化論D	C2609X	2				○					
		大衆文化論E	C3610X	2						○			
メディア		メディア文化論A	C2611X	2			○						
		メディア文化論B	C2612X	2			○						
		メディア文化論C	C2613X	2				○					
		メディア文化論D	C3614X	2					○				
		芸術表現法A	C2615X	2			○						事前登録対象科目
		芸術表現法B	C2616X	2				○					事前登録対象科目
		芸術表現法C	C2617X	2			○						事前登録対象科目
		芸術表現法D	C2618X	2				○					事前登録対象科目
		芸術表現法E	C3619X	2					○				事前登録対象科目
		日本の美術	C2620X	2			○						
アジアの美術	C2621X	2				○							
西洋の美術	C2622X	2				○							
音楽芸術論	C2623X	2				○							
アートマネジメント	C2624X	2			○								
伝統芸能論	C2625X	2				○							
欧米の演劇	C3626X	2						○					
共通		グローバル時代のキャリア設計	C2354X	2				○					
		パークレー講義	C1355X	6	○								
		パークレーボランティア	C1356X	6	○								
		SNSを活用した異文化交流実践	C2357X	2			○	○					登録必修
													履修辞退不可
演習		演習Ⅰ	C3701X	2					○				
		演習Ⅱ	C3702X	2						○			
		演習Ⅲ	C4703X	2							○		
		演習Ⅳ	C4704X	2								○	
卒業論文	C4801X	6								○			
専攻		会話分析入門A	G2311B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		会話分析入門B	G2312B	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		心理言語学	G3354B	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
		応用言語学	G3355B	2						○			グローバルスタディーズ学科提供科目
		Contemporary Literature	G2314E	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		国際関係入門	G2321E	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		Introduction to Sociolinguistics	G2351B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		Introduction to Cultural Anthropology	G2352E	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバリゼーションとアフリカ	G2367B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバリゼーションと東アジア	G2362E	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバリゼーションと南アジア	G2363B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバリゼーションとヨーロッパ	G2364B	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		国際政治経済学	G3372B	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
		異文化間コミュニケーション論	G2371J	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目

分野等	コース	授業科目名	ナンバード	単位	1年		2年		3年		4年		備考
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
国際文化実践プログラム		国際文化実践プログラムⅠ	C2901X	2			○						必修
		国際文化実践プログラムⅡA	C2902X	2				○					選択必修
		国際文化実践プログラムⅡB	C2903X	2				○					選択必修
		国際文化実践プログラムⅡC	C2904X	2				○					選択必修
		国際文化実践プログラムⅡD	C2905X	2				○					選択必修
		国際文化実践プログラムⅡE	C2906X	2				○					選択必修
		国際文化実践プログラムⅡF	C2907X	2				○					選択必修
	国際文化実践プログラムⅡG	C2908X	2				○					選択必修	

⚠ 注意事項

1. 9月入学については下欄を注意してください。

★後期入学生の「学年」と「科目の学年配置」について

9月入学の学生は、入学の翌年度も学年表示は1年次となります（つまり、1年次を1年半続けることとなります。これは年度の途中で学年の進行ができないためです）。

ただし、4月入学と同様に、入学の翌年度は2年次配当の科目を登録・履修することが可能です。

（例：入学の翌年度も1年次だが、開設科目一覧の「2年次」配当の科目が履修可能）

ただし、「外国語」は、先修制を取っているため、上記とは考え方が異なります（P.43「9. 国際文化学科における先修制」参照）。

〈参考〉国際文化学科 英文科目名一覧

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
外国語	English Communication I-Speaking	English Communication I-Speaking	C1101X
外国語	English Communication I-Writing	English Communication I-Writing	C1102X
外国語	English Communication I-Reading	English Communication I-Reading	C1103X
外国語	English Communication I-Seminar A	English Communication I-Seminar A	C1104X
外国語	English Communication I-Seminar B	English Communication I-Seminar B	C1105X
外国語	English Communication II-Speaking	English Communication II-Speaking	C1106X
外国語	English Communication II-Writing	English Communication II-Writing	C1107X
外国語	English Communication II-Reading	English Communication II-Reading	C1108X
外国語	English Communication II-Seminar A	English Communication II-Seminar A	C1109X
外国語	English Communication II-Seminar B	English Communication II-Seminar B	C1110X
外国語	English Communication III-Speaking	English Communication III-Speaking	C2111X
外国語	English Communication III-Writing	English Communication III-Writing	C2112X
外国語	English Communication III-Reading	English Communication III-Reading	C2113X
外国語	English Communication IV-Speaking	English Communication IV-Speaking	C2114X
外国語	English Communication IV-Writing	English Communication IV-Writing	C2115X
外国語	English Communication IV-Reading	English Communication IV-Reading	C2116X
外国語	French I	フランス語 I	C1117X
外国語	French II	フランス語 II	C1118X
外国語	French III	フランス語 III	C2119X
外国語	French IV	フランス語 IV	C2120X
外国語	Chinese I	中国語 I	C1121X
外国語	Chinese II	中国語 II	C1122X
外国語	Chinese III	中国語 III	C2123X
外国語	Chinese IV	中国語 IV	C2124X
外国語	Korean I	コリア語 I	C1125X
外国語	Korean II	コリア語 II	C1126X
外国語	Korean III	コリア語 III	C2127X
外国語	Korean IV	コリア語 IV	C2128X
外国語	Japanese I	日本語 I	C1129X
外国語	Japanese II	日本語 II	C1130X
外国語	Japanese III	日本語 III	C2131X
外国語	Japanese IV	日本語 IV	C2132X
外国語	Japanese Seminar A	日本語セミナー A	C1133X
外国語	Japanese Seminar B	日本語セミナー B	C1134X
外国語	Japanese Seminar C	日本語セミナー C	C1135X
外国語	Japanese Seminar D	日本語セミナー D	C1136X
外国語	Berkeley, English Language Fluency	バークレー語学	C1137X
外国語	Overseas Language Program A (English)	語学研修A (英語)	C1138X
外国語	Overseas Language Program B (English)	語学研修B (英語)	C1139X
外国語	Overseas Language Program A (French)	語学研修A (フランス語)	C1140X
外国語	Overseas Language Program B (French)	語学研修B (フランス語)	C1141X
外国語	Overseas Language Program A (Chinese)	語学研修A (中国語)	C1142X
外国語	Overseas Language Program B (Chinese)	語学研修B (中国語)	C1143X
外国語	Overseas Language Program A (Korean)	語学研修A (コリア語)	C1144X
外国語	Overseas Language Program B (Korean)	語学研修B (コリア語)	C1145X
学科基礎	Foundation Seminar A	基礎演習A	C1201X
学科基礎	Foundation Seminar B	基礎演習B	C1202X
学科基礎	Fundamental Research Methods A	調査分析の基礎A	C1203X
学科基礎	Fundamental Research Methods B	調査分析の基礎B	C1204X

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 基 礎	Career Guidance	キャリア・ガイダンス	C1205X
学 科 基 礎	Introduction to Multicultural Cooperation	多文化共生入門	C1206X
学 科 基 礎	Introduction to Multicultural Experiences	多文化交流入門	C1207X
学 科 基 礎	Introduction to Religious Studies	宗教学概論	C1208X
学 科 基 礎	Introduction to Biological Anthropology	自然人類学概論	C1209X
学 科 基 礎	Introduction to Environmental Co-existence	環境共生論入門	C1210X
学 科 基 礎	Introduction to Community Planning	まちづくり入門	C1211X
学 科 基 礎	Social Psychology	社会心理学	C1212X
学 科 基 礎	Introduction to Language and Mind	言語とこころ入門	C1213X
学 科 基 礎	Introduction to "The World and Japan"	「世界と日本」入門	C1214X
学 科 基 礎	Regional Exchanges in Eastern Asia	東アジアの地域交流	C1215X
学 科 基 礎	Modern Economy and Culture	現代経済と文化	C1216X
学 科 基 礎	Introduction to Cultural Anthropology	文化人類学入門	C1217X
学 科 基 礎	Academic Writing in Japanese (Introductory)	日本語論文表現 (初級)	C1218X
学 科 基 礎	Academic Writing in Japanese (Advanced)	日本語論文表現 (上級)	C1219X
学 科 基 礎	Introduction to Arts and Media Studies	芸術・メディア入門	C1220X
学 科 基 礎	Introduction to Visual Culture	映像文化入門	C1221X
学 科 基 礎	Introduction to Popular Culture	大衆文化入門	C1222X
学 科 基 礎	Introduction to Media and Culture	メディア文化入門	C1223X
学 科 基 礎	Introduction to Comparative Theatre	比較演劇入門	C1224X
学 科 基 礎	Narrative and Literature	物語と文学	C1225X
学 科 基 礎	Introduction to Comparative Culture	比較文化入門	C1226X
学 科 専 攻	English Workshop A	English Workshop A	C2301X
学 科 専 攻	English Workshop B	English Workshop B	C2302X
学 科 専 攻	English Workshop C	English Workshop C	C2303X
学 科 専 攻	English Workshop D	English Workshop D	C2304X
学 科 専 攻	Upper Level English A	上級英語A	C3305X
学 科 専 攻	Upper Level English B	上級英語B	C3306X
学 科 専 攻	Advanced English A	Advanced English A	C3307X
学 科 専 攻	Advanced English B	Advanced English B	C3308X
学 科 専 攻	Advanced English C	Advanced English C	C3309X
学 科 専 攻	Advanced English D	Advanced English D	C3310X
学 科 専 攻	French Seminar I	フランス語セミナー I	C2311X
学 科 専 攻	French Seminar II	フランス語セミナー II	C2312X
学 科 専 攻	French Seminar III	フランス語セミナー III	C3313X
学 科 専 攻	Chinese Seminar I	中国語セミナー I	C2314X
学 科 専 攻	Chinese Seminar II	中国語セミナー II	C2315X
学 科 専 攻	Chinese Seminar III	中国語セミナー III	C3316X
学 科 専 攻	Korean Seminar I	コリア語セミナー I	C2317X
学 科 専 攻	Korean Seminar II	コリア語セミナー II	C2318X
学 科 専 攻	Korean Seminar III	コリア語セミナー III	C3319X
学 科 専 攻	Japanese Seminar E	日本語セミナー E	C3320X
学 科 専 攻	Japanese Seminar F	日本語セミナー F	C3321X
学 科 専 攻	Japanese Seminar G	日本語セミナー G	C3322X
学 科 専 攻	Japanese Seminar H	日本語セミナー H	C3323X
学 科 専 攻	Persian Seminar I	ペルシア語セミナー I	C2324X
学 科 専 攻	Persian Seminar II	ペルシア語セミナー II	C2325X
学 科 専 攻	Turkish Seminar I	トルコ語セミナー I	C2326X
学 科 専 攻	Turkish Seminar II	トルコ語セミナー II	C2327X

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Arabic Seminar I	アラビア語セミナー I	C2328X
学 科 専 攻	Arabic Seminar II	アラビア語セミナー II	C2329X
学 科 専 攻	Spanish Seminar I	スペイン語セミナー I	C2330X
学 科 専 攻	Spanish Seminar II	スペイン語セミナー II	C2331X
学 科 専 攻	German Seminar I	ドイツ語セミナー I	C2332X
学 科 専 攻	German Seminar II	ドイツ語セミナー II	C2333X
学 科 専 攻	Russian Seminar I	ロシア語セミナー I	C2334X
学 科 専 攻	Russian Seminar II	ロシア語セミナー II	C2335X
学 科 専 攻	Russian Seminar III	ロシア語セミナー III	C3336X
学 科 専 攻	Russian Seminar IV	ロシア語セミナー IV	C3337X
学 科 専 攻	Portuguese Seminar I	ポルトガル語セミナー I	C2338X
学 科 専 攻	Portuguese Seminar II	ポルトガル語セミナー II	C2339X
学 科 専 攻	Portuguese Seminar III	ポルトガル語セミナー III	C3340X
学 科 専 攻	Portuguese Seminar IV	ポルトガル語セミナー IV	C3341X
学 科 専 攻	Practical French Language A	実践フランス語A	C2342X
学 科 専 攻	Practical French Language B	実践フランス語B	C2343X
学 科 専 攻	Practical French Language C	実践フランス語C	C3344X
学 科 専 攻	Practical French Language D	実践フランス語D	C3345X
学 科 専 攻	Practical Chinese Language A	実践中国語A	C2346X
学 科 専 攻	Practical Chinese Language B	実践中国語B	C2347X
学 科 専 攻	Practical Chinese Language C	実践中国語C	C3348X
学 科 専 攻	Practical Chinese Language D	実践中国語D	C3349X
学 科 専 攻	Practical Korean Language A	実践韓国語A	C2350X
学 科 専 攻	Practical Korean Language B	実践韓国語B	C2351X
学 科 専 攻	Practical Korean Language C	実践韓国語C	C3352X
学 科 専 攻	Practical Korean Language D	実践韓国語D	C3353X
学 科 専 攻	Introduction to Design and Theory of Your Life Space	住居学概論	C2401X
学 科 専 攻	Introduction to Living Environment	居住環境概論	C2402X
学 科 専 攻	Multicultural Experiences A	多文化交流論A	C2403X
学 科 専 攻	Multicultural Experiences B	多文化交流論B	C2404X
学 科 専 攻	Multicultural Cooperation and Religion	多文化共生と宗教	C2405X
学 科 専 攻	Culture of Christianity A	キリスト教の文化A	C2406X
学 科 専 攻	Culture of Christianity B	キリスト教の文化B	C2407X
学 科 専 攻	Environmental Anthropology	環境人類学	C2408X
学 科 専 攻	Environmental Conservation	環境保全論	C2409X
学 科 専 攻	Fieldwork	フィールド実習	C2410X
学 科 専 攻	Middle Eastern Politics	中東政治論	C2411X
学 科 専 攻	Islamic Culture A	イスラームの文化A	C2412X
学 科 専 攻	Islamic Culture B	イスラームの文化B	C3413X
学 科 専 攻	Islamic Society A	イスラームの社会A	C2414X
学 科 専 攻	Islamic Society B	イスラームの社会B	C3415X
学 科 専 攻	Language and Mind A	言語とこころA	C2416X
学 科 専 攻	Language and Mind B	言語とこころB	C2417X
学 科 専 攻	Introduction to Phonetics	音声学概論	C2418X
学 科 専 攻	Third Sector Studies	NGO/NPO論	C2419X
学 科 専 攻	Introduction to International Politics	国際政治学入門	C2420X
学 科 専 攻	Introduction to Urban Planning	都市計画論	C3421X
学 科 専 攻	Comparative Religion	比較宗教思想	C3422X
学 科 専 攻	Nature and Culture	自然と文化	C3423X

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Social Research Methods	社会調査法	C3424X
学 科 専 攻	Intensive English Reading A	英語外書講読A	C3425X
学 科 専 攻	Intensive English Reading B	英語外書講読B	C3426X
学 科 専 攻	Comparative Linguistics	比較言語学	C3427X
学 科 専 攻	Exploring Cultures	Exploring Cultures	C2428E
学 科 専 攻	World Religions and Japan	世界の宗教と日本	C2501X
学 科 専 攻	Religions in Japan	日本の宗教	C2502X
学 科 専 攻	Buddhist Culture in Japan	日本の仏教文化	C3503X
学 科 専 攻	Buddhist Cultures in Asia	アジアの仏教文化	C2504X
学 科 専 攻	Cultural Heritage Sites in Asia	アジアの文化遺産	C2505X
学 科 専 攻	Ancient Cultures in Eastern Asia	東アジアの古代文化	C3506X
学 科 専 攻	Central Asia and Japan	中央アジアと日本	C3507X
学 科 専 攻	Japanese Economy and Society	日本の経済と社会	C2508X
学 科 専 攻	International Migration	国際人口移動	C2509X
学 科 専 攻	International Economy and Japan	国際経済と日本	C3510X
学 科 専 攻	Overseas Views of Japan	海外における日本観	C2511X
学 科 専 攻	Oceania and Japan	オセアニアと日本	C2512X
学 科 専 攻	Pan-Pacific Migration	パンパシフィックの移民	C3513X
学 科 専 攻	Japanese Society	日本の社会	C3514X
学 科 専 攻	Linguistic Culture in Japan	日本の言語文化	C2515X
学 科 専 攻	History and Culture from a Japanese Language Perspective	日本語からみた歴史と文化	C2516X
学 科 専 攻	Introduction to Japanese Teaching	日本語教育入門	C2517X
学 科 専 攻	Japanese Teaching Practice	日本語教育実践	C2518X
学 科 専 攻	Japanese Thought	日本の思想	C2519X
学 科 専 攻	Japanese Modern Era and International Relations	日本の近現代と国際関係	C2520X
学 科 専 攻	Kyoto Dialect and the Culture of Kyoto	京ことばと京文化	C2521X
学 科 専 攻	Folklore of the World and Japan	世界と日本の民俗	C3522X
学 科 専 攻	Tourism Behaviour	観光行動論	C2523X
学 科 専 攻	Tourism Management	観光経営論	C2524X
学 科 専 攻	The Culture of Tourism	観光文化論	C3525X
学 科 専 攻	World and Japanese literature	世界と日本の文学	C2526X
学 科 専 攻	Comparative Culture	Comparative Culture	C2527E
学 科 専 攻	Visual Culture A	映像文化論A	C2601X
学 科 専 攻	Visual Culture B	映像文化論B	C2602X
学 科 専 攻	Visual Culture C	映像文化論C	C3603X
学 科 専 攻	Visual Culture D	映像文化論D	C3604X
学 科 専 攻	Visual Culture E	映像文化論E	C3605X
学 科 専 攻	Popular Culture A	大衆文化論A	C2606X
学 科 専 攻	Popular Culture B	大衆文化論B	C2607X
学 科 専 攻	Popular Culture C	大衆文化論C	C2608X
学 科 専 攻	Popular Culture D	大衆文化論D	C2609X
学 科 専 攻	Popular Culture E	大衆文化論E	C3610X
学 科 専 攻	Media and Culture A	メディア文化論A	C2611X
学 科 専 攻	Media and Culture B	メディア文化論B	C2612X
学 科 専 攻	Media and Culture C	メディア文化論C	C2613X
学 科 専 攻	Media and Culture D	メディア文化論D	C3614X
学 科 専 攻	Artistic Expression A	芸術表現法A	C2615X
学 科 専 攻	Artistic Expression B	芸術表現法B	C2616X
学 科 専 攻	Artistic Expression C	芸術表現法C	C2617X

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Artistic Expression D	芸術表現法D	C2618X
学 科 専 攻	Artistic Expression E	芸術表現法E	C3619X
学 科 専 攻	Japanese Art History	日本の美術	C2620X
学 科 専 攻	Asian Art History	アジアの美術	C2621X
学 科 専 攻	Western Art History	西洋の美術	C2622X
学 科 専 攻	Music Studies	音楽芸術論	C2623X
学 科 専 攻	Arts Administration and Cultural Policy	アートマネジメント	C2624X
学 科 専 攻	Traditional Theatre	伝統芸能論	C2625X
学 科 専 攻	Euro-American Theatre	欧米の演劇	C3626X
学 科 専 攻	Globalization and Career Development	グローバル時代のキャリア設計	C2354X
学 科 専 攻	Berkeley, Contemporary American Culture and Society	バークレー講義	C1355X
学 科 専 攻	Berkeley, Volunteer Experience	バークレーボランティア	C1356X
学 科 専 攻	Overseas Cross-Cultural Practice through SNS	SNSを活用した異文化交流実践	C2357X
学 科 専 攻	Thesis Seminar I	演習 I	C3701X
学 科 専 攻	Thesis Seminar II	演習 II	C3702X
学 科 専 攻	Thesis Seminar III	演習 III	C4703X
学 科 専 攻	Thesis Seminar IV	演習 IV	C4704X
学 科 専 攻	Graduation Research and Thesis	卒業論文	C4801X
	Introduction to Conversation Analysis A	会話分析入門A	G2311B
	Introduction to Conversation Analysis B	会話分析入門B	G2312B
	Psycholinguistics	心理言語学	G3354B
	Applied Linguistics	応用言語学	G3355B
	Contemporary Literature	Contemporary Literature	G2314E
	Introduction to International Relations	国際関係入門	G2321E
	Introduction to Sociolinguistics	Introduction to Sociolinguistics	G2351B
	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology	G2352E
	Globalization and Africa	グローバリゼーションとアフリカ	G2367B
	Globalization and East Asia	グローバリゼーションと東アジア	G2362E
	Globalization and South Asia	グローバリゼーションと南アジア	G2363B
	Globalization and Europe	グローバリゼーションとヨーロッパ	G2364B
	International Political Economy	国際政治経済学	G3372B
	Intercultural Communication	異文化間コミュニケーション論	G2371J
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program I	国際文化実践プログラム I	C2901X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II A	国際文化実践プログラム II A	C2902X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II B	国際文化実践プログラム II B	C2903X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II C	国際文化実践プログラム II C	C2904X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II D	国際文化実践プログラム II D	C2905X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II E	国際文化実践プログラム II E	C2906X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II F	国際文化実践プログラム II F	C2907X
国際文化実践プログラム	Intercultural Communication Program II G	国際文化実践プログラム II G	C2908X

Ⅶ 卒業

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、国際学部国際文化学科では「学士（国際文化学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、124単位以上を履修しなければなりません。

1. 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目の別を指定していることは前述のとおりです。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

科目区分	必要単位数	卒業要件
①学科外国語科目	20単位以上	1年次：英語週5回または初修外国語週3回＋英語週2回 2年次：英語週3回または初修外国語週3回
②教養教育科目	18単位以上	必修4単位（「仏教の思想A」、「仏教の思想B」）を含む
③学科基礎科目	16単位以上	必修4単位（「基礎演習A」「基礎演習B」）を含む
④学科専攻科目	46単位以上	所属コースが提供する科目から34単位以上を修得 「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」、「卒業論文」は34単位に含む
⑤国際文化実践プログラム	4単位以上	必修2単位（「国際文化実践プログラムⅠ」）を含む
⑥フリーゾーン	20単位以上	グローバルスタディーズ学科からの提供科目を含む
合計	124単位以上	

(注) フリーゾーンについて

卒業要件124単位の内、各①～⑤の必要単位数を超えた単位が「フリーゾーン」として認定されます。

〈参考〉卒業要件とフリーゾーンへの流れ

科目区分	外国語	学科基礎	学科専攻	教養教育	国際文化実践プログラム	フリーゾーン	合計
単位数	20	16	46	18	4	20	124

余剰単位はフリーゾーンで認定

2. 卒業の時期

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱いについて

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者で、卒業要件を満たした場合、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

（注）9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。（本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても9月卒業の対象にはならないので注意してください。）

卒業論文

1. 卒業論文執筆および提出要領 60
2. 注意事項 62
3. 評価方法 62

卒業論文

国際文化学科では、大学での学びの集大成として、学生自らが設定したテーマで卒業論文を書くことを推奨しています。「卒業論文」（6単位）は4年次前期（第7セメスター）に、「演習Ⅲ」と同時に履修登録します。演習Ⅰ～Ⅳは先修制ですので、卒業論文の執筆を希望する場合は、「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」を修得しなければなりません。「演習Ⅲ」や「卒業論文」を履修しない、あるいは履修したにもかかわらず不合格となった場合は、代わりに学科専攻の他の科目（コース提供科目）で卒業要件単位を修得する必要があります。

なお、演習担当教員によっては、卒業論文の代わりに卒業制作（文芸・学術・美術・音楽等の作品制作）を認めている場合があります（この場合も履修登録する科目名は「卒業論文」になります）。詳細については、演習（ゼミ）に関する学内説明会や掲示板等で別途お知らせします。

1. 卒業論文執筆および提出要領

- ① 卒業論文は文書作成ソフト（Microsoft Word等）を用いて執筆するものとします。ただし、指導教員が認めた場合は手書きも可とします。また、指導教員が認めた場合は「卒業制作」として、論文以外の成果物の提出も可とします。卒業制作の場合は、制作の意義・意図・過程等をまとめた「報告書（制作ノート）」を成果物と併せて提出する必要があります。

【文書作成ソフトで執筆する場合】

- ・用紙はA4サイズ、白の普通紙（感熱紙不可）、黒字印字とします。
- ・日本語の場合、1ページあたり1000字（40字×25行）の設定とします。
- ・英語の場合、行間をダブルスペースとします。
- ・フォントは明朝体を基本とし、大きさは10.5ポイント～11ポイントとします。
- ・左余白を25ミリとします。その他の余白設定については自由です。

【手書きで執筆する場合】

- ・用紙はA4サイズ、400字詰め原稿用紙とします（龍谷大学生協で購入可）。
- ・横書き、縦書きどちらでも可。指導教員の指示にしたがってください。
- ・黒のボールペンもしくはそれに類するものを使用し、鉛筆は使用しないでください。

- ② 卒業論文は日本語で執筆するものとします。ただし、指導教員が認めた場合は、日本語以外の言語で執筆することも可とします。また、卒業論文は、卒業予定者自身のオリジナルなものに限ります。他人の文章を引用する場合、必ず引用箇所・出典を明示し、剽窃（盗用）とならないように十分注意してください。
- ③ 卒業論文は、原則として個人による執筆（単著論文）とします。ただし、指導教員が認めた場合は、共同執筆による論文（共著論文）も認めます。共同執筆の具体的な方法等については、指導教員の指示にしたがいます。
- ④ 卒業論文の長さは、日本語の場合、本文で12,000字以上～20,000字程度までとします。英文の場合、本文で5,000語（words）以上～7,500語（words）程度までとします。卒業制作の場合に提出する報告書（制作ノート）については、指導教員の指示にしたがいます。

- ⑤ 卒業論文には、本文のほかに、卒業論文要旨（600字以内）、内表紙、目次、参考文献を必ずつけます。ただし、本文以外は卒業論文の字数には含めません。また、卒業論文の参考資料として、各種記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ等）や模型・作品など、添付資料の提出を認めます。ただし、これらに関する説明文等は本文の字数には含めません。
- ⑥ 卒業論文提出時は、内表紙、論文要旨、目次、添付資料リスト（添付資料がある場合）、本文、参考文献の順でファイルに綴じてください。内表紙は1枚とし、「題目」、「卒業年度」、「執筆者学籍番号」、「執筆者氏名」、「指導教員名」を書きます。

【卒業論文の綴じ方】

- ・卒業論文は、別に定める紙製ファイルに綴じて（左綴じ）提出してください。
 - ・ファイルの表紙には、「卒業論文タイトル記入用紙」を貼付してください。
 - ・「卒業論文タイトル記入用紙」や「卒業論文要旨」の書式は、国際学部ホームページ上の「ダウンロードセンター」から入手できるようになっています。
 - ・内表紙、論文要旨以外には通しのページ番号をつけてください。
 - ・添付する表や図等が大きい場合は、A4以下に折りたたんで綴じるようにしてください。
 - ・綴じたファイル2部のほかに、卒業論文要旨のみ1部を別に提出してください。
- ⑦ 卒業論文は2部、「卒業論文題目届」とともに、提出期限までに本人が国際学部教務課に持参して提出します。国際学部教務課による検認後、「卒業論文題目届」に受領印をもらいます。受領印をもらった卒業論文の1部は指導教員が、もう1部は本人が一定期間保管します。提出する2部のうち1部に関しては、同じサイズのコピーでも構いません。

【提出にかかる注意点】

- ・提出時は、指導教員が提出承認欄に押印した「卒業論文題目届」を一緒に提出します。卒業論文題目届の提出承認欄に指導教員の押印がない場合、卒業論文は提出できません。
 - ・卒業論文題目届、卒業論文タイトル記入用紙、卒業論文要旨に書かれた「題目」（論文タイトル）は同一でなければなりません。
 - ・執筆した学生本人からの提出のみ受け付けます。友人等による代理提出、郵送による提出は認められません。ただし、留学中や入院など、やむを得ぬ事情で直接本人が提出できない場合は、指導教員による代理の提出を認めます。該当する学生は、事前に指導教員に相談してください。なお、個人的な旅行は指導教員による代理提出許可の対象とはなりません。
- ⑧ 卒業論文題目届ならびに卒業論文の提出期日については概ね以下のとおりです。最新の情報については掲示板等で必ず確認してください。

3月卒業予定者を対象としたスケジュール

卒業論文題目届の提出	4年次の6月中旬	※指導教員に提出
卒業論文題目変更期限	4年次の11月下旬	※指導教員に提出
卒業論文提出承認期限	4年次の11月下旬	※指導教員に提出
卒業論文の提出	4年次の12月中旬	※国際学部教務課に提出

2. 注意事項

・「卒業論文」と「演習Ⅲ」は関連付けられています。3年次前期（第5 Semester）に「演習Ⅲ」を履修登録すると、「卒業論文」も併せて履修登録することになります。また、「演習Ⅲ」を履修辞退した場合、卒業論文も同時に履修辞退することになります。

・演習は先修制のため、「演習Ⅲ」が不合格となった場合、「演習Ⅳ」や「卒業論文」を履修することはできません。この場合、所属コースが提供する学科専攻科目から任意の授業を履修し、代わりとなる単位を修得する必要があります。

・「演習Ⅲ」が不合格となった場合、一定の条件の下で再履修が認められる場合があります。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。

3. 評価方法

卒業論文は、原則として以下の項目にもとづいて評価されます。執筆に当たっては、これらの基準が意味するところを十分理解し、完成度の高い卒業論文を追求することが求められます。詳細については、国際学部教務課や指導教員に確認・相談するようにしてください。

【卒業論文における評価項目】

- 1) 論文の構成と展開
- 2) 内容の一貫性
- 3) 独創性・新奇（新規）性
- 4) 表現力・言葉遣いの適切さ
- 5) 参考文献・資料等の適切さ

⚠ 注意事項

卒業論文について、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、「卒業論文」を無効扱いとし、その学期に履修登録した全科目の単位認定をおこないません。

諸 課 程

(1)諸課程..... 64
(2)特別研修講座・各種講座・試験について..... 64

(1) 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。 教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。	(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西翼 1階 瀬田学舎 2号館 1階 (関係情報) 『教職課程ガイドブック』
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
浄土真宗本願寺派教師（住職）となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。	(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/risyu/
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。	(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/risyu/
ICCO 文化交流創成コーディネーター / Intercultural Coordinator (通称：インターカルチュラル・コーディネーター) 資格認定制度	担当窓口・関係情報
ICCO (インターカルチュラル・コーディネーター) は、日本国際文化学会が認定する資格で、2015年度に開始されました。 この資格においては、新たな時代や社会づくりに向けて、人と人、人とモノ、コトとコト、モノとモノ、地域と地域、地域と世界など、文化と文化の〈あいだ〉につながりをつける力を備えた人材を養成することを目的としています。	(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/risyu/

(2) 特別研修講座・各種講座・試験について

課程	目的・内容	担当部署
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を養成することを目的としています。	(全学) 矯正・保護総合センター事務部 深草学舎至心館 1階 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館 1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼 1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館 1階

<p>法職課程</p>	<p>司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。</p>	<p>法学部教務課 深草学舎 紫英館 1 階</p>
<p>教員採用試験対策講座</p>	<p>教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座</p>	<p>教職センター 深草学舎 紫英館 1 階 大宮学舎 西翼 1 階 瀬田学舎 2 号館 1 階</p>
<p>キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されています。</p>	<p>〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシート対策講座／ 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013、Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座（2級）／色彩検定講座／秘書検定講座／</p>	<p>キャリアセンター 深草学舎 5 号館 1 階 大宮学舎 西翼 1 階 瀬田学舎 1 号館 1 階</p>
<p>RECコミュニティカレッジ 外国語コース</p>	<p>〈生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース〉 REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。 ※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 紫光館 5 階 瀬田学舎 RECホール</p>

履修の心得
教育課程
卒業論文
諸課程
手学修引生活きの
Q & A
教員
付録

学修生活の手引き

- I. 窓口事務・保健管理センター・
障がい学生支援室について…………… 68
- II. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う
授業および定期試験の取り扱いについて…… 69
- III. 学籍の取り扱い…………… 70
- IV. 大学院国際文化学研究科の紹介…………… 74

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室について

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、本学HP『履修要項』に掲載していますので、確認してください。
(<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- ①窓口取扱時間
- ②届出書・願書および各種証明書
- ③各種証明書の交付について
- ④裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。(<http://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) カウンセラーに相談したい
- (2) 保健師・看護師に相談したい
- (3) 医師の診療を受けたい
- (4) 急な怪我をした
- (5) タバコをやめたい
- (6) 健康チェックをしたい
- (7) 健康診断
- (8) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (9) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。

HPでは主に次の内容を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ
- (3) 支援の内容
- (4) サポートスタッフに興味のある方へ
- (5) 講座・イベント
- (6) よくある質問 (Q&A)
- (7) 規約

Ⅱ 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う授業および定期試験の取り扱いについて

暴風警報、暴風雪警報、特別警報及び特別警報に位置づける警報が発令された場合や交通機関の運行中止が発生した場合の授業および定期試験の休講措置の実施または授業等の再開は、「**授業休止の取扱基準**」に基づき、本学HPに掲載していますので、それに従ってください。

(http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html)

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

学生生活の手引き

Q & A

教員

付録

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

X	1 6	0	001
L : 文学部	入学年度（西暦）の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す）	学部内における個人番号
E : 経済学部		学部生 : 0～7	
B : 経営学部		編転入生 : 8	
J : 法学部		再入学生 : 9	
T : 理工学部		修士課程 : M	
C : 社会学部		博士後期課程 : D	
W : 国際文化学部		短大専攻科生 : A	
H : 政策学部		専門職学位課程生 : F	
U : 国際学部		研究生 : R	
N : 農学部		特別専攻生 : S	
S : 短期大学部		科目等特別履修生 : U	
F : 法科大学院		科目等履修生 : V	
M : 実践真宗学研究科		外国人特別留学生・交換留学生 : Y	
R : 留学生別科			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときに

は直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証に指定された場所に各自貼ってください）。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新しいシールを貼ってください。

また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに国際学部教務課窓口へその内容を届け出てください。

- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。

- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを国際学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。

- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに国際学部教務課窓口へ返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであるから、いつでも願い出ることはできますが、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。

② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。

③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

① 大学所定の書式により願い出ること。

② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。

③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31

日までに国際学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
 - ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。
- (3) 休学中の学費
休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内にしなければなりません。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときに、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときに除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を国際学部教務課窓口で速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

8. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については国際学部教務課窓口で相談してください。

Ⅳ 大学院国際文化学研究科の紹介

入学試験の実施時期、出願条件等は2015年度までの実績です。
受験に際しては、各試験の入学試験要項を確認してください。

1. 修士課程入学試験について

本学の大学院国際文化学研究科修士課程の入学試験には、「学内推薦入学試験」「一般入学試験」「社会人入学試験」「外国人留学生入学試験」があります。いずれの入試においても、志望動機を含むこれまでの研究内容や、入学後の研究テーマおよび研究テーマについて記入していただく「研究計画書」の提出が必要になります。

(1) 学内推薦入学試験…6月・10月

試験科目…口述試験

龍谷大学4年次生に在学中で、卒業見込である学生を対象とした入試です。3年修了時のGPAが2.70以上の学生が対象です。

※留学生も、出願資格を満たせば受験可能です。(留学生別途提出書類が必要です。)

(2) 一般入学試験…6月・10月・2月

試験科目…外国語筆答試験・論文試験・口述試験

※留学生も、出願資格を満たせば受験可能です。(留学生別途提出書類が必要です。)

(3) 社会人入学試験…6月・10月・2月

試験科目…外国語筆答試験・論文試験・口述試験

※ただし外国語については研究科所定の基準を満たすものは、学科試験の「外国語」を免除します。
詳細は入学試験要項で確認してください。

(4) 外国人留学生入学試験…6月・11月

試験科目…日本語筆答試験・小論文試験・口述試験

※出願資格や提出書類が一般試験とは異なります。詳しくは要項を確認してください。

2. 国際文化学研究科修士課程の教育理念・目的

国際文化学研究科は、建学の精神に基づいて、多様化する国際社会を適切に理解し、高度な専門知識をもって国際社会で活躍できる人材を育成するとともに、国際文化学の発展に貢献できる研究者を養成することを目的としています。

修士課程は、国際文化学に立脚しながら、多様化する国際社会において、高度な専門性や実践能力が求められる職業を担うことのできる人材を育成し、国際文化学を専攻するに必要な学識を深め、研究能力を高めることを目標としています。

3. 国際文化学研究科修士課程の入学受入れの方針

国際文化学研究科修士課程では、国際文化学に立脚し、各自の専門性を活かした職業を担うことができる人材を育成するため、次のような人を求めています。

- ・自らの研究テーマを国際文化学の理論と方法論で研究することを目指す人
- ・国際社会で自らの専門性や実践能力を示そうと志す人

4. 国際文化学研究科博士後期課程について

国際文化学研究科博士後期課程の入学試験について、詳しくは、国際学部教務課窓口までお問い合わせください。

Q & A

登録・履修・試験について.....	76
留学制度・留学生について.....	79
証明書について.....	81
学籍について.....	82
学生生活について.....	83
こんな場合には？.....	85

登録・履修・試験について

Q 1年次で開講されている科目は、2年次以上でも履修できるのですか。

A 履修できます。各科目を受講できる学年はP.46～P.51の開設科目を参照してください。「1年」に○があれば「1年次以上から卒業年次まで」、「2年」に○があれば「2年次から卒業年次まで」受講することが出来ます。

Q 予備・事前登録はどのようにおこなうのでしょうか。

A 本学のポータルサイトにログインし「予備・事前登録」より予備・事前登録をおこなってください。（日程は国際学部掲示板等で各自確認してください）。

結果については、以下のとおりポータルサイトで発表します。

- ◆当該科目が受講許可された場合
 - We b履修登録（本登録）の登録画面上で、「履修確定」として結果が表示されます。
- ◆当該科目が受講許可されなかった場合
 - 表示されません。

受講許可された場合に限り、We b履修登録（本登録）および受講が可能となります。

受講許可がされなかった場合や、予備・事前登録を行わなかった場合は、理由のいかに関わらず、一切登録・受講を認めません。

また、当該科目が受講定員に満たなかった場合、追加募集をおこなうことがあります。実施の有無については、国際学部教務課掲示板およびポータルサイトに掲載します。

なお、追加募集は国際学部窓口でのみ受け付けます。（We bでは登録できません）

Q 予備・事前登録で受講許可が出た科目は、改めてWe bで登録しなければなりませんか。

A 受講許可が出た科目は、必ずWe b登録期間中にWe b登録（本登録）をしてください。そのままでは登録されません。We b登録をしないと、「受講登録確認表」にエラーが表示されます。

Q 予備・事前登録した科目が受講許可された場合、必ず履修しなければなりませんか。取消はできますか。

A 一旦許可された予備・事前登録科目は、必ず履修しなければなりません。よって**取消は認めません**。予備登録をする前に履修要項やシラバスをよく読んで、今までの成績表を確認しながら、履修計画をきちんと立てておく必要があります。また、予備・事前登録をした科目は「履修辞退」もできません。

Q 予備・事前登録期間に手続ができませんでした。後日手続はできますか。

A 予備登録は予備・事前登録期間中のみ受け付けています。ただ、予備・事前登録結果発表の際に受講者の上限に余裕がある場合に限り、「追加募集」をおこなうことがあります。それに該当する科目であれば、登録は可能です。その際、登録は国際学部教務課窓口にて受け付けます。いずれにせよ、事前に予備・事前登録期間および科目を掲示板で確認することが大切です。

Q 2年次から所属するコースについて教えてください。どのようなコースがありますか。

A P.30～P.32を参照してください。

Q 「日本語論文表現」について教えてください。

A 「日本語論文表現」は留学生のみ受講することができます（日本人学生は受講できません）。第1回目の授業時に、クラス分け試験（プレイスマンテスト）を実施し、第2回目からクラス毎に分かれての受講になります。（クラス分け試験を受けていなければ、受講できません）
まずは履修を希望するクラス（「初級」または「上級」）をWeb登録してください。ただし、試験結果によっては、所属クラス（「初級」と「上級」）が変更となることもあります（後日クラス分け結果を国際学部掲示版にて発表します。必ず確認してください）。
なお、本科目は、履修制限単位には含まれませんが、卒業要件単位には含まれます。

Q 再履修はどのクラスを受講すればよいですか。

A ①「基礎演習A・B」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、国際学部掲示版を確認してください。
②「必修外国語」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、国際学部教務課掲示版を確認してください。
③「仏教の思想A・B」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、国際学部教務課掲示版を確認してください。

Q 留学先で修得した授業科目の単位は、いつの成績表に記載されますか。

A 春期休暇中に短期留学に参加した場合の単位認定の結果については、次年度後期に配布される成績表に評価を記載します。夏期休暇中に短期留学に参加した方の単位認定の結果については、次年度前期に配布される成績表に評価を記載します。
なお、認定結果が決定次第、国際学部掲示版にてお知らせします。各自、国際学部教務課まで確認してください。

Q 「フリーゾーン」を満たすにはどの科目を履修すればよいですか。

A 「フリーゾーン」は「外国語」「学科基礎科目」「教養教育科目」「学科専攻科目」「国際文化実践プログラム」から余分にとった単位のことを指します。※4年次以上で「演習」を選択していない学生のみこの「フリーゾーン」については、個々人の関心とニーズに応じて多様な選択ができるように設けられています。教養知識を身につけたい学生は「教養教育科目」で充足してください。専門知識を身につけたい学生は「学科専攻科目」で充足してください。どの分野の科目を選択するかはみなさん次第です。また、グローバルスタディーズ学科提供科目を履修した場合も「フリーゾーン」で認定されます。

Q クラス指定や予備・事前登録のない科目は、どの先生の授業を履修してもよいのですか。

A 担当教員によって講義の内容が異なります。シラバスを参考にして、自分の興味がある内容の講義を履修することができます。クラス指定されている科目については、掲示版で自分のクラスを確認してください。
なお、同一科目であれば、たとえ担当者や開講曜講時が異なる場合でも、一度単位を修得した科目は再度履修登録できませんので注意してください。

Q 昨年度、不合格や履修辞退した科目は、今年度も履修登録できますか。

A 履修登録できます。なお、一度単位を修得した科目は再度履修登録できません。

Q 「サマーセッション」はいつ履修登録すればよいのですか。履修登録制限単位に含まれますか。

A 「サマーセッションⅠ」「サマーセッションⅡ」ともに前期のWeb履修登録時に登録してください。集中講義で登録できる科目は「サマーセッションⅠ」「サマーセッションⅡ」各1科目です。集中講義科目は履修登録制限単位に含める必要はありません。(その他の履修登録制限単位に含まれない科目については、P.11を参照してください)
なお、「サマーセッションⅠ」は前期、「サマーセッションⅡ」は後期の単位として認定されます。

Q Web履修登録後、登録間違いに気づきました。修正することはできますか。

A Web履修登録期間中であれば、修正は可能です。万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間中に国際学部教務課まで申し出てください。
受講登録確認表配布後の修正は、履修辞退期間中に履修辞退を申し出る場合を除き、一切出来ませんので、シラバス・時間割を熟読のうえ登録をおこなってください。
※登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じています。確認は1科目ずつ慎重に行ってください。Web履修登録をした際、登録画面を印刷(プリントアウト)しておくことをおすすめします。

Q 受講登録確認表の合計単位数に「サマーセッション」・「卒業論文」「随意科目」が含まれていませんが、正しく登録されていますか。

A 受講登録確認表の合計単位数には、履修登録制限単位数に含まれる科目のみ換算されます。「サマーセッション」「卒業論文」「随意科目」は履修登録制限単位に含みません(「卒業論文」「サマーセッション」は卒業要件単位数には含まれます)ので、表示されません。上記の科目については、科目名・担当者名が正しく記載されているかを確認し、誤りがなければ正しく登録されています。

Q 卒業年次生ですが、今まで修得した単位数について、国際学部教務課でチェックしてもらえますか。

A 原則として、国際学部教務課で成績のチェックはしません。成績表については、成績配付期間に直接学生本人に配付します。履修要項を熟読し、自分の修得した単位数が卒業要件単位数を満たしているかの確認は各自の責任でおこなってください。
もし、疑問点等がありましたら、国際学部教務課まで来てください。

Q 授業を欠席してしまいました。何か必要な手続はありますか。

A 授業を欠席した旨を担当教員に申し出るための「欠席届」をお渡しします。学生本人が、国際学部教務課まで受け取りに来てください。なお、国際学部教務課から担当教員への欠席連絡は一切おこなっていません。学生本人から直接教員へ申し出てください。

Q 授業に遅刻する場合は、どうすれば良いですか。

A 公共交通機関の遅延により、遅刻する場合は、駅などで遅延証明書を受けとり、その裏面に「遅延が発生した日時」「遅延区間」「遅延時間」「学籍番号：氏名」「遅刻した科目」を明記し、第三者が客観的に遅延状況を判別できる状態で教員へ提出し、遅刻を申し出て下さい。

Q 定期試験の時間割は、いつ、どこで発表されますか。

A 試験開始日の14日前に、国際学部掲示板と龍谷大学ポータルサイトで発表します。

Q 定期試験をやむを得ない理由で欠席してしまったのですが、どうすれば良いですか。

A 欠席理由の証明書と印鑑を持参のうえ、試験日を含めて4日以内に国際学部教務課にて追試験受験申込手続をしてください。追試験の受験料は、1科目1,000円です。
ただし、追試験は必ず受験できるわけではありません。寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳細は、P.18を参照してください。

Q 定期試験に学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A 国際学部教務課で臨時学生証を借りてください。ただし、臨時学生証は、その日の試験が終わり次第、速やかに国際学部教務課まで返却してください。

Q 成績評価に納得できません。どうすれば良いですか。

A 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいこと」に対し授業担当者に再確認を願い出る」ための成績疑義制度があります。定められた期間以内に国際学部教務課まで申し出てください。主観や感覚で「点数が低い」と感じたことを疑義の対象として受け付けることはできません。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

留学制度・留学生について

Q 留学をしたいのですが、誰に相談すれば良いですか。

A グローバル教育推進センター内に「留学サポートデスク」があります。専門の職員が留学についてアドバイスをおこなっています。また、留学に関する書籍も揃い、貸出もおこなっています。実際に留学した先輩の体験談「帰国報告書」や、現在留学中の学生によるレポート「留学月報」も開架しており、自由に閲覧可能です。HPからオンラインで閲覧できる「帰国レポート」もあります。

Q 国際学部の留学制度について知りたいです。どこで教えてもらえますか。

A 「留学制度」の項を参照してください。また、別冊子「龍谷大学 留学ガイド」「国際留学ハンドブック」も発行しています。こちらは国際学部教務課およびグローバル教育推進センターで入手可能ですので、参考にしてください。HPからオンラインで閲覧できる、「帰国レポート」もあります。

Q シラバスやアウトラインとは何ですか。

A 授業の内容がわかるものです。
シラバスとアウトライン両方ではなく、自分が受講した授業内容がわかるものです。受講した期間・レベルの内容・授業の計画・評価の仕方（Assessment）などの項目です。学校によってそれぞれ形式が異なりますので、第三者が見て授業内容や評価方法などがわかる資料を提出してください。

Q 学校からシラバスなどが発行されない場合はどうすれば良いですか。

A 先生または語学学校に直接交渉してみてください。
授業内容がわかるものが一切発行されない場合は、「発行していない」という公式文書を学校からもらってください。もし、シラバス等を作成してもらえるのであれば、前述した項目を含ませ、作成してもらうようにして下さい。

Q 成績表・修了書がもらえない場合はどうすれば良いですか。

A これらは必ず提出ください。修了書や成績表がないと単位認定できません。万が一、学校から発行できないと言われた場合は、帰国前に必ずメールにて「留学サポートデスク」までご相談ください。

Q 成績表や修了書が帰国後2週間以内に提出できない場合はどうすれば良いですか。

A その時点で揃っている書類を提出ください。
遅れて提出する場合は、遅れる理由、提出予定期日を別の書面（遅延理由書）に記入し提出して下さい。

Q データの提出方法がわかりません

A ダウンロードセンターで【帰国報告書・レポート】（ワード書式）をダウンロードし、それに直接入力し留学サポートデスクまでメールに添付してください。もしくは、USB にデータを保存し、留学サポートデスクに持ってきてください。
※詳細は、オリエンテーションにて説明します。

Q 留学生です。アルバイトをしたいのですが、どういう手続きが必要ですか。

A まず、アルバイトをする前に、資格外活動許可書の申請が必要です。入国管理局にて、各自が直接申請してください。ビザの更新結果を受け取りに行く際、「資格外活動許可書」を申請すると手続きがスムーズです。なお、平成22年より大学内で教育に関する業務（ティーチング・アシスタント等）を行う場合は、資格外活動許可は不要となりました。**資格外活動で許可されるアルバイトの時間数と業種には制限があります。必ず守ること。**

Q 留学生です。ビザの在留資格の有効期間がもうすぐ切れるのですが、どうすれば良いですか。

A ビザの有効期間が切れる3ヶ月前から、在留期間更新許可申請ができます。申請する際、「在留資格更新許可申請書（「個人作成用」と「所属機関作成用）」「学業成績証明書」「在学証明書」「パスポート」「外国人登録証明書」が必要となります。「所属機関作成用」申請書を国際学部教務課まで申し出てください。休学経験者に対しては、上記以外に更に「休学許可書」「復学許可書」「休学期間証明書」が必要となります。
※資格外活動許可書も更新許可受領時に合わせて延長となった在留期間まで申請しましょう。

Q 留学生です。就職内定先が決まらず、卒業後も日本で就職活動を続けたい場合はどうすれば良いですか。

A 日本で就職したい意志を明白に持っている場合、「留学」ビザから「特定活動」ビザへの変更申請は可能です。詳しくは国際学部教務課窓口で相談してください。

Q 留学生です。パスポートの有効期間が切れた場合や紛失した場合、どうすれば良いですか。

A 有効期間が切れる前に、居住地の所轄母国の在日大使館・領事館でパスポートの更新手続きをおこなってください。紛失した場合は、まずは最寄りの警察で「紛失届証明書」を発行してください。その後、母国の在日大使館・領事館で再発行の手続きをおこなってください、その際、紛失届に記載されている受理番号が必要になりますので、確認しておいてください。

Q 留学生です。長期休暇期間中、帰国したいのですが、どんな手続きが必要ですか。

A 帰国する前に国際学部教務課窓口にて「旅行・帰国届」を提出して下さい。用紙は国際学部教務課にて受け取ってください。また、入国管理局にて「再入国許可」を申請しなければなりません。

Q 留学生を対象とする奨学金を申請したいのですが、どんな奨学金がありますか。また、どうやって申請すれば良いですか。

A 留学生を対象とする奨学金は「自己応募奨学金」と「学部推薦奨学金」があります。自己応募奨学金の情報は、学生部（4号館）の掲示板に随時掲示しますので、各自で確認し、学生部にて申請してください。学部推薦奨学金は、「龍谷大学特別奨学金」「私費外国人留学生学習奨励費」「びわこ奨学金」の3種類があり、いずれにしても成績の優劣が重視され、学部内で推薦されることにより対象者となります。

Q 留学生寮に入りたいのですが、どんな手続きが必要でしょうか。

A 本学には留学生寮が4ヶ所あります。（「龍谷会館」「大宮荘」「向島学生センター」「International House ともいき」）
入寮募集期間は、年に2回（6月・12月）です。詳しい情報については、グローバル教育推進センターHP（<http://intl.ryukoku.ac.jp/dormitory/index.html>）や国際学部教務課にて確認してください。

Q 京都に在住している留学生です。国民健康保険補助金を申請したいのですが、どうすれば良いですか。

A 京都市に在住している外国人留学生は、国民健康保険の補助金を申請し、年間8,400円の補助を受けることができます。申請期間は年に1回（9/1～9/30）を設けており、一回申請すれば、1年の補助金が支給されます。詳しくは国際学部教務課まで相談してください。

Q 留学生ですが、部屋を借りるのに保証人が見つかりません。どうすれば良いですか。

A 京都市内に住むのであれば、「京都地域留学生住宅支援制度」があります。詳しくはグローバル教育推進センターまで問い合わせください。

証明書について

Q 「英文証明書」が必要です。どこで発行できますか。

A 国際学部教務課で発行します。証明書自動発行機で証明書交付願を出力のうえ、国際学部教務課にて申し出てください。なお、「英文証明書」の発行には1週間必要です。日数に余裕をもって申し込んでください。

Q 就職活動のために「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」が必要です。いつから発行してもらえますか。

A 「成績証明書」は、常時、証明書自動発行機にて発行可能です。
「卒業見込証明書」は、卒業年次生が5月上旬から証明書自動発行機にて出力できます。ただし、履修登録を完了していない場合や登録修正をしていない場合、卒業の見込がたたないことがあります。その場合は、至急、国際学部教務課で登録状況の確認をしてください。
「健康診断証明書」も5月上旬から証明書自動発行機にて発行可能です。ただし、4月の定期健康診断を受けていない場合や、健診項目を1つでも受診していない場合は発行できません。必ず定期健康診断を受検してください。

Q 証明書を厳封して提出しなければなりません。どこで厳封してもらえますか。

A 国際学部教務課にて厳封します。証明書自動発行機から出力した場合は、証明書を持参のうえ、国際学部教務課に来てください。証明書交付願を出力し、国際学部教務課で申し込む場合は、その際に厳封の依頼をしてください。

Q 今までに単位を落とした科目や履修辞退した科目があります。証明書に記載されますか。

A 単位を落とした科目および履修辞退した科目については、科目と評価ともに記載されません。証明書に記載されるのは当該学期までに単位を修得した科目と評価です。評価方法は、点数ではなくS・A・B・Cによる記載です。
(詳細はP.15の「成績評価の基準」を参照して下さい)

Q 提出先に3ヵ月前に発行した証明書を提出しても良いですか。(証明書に期限はありますか。)

A 証明書の期限は3ヵ月を目安にしています。従って、留学手続に必要となる場合や就職活動の際に企業に提出する場合、または大学院進学などの手続の際には再度最新のものを発行してください。

Q 証明書を間違えて出力してしまいました。返金してもらえますか。

A 返金は可能です。間違えて出力した証明書、もしくは証明書交付願を持参のうえ、国際学部教務課で返金依頼書に記入後、経理課にて返金手続をおこなってください。

Q 深草学舎以外にある証明書自動発行機からも証明書(交付願)は出力できますか。

A 学舎を問わず、いずれの発行機でも発行が可能です。ただし、証明書交付願等の受付は国際学部教務課のみです。

Q 調査書の依頼は演習担当教員に直接しても良いのでしょうか。

A 調査書は、証明書と同様に発行手数料が必要です。証明書自動発行機で「調査書」の交付願を出力し、国際学部教務課にて申込手続きをしてください。ただし、調査書の推薦文等は、演習担当教員が記入します。国際学部教務課で手続きをおこなう前に、次の2点を必ず各自で演習担当教員に伝えてください。

①調査書の推薦文を書いていただくよう依頼をする

②出願締切日および作成締切日の打ち合わせをする

必ず出願期間の締切日を確認し、日数に余裕をもって申し込んでください。

学籍について

Q 休学(退学)を考えています。

A まずは国際学部教務課までご相談ください。理由をうかがった後に所定の用紙をお渡しします。詳細な手続については、「学修生活の手引き」のⅢ学籍の取扱い(5. 休学と復学)を参照してください。

Q 今年度後期から来年度前期までの1年間の休学は可能ですか。

A 可能です。ただし、年度をまたがっての休学申請は不可能なため、今年度後期と来年度前期でそれぞれ休学手続をとる必要があります。詳細は、国際学部教務課までご相談ください。

Q 休学中の在籍料を除いた学費の余剰分は返金されるのでしょうか。

A 次学期の学費に繰り越されますので、返金はされません。次学期の学費は、当該学期の学費からその余剰分を差し引いた金額が経理課より請求されます。

Q 1年次後期（2セメスター）を休学した場合、次年度前期には2年次の科目は登録できますか。

A まず、復学の手続きが必要です。復学の手続きが完了した後で、今までに修得した単位数、これから履修したい科目によっては登録できる場合があります。復学手続きの際に、今後の履修計画を立て、国際学部教務課までご相談ください。

Q 「現住所」「氏名」「保証人」「緊急連絡先」が変わりました。必要な手続きは何ですか。

A 本学所定の各種変更届を国際学部教務課でお渡しします。印鑑を持参のうえ国際学部教務課までお越しください。なお、書類によっては書類添付や保証人の連署捺印が必要なものがあります。
※携帯電話番号やメールアドレス等が変更となった場合も、必ず国際学部教務課まで届け出てください。

Q 学生証を紛失してしまいました。再発行はできますか。

A 学生証の再発行は可能です。紛失した場合は学生部および最寄りの警察署（交番）に紛失届を提出し、ただちに国際学部教務課にて再発行の手続きをおこなってください。その際、再発行手数料として1,000円が必要です。なお、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。また、紛失でなくても、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。

Q 学生証の磁気が弱くなりました。再発行しなければなりませんか。

A 再発行の必要はありません。磁気入力をおこないますので学生証を持参のうえ、国際学部教務課まで来てください。

Q 学生証の再発行中に証明書の発行および図書館利用は出来ますか。

A ①証明書の発行について
証明書の発行は可能です。国際学部教務課にて手続きをおこなってください。
②図書館利用について
図書館への入館、図書の見学・返却は可能です。ただし、原則として貸出は認めていません。入館の際には図書館入口で学生証の再発行中であることを係の者に申し出てください。

Q 瀬田学舎でサークルに所属しています。自宅から深草学舎までの通学定期券とは別に家から瀬田までの通学定期券を買いたいのですが、できますか。

A 自宅から瀬田学舎までの通学定期券の購入はできません。通学定期券は大学（所属学舎）の最寄駅と自宅の最寄駅の最短経路、区間に限り購入可能です。よって深草学舎から自宅までの通学定期券のみ購入可能となります。

学生生活について

Q 情報処理自習室はいつ、どの場所で使用できますか。

A 情報メディアセンターの掲示板で確認してください。
なお、自習開放教室の端末空き状況は、下記URLより参照できます。
<http://www.seta.media.ryukoku.ac.jp/navi/>

Q 全学統合認証パスワード（ポータルサイト・メール・証明書自動発行機のパスワード）を忘れてしまいました。どこで教えてもらえますか。

A 全学統合認証パスワードは、情報メディアセンターで管理しています。各自で直接申し出てください。

Q ゼミやサークルで教室を使用したいのですが、どこでどのような手続をすれば良いですか。

A ゼミや一般同好会等の自主活動の場として、教室貸出をしています。教室を使用したい場合は、代表者（あるいはそれに代わる者）が学生証および印鑑を持参して、学生部にて手続をおこなってください。申込受付は1週間ごとにおこなっていますが、臨時の教室変更等で使用できない場合もあります。
また、土曜日の教室貸出は15時までです。日曜、祝日の貸出はおこなっていません。

Q 先生と連絡を取りたいのですが、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を教えてください。

A 教員の連絡先は、国際学部教務課で教えることは出来ません。必要な場合は、直接教員に確認してください。なお、教員によってはホームページ等で連絡先を公開していることもあります。

Q 先生へ伝えたいことがあります。国際学部教務課から伝えてもらえますか。

A 国際学部教務課から教員への伝言は一切受け付けていません。講義時等を利用して直接学生本人から先生に伝えてください。もちろん、レポートや課題等も国際学部教務課で受け付けることはありません。

Q 掲示板はどこにどのような情報が掲示されているのですか。

A 紫英館東側に国際学部掲示板があります。（詳細は「大学からの連絡・通知の掲示」を参照してください）
教室変更、休講、学生呼び出し、留学情報、単位互換科目などに関する情報および学生生活に関する様々な情報や、講義関係の情報（講義担当者からの連絡事項等）を掲示しています。
学生への連絡・通知はすべて掲示によっておこないますので、毎日登下校の際に必ず確認してください。

Q ゼミ等の連絡で掲示したいことがあるのですが、掲示板を使用してもいいですか。

A ゼミ等の連絡に関する掲示をすることはできません。講義における連絡事項等は、講義時に伝えるようにしてください。
なお、やむを得ない場合は、担当教員から国際学部教務課まで掲示の依頼が必要となります。

Q 奨学金の申込をしたいのですが、手続場所はどこですか。

A 奨学金は「貸与」と「給付」の大きく2種類に分けられます。選考は奨学金の種類によって基準が異なります。出願に関しては、説明会や掲示板、および学生部で配付される各要項を確認してください。

Q 学費の納入期限に間に合わないかもしれません。どうすれば良いですか。

A 期日までに納入できない場合は、学費延納・分納の制度があります。学生部にて書類の配付・受付をしています。手続期限は次のとおりです。
前期：4月30日【厳守】／後期：9月30日【厳守】

Q 学費が10万円だけ足りません。大学での貸付制度はありますか。

A やむを得ない事情がある場合、短期貸付制度があります。他に方法が無い場合は国際学部教務課までご相談ください。

Q ケガをしてしまい、車で通学したいのですが、できますか。

A 医療機関が発行する診断書を持参のうえ、国際学部教務課までご相談ください。

こんな場合には？

こんなとき		ここで	こうする	
講義関係で	短期間欠席する	国際学部教務課	事前または事後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	3ヵ月以上欠席する	国際学部教務課	保証人と連署で、休学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)	
	休講・教室等講義に関係することが知りたい	国際学部教務課	毎日登下校時に、学部掲示板を見る。不明な点は国際学部教務課に問い合わせる。なお、休講情報は大学のホームページ上でも確認できる。	
	教員と面談したい	国際学部教務課	学部掲示板・ホームページで教員のオフィスアワーを確認する。 または、国際学部教務課に問い合わせる。	
	登録に際し、不明な点がある	国際学部教務課	履修要項熟読の上、登録日までに照会・相談する。	
	成績に疑義・質問がある	国際学部教務課	掲示された所定期間に申し出る。(印鑑必要)	
学業・修学についてわからないこと、知りたいことがある。		国際学部教務課	随時、照会・相談する。	
試験関係で	突発事由で試験に欠席して追試を願い出たい	国際学部教務課	欠席後その科目の試験日を含め4日以内(土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内)に届け出る。(診断書等理由を証明できるもの、印鑑必要)	
	試験の日時を知りたい	国際学部教務課	試験実施日の14日前に掲示・発表される。	
	受験に際し、学生証の不携帯に気がついた	国際学部教務課	試験用臨時学生証の交付を受けて受験し、受験後ただちに国際学部教務課に返却する。	
交通機関ストライキ・台風等の場合の授業は？			授業休止の取扱基準の欄を参照のこと。	
学籍関係で	現住所を変更した	本人	国際学部教務課 変更後ただちに届け出、学生証の住所を変更する。(印鑑必要)	
		保証人	国際学部教務課 変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	氏名を変更した	本人	国際学部教務課 変更後ただちに届け出、学生証の氏名を変更する。(住民票記載事項証明書・印鑑必要)	
		保証人	国際学部教務課 変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	保証人を変更するとき		国際学部教務課	変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)
	休学したい		国際学部教務課	保証人と連署で休学を願い出、許可を受ける。(理由書又は診断書添付・印鑑必要)
	復学したい		国際学部教務課	保証人と連署で学期開始日1ヵ月前までに復学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)
	退学したい		国際学部教務課	保証人と連署で退学を願い出、許可を受ける。(理由書または診断書と学生証添付・印鑑必要)
	編・転入試験を受けたい		国際学部教務課	随時、照会・相談する。
再入学したい		国際学部教務課	国際学部教務課で相談の上、入試部に問い合わせる。	

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学修引生活きの

Q & A

教員

付録

	こんなとき	ここで	こうする
証 明 書 関 係 で	学生証の交付を受ける	国際学部教務課	入学時に交付を受け、卒業まで使用する。ただし、「在籍確認シール」を毎年学年始めに配布する。
	学生証を紛失した	国際学部教務課	紛失後ただちに届け出る。最寄りの警察へも届け出る。
	学生証の再交付を受ける	国際学部教務課	発行機にて「学生証再交付願」（再交付手数料1,000円）の交付を受け、提出する。顔写真を変更希望する場合は写真が必要。（印鑑必要）
	通学定期券を購入したい	各交通機関	学生証を各交通機関の窓口に表示した上、購入する。
	通学証明書がほしい	国際学部教務課	必要時に申し込む。無料・即日交付。
	学割証がほしい	証明書自動発行機	各種証明書の交付の欄を参照。
	団体旅行割引証がほしい	国際学部教務課	クラス・ゼミの場合、必要時に申し込む。即日交付。
経 済 生 活 の 面 で	アルバイトの紹介	学 生 部	紹介物件を掲示板で確認し、各自窓口で申し込む。
	奨学金を希望するとき	学 生 部	学生手帳「奨学金」の欄を参照。
	授業料の納入がおくれるとき	学 生 部	延納一括・分納最高3回分割の制度があるので、学生部へ所定の期間内に申し出ること。その場合、前期は7月15日、後期は12月15日まで延・分納できる（ただし、15日が土日祝日の場合は金融機関の翌営業日）。（印鑑が必要）
	生活費の支弁が困難なとき	学 生 部	学生手帳「短期貸付制度」の欄を参照
課 外 活 動 の こ と	団体を結成するとき（同好会・県人会など）	学 生 部	前もって課外活動担当者の相談を受け、所定用紙に必要事項を記入し、提出する。（印鑑が必要）
	課外活動諸団体への入部	各 団 体	直接各団体に申し込む。学生手帳「課外活動のすすめ」の欄を参照。
	課外活動でのいろいろな問題	学 生 部 学 生 相 談 室	各団体の長や先輩に相談する。相談できない時は、部長・顧問の先生または学生部・学生相談室で相談する。
	集会をする時	学 生 部	前もって学生部で所定の手続をして、会場等の調整を計ること。
	合宿をするとき	学 生 部	所定の用紙で合宿の10日前までに届け出る。
施 設 の 利 用	大学指定合宿施設を利用するとき	学 生 部	学生手帳「大学指定合宿施設」の欄を参照。
	教室を借用したいとき	学 生 部	所定の用紙で願い出ること。
	学友会館のホール・会議室等を利用したいとき	学 友 会 館 事 務 室	所定の用紙で願い出ること。学生手帳「学友会館」の欄を参照。
	ものを紛失・拾得または盗難にあったとき	学 生 部 国 際 学 部 教 務 課	ただちに学生部または、国際学部教務課に申し出る。
	種々の問題で悩んでいる時	学 生 相 談 室 国 際 学 部 教 務 課	学生手帳「学生相談室」の欄を参照。 悩んでいること、困っていることは遠慮せず早目に相談すること。
	正課または正課外において災害事故にあったとき	学 生 部	学生手帳「学生災害事故療養費等給付」の欄を参照。
	健康相談、診療および応急処置をうけたいとき	保 健 管 理 セ ン タ ー	学生手帳「保健管理センター」の欄を参照。

教 員

国際学部専任教員名簿……………	88
国際文化学科専任教員紹介……………	89

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
引修
生
活
き
の

Q
&
A

教

員

付

録

国際学部 専任教員名簿

	教員氏名	Name	所属 学科	所属コース	研究室
あ	泉 文明	IZUMI, Fumiaki	IC	世界と日本	和-410
	磯江 源	ISOE, Gen	IC	多文化共生	和-409
か	カルドネル シルヴァン	CARDONNEL, Sylvain	IC	芸術・メディア	和-411
	カルロス マリア レイナルース	CARLOS, Maria Reinaruth	IC	世界と日本	和-415
	河合 沙織	KAWAI, Saori	GS		和-426
さ	斎藤 文彦	SAITO, Fumihiko	GS		和-434
	佐々木 英昭	SASAKI, Hideaki	IC	芸術・メディア	和-407
	佐野 東生	SANO, Tosei	IC	多文化共生	和-408
	サルズ ジョナ	SALZ, Jonah	IC	芸術・メディア	和-403
	史 彤嵐	SHI, Tonglan	IC	世界と日本	和-406
	清水 耕介	SHIMIZU, Kosuke	GS		和-431
	杉本バウエンス ジェシカ	SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica	IC	芸術・メディア	和-429
	徐 光輝	XU, Guanghui	IC	世界と日本	和-418
	壽崎 かすみ	SUSAKI, Kasumi	IC	多文化共生	6-426
	鈴木 滋	SUZUKI, Shigeru	IC	多文化共生	和-412
た	瀧口 順也	TAKIGUCHI, Junya	GS		和-432
	瀧本 真人	TAKIMOTO, Masato	GS		和-436
	嵩 満也	DAKE, Mitsuya	IC	世界と日本	和-413
	ターヒュン ノエル	TERHUNE, Noel	IC	多文化共生	和-402
	チャプル ジュリアン	CHAPPLE, Julian	GS		和-437
	陳 慶昌	CHEN, Ching-Chang	GS		和-433
	友永 雄吾	TOMONAGA, Yugo	IC	世界と日本	和-401
な	長尾 明子	NAGAO, Akiko	GS		和-427
	中根 智子	NAKANE, Satoko	GS		和-435
は	林 則仁	HAYASHI, Norihito	IC	多文化共生	和-430
	朴 炫国	PARK, Hyunkuk	IC	世界と日本	和-428
	久松 英二	HISAMATSU, Eiji	IC	多文化共生	和-517
	ピゴット ジュリアン	PIGOTT, Julian	GS		和-438
	ファーマノフスキー マイケル	FURMANOVSKY, Michael	IC	芸術・メディア	和-416
	福山 泰子	FUKUYAMA, Yasuko	GS		和-425
	二葉 晃文	FUTABA, Terufumi	IC	多文化共生	6-408
	ブラドリー ウィリアム	BRADLEY, William	GS		和-440
	古川 秀夫	FURUKAWA, Hideo	IC	多文化共生	和-419
ま	松居 竜五	MATSUI, Ryugo	IC	芸術・メディア	和-423
	松村 省一	MATSUMURA, Shoichi	GS		和-439
	三谷 真澄	MITANI, Mazumi	IC	世界と日本	和-414
や	八幡 耕一	YAWATA, Koichi	IC	芸術・メディア	和-417
ら	劉 虹	LIU, Hong	IC	世界と日本	和-404
わ	脇田 博文	WAKITA, Hirofumi	GS		和-424

IC・・・Intercultural Communication (国際文化学科)

GS・・・Global Studies (グローバルスタディーズ学科)

和・・・和顔館

6・・・6号館 (紫英館)

国際文化学科 専任教員紹介



泉 文明
IZUMI, Fumiaki

職名	教授
学歴・学位	博士（文学）
専門分野	日本語学／日本語教育学／応用言語学／京都学／国際協力論／社会文化論
研究分野	複合新領域
研究テーマ	語彙研究／文字表記研究／コミュニケーション論／応用言語学／京都学／言語文化研究
研究キーワード	言語／文化／社会／京都
主な研究活動等	韓国日本語教育学会（理事）・日本語教育学会（評議員）・他諸学会会員。国際文化フォーラム専門員・国際交流基金北京日本学術研究センター講師。REC講座・NHK文化センター・京都府市民講座等も担当。



磯江 源
ISOE, Gen

職名	教授
学歴・学位	Ph.D., Linguistics, The University of Michigan
専門分野	統語論／音声学／比較言語学
研究分野	人文学 言語学
研究テーマ	日本語とインドヨーロッパ語の主題と主語。調音音声学による発音教育。
研究キーワード	主題／主語／動作主／母音／二重母音／半母音／子音
主な研究活動等	「“Subject” and “Topic” in Japanese」（龍谷大学国際文化研究第10号・2006）、「The Non-agentive Subject and the Notion of “Sentence”」（龍谷大学国際文化研究第11号・2007）

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
引生活
きの

Q
&
A

教

員
付

録



カルドネル シルヴァン
CARDONNEL, Sylvain

職名	教授
学歴・学位	文学修士号（哲学）〔パリ第12大学〕 博士号（哲学）〔トゥールーズ・ル・ミライユ大学〕
専門分野	哲学
研究分野	人文学／哲学
研究テーマ	西田哲学の西洋解釈／日本の「近代」／日本文学翻訳。
研究キーワード	西田幾多郎／近代の超克／日本近代史
主な研究活動等	西田幾多郎の「場所的論理と宗教的世界観」の共同仏訳、村上龍の小説『ライン』の仏訳、村上龍の小説『共生虫』の仏訳、村上龍の小説『エクスタシー』の仏訳、村上龍の小説『メランコリア』の仏訳、沼正三の小説『家畜人ヤプー』の仏訳、村上龍の小説『Love & Pop』の仏訳、
一言コメント	趣味は育児です。
E-mail	sylvain@world.ryukoku.ac.jp



カルロス マリアレイナルース
CARLOS, Maria Reinhardt

職名	教授
学歴・学位	神戸大学大学院経済学研究科 博士（経済学）
専門分野	国際労働移動、アジアの経済、開発経済学
研究分野	社会科学 経済学 応用経済学
研究テーマ	国際労働移動の経済的分析 (1) 送り出し国から見た国際労働移動の要因と効果 (2) 高齢社会日本における外国人労働者、特に介護分野での役割 (3) 2カ国間経済連携協定のなかの国際労働移動
研究キーワード	外国人労働者／国際労働移動／経済連携協定／海外送金／高齢化と外国人介護士
主な研究活動等	「On the Determinants of International Migration in the Philippines: An Empirical Analysis.」(International Migration Review, Vol.36 No. 1, 2002) その他
一言コメント	全然泳げませんが、去年scuba divingの免許が取れました。「挑戦」する気持ちと行動に移す意思があれば何でも出来ますよー。Go for it!



佐々木 英昭
SASAKI, Hideaki

職名	准教授
学歴・学位	東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 学術博士〔東京大学〕
専門分野	比較文学／比較文化／日本近代文学
研究分野	人文学／文学／日本文学
研究テーマ	夏目漱石、特にその理論と創作の相互関係。乃木希典、平塚らいてうなど神話的人物像の現実的言説空間への還元。
研究キーワード	夏目漱石／乃木希典／平塚らいてう／暗示／suggestion／催眠術／神話的人物／言説空間／メディア
主な研究活動等	『新しい女の到来－平塚らいてうと漱石』（名古屋大学出版会・1994・第1回日本比較文学学会賞受賞）、『漱石文学全注釈8 それから』（若草書房・2000）、『乃木希典－予は諸君の子弟を殺したり』（ミネルヴァ書房・2005）など。 「暗示」実験としての漱石短篇」（2007）など。
一言コメント	一部学生の幼児化が進み、実にかわいいことである。 －ここ、わかったかい。 －ウン。 －先生に向かってはウンじゃなくて、ハイだ。わかったかい。 －ウン。 －……。
E-mail	sasaki@world.ryukoku.ac.jp



佐野 東生
SANO, Tosei

職名	教授
学歴・学位	ハーヴァード大学修士課程修了 慶応義塾大学博士課程満期退学 博士（法学）（龍谷大学）
専門分野	中東地域研究／イラン近現代史
研究分野	複合新領域／地域研究
研究テーマ	中東地域研究をイランを中心に行う。特にイラン近現代史を19世紀から今世紀まで考察。ナショナリズム系知識人の国家形成上の役割を研究。
研究キーワード	ナショナリズム／イスラーム／マイノリティ
主な研究活動等	『近代イラン知識人の系譜』ミネルヴァ書房 2010、Iranian Nationalism and Azerbaijan (Proceedings of 1st Symposium of Afrasian Center, Ryukoku Univ, 2006) 「イラン立憲革命期に至るアルメニア人イェプレム・ハーン Yeprem Khanの活動－イラン立憲制の起源と展開におけるマイノリティの役割に関する一考察」（龍谷大学国際社会文化研究、2007年）
一言コメント	仕事上、中東など海外に行く機会がありますが、現地 の人の親切さや社交性に助けられ、学ぶことが多いです。

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



サルズ ジョナ
SALZ, Jonah

職名	教授
学歴・学位	B.A. Haverford College M.A., Ph.D. New York University
専門分野	比較演劇／伝統芸能／狂言
研究分野	人文学／芸術学／芸術史／芸術一般
研究テーマ	伝統芸能の国際化 Samuel Beckettと日本 演劇と映画の比較
研究キーワード	狂言／ベケット／伝統芸能／演劇／映画
主な研究活動等	「Sadayacco and Otojirô Kawakami」、「Marriage Quarrel Themes in New Kyogen as Metaphor for Post-War Japan」(Co-editor, Asian Theatre Journal special issue, Kyogen. 24:1, 2007)、「Performing aesthetics compared, Korea and Japan: Creating a Zone for Discovery」(International Society and Culture Review No. 9, 2006: 49-68.)、「Mikazuki (Winnowing Love)」(Translation and introduction. Asian Theatre Journal 24:1, 2007: 61-73.)
一言コメント	書を捨て、町へ出よう！ 祭り、演劇、映画を見て、新しい世界が解る。
E-mail	jonah@world.ryukoku.ac.jp



史 彤嵐
SHI, Tonglan

職名	教授
学歴・学位	関西大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程単位取得満期退学 博士（文学）
専門分野	現代中国語文法／対外国人中国語教育
研究分野	人文学／言語学／外国語教育
研究テーマ	対日本人中国語教育の視点から見た現代中国語の文法
研究キーワード	補語
主な研究活動等	『ちょっとまじめに中国語』（共著・同学社・2001）、「V得C構文における“得”の文法機能」（『中国語学』2001）、「形容词重叠式作“得”后补语和状语—由“她把茶沏得酽酽的。”及“她酽酽地沏了一杯茶。”两类句式说起」（『中国語学』2005）、「“玩个痛快”“忙得个不亦乐乎”类补语考察」（『中国語教育』2006）



杉本パウエンス ジェシカ
SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica

職名	講師
学歴・学位	ルーヴァンカトリック大学日本学修士、同社会文化人類学修士、大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了（2007年）
専門分野	社会学／文化人類学／カルチュラル・スタディーズ
主な研究活動等	「論文」With Nora Renka, "Fanboys and" Naruto "Epics: Exploring New Ground in Fanfiction Studies" in: Jaqueline Berndt and Bettina Kuemmerling Meibauer, <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . 2013, Routledge. 「ル・ジャポンがカッコいいーフランスで受容される日本のポップカルチャー」、『ジェンダー白書 8ーポップカルチャーとジェンダー』、2012年、明石書店
一言コメント	ヨーガでmens sana in corpore sanoを目指しています。
E-mail	jess@world.ryukoku.ac.jp



徐 光輝
XU, Guanghui

職名	教授
学歴・学位	吉林大学歴史学修士
専門分野	中国考古学
研究分野	人文学／史学／考古学
研究テーマ	初期国家の形成過程の探索
研究キーワード	東アジア諸地域／集落形態／城郭／農耕文化／金属器
主な研究活動等	中国の農耕集落」（『東アジアと日本の考古学』・同成社・2003）、「東北アジアにおける集落形態研究」（『国際文化研究』10・龍谷大学・2006）、中国考古学会、考古学研究会所属。たまに市民講座などを担当。
一言コメント	書道、音楽のほか、衣食住と方言を含む民俗調査。
E-mail	xgh@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
引修
生活
きの

Q

&

A

教

員

付

録



壽崎 かすみ
SUSAKI, Kasumi

職名	准教授
学歴・学位	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻 博士課程修了 博士（工学）
専門分野	都市計画／住環境計画／まちづくり
研究分野	工学／都市計画・建築計画
研究テーマ	人にやさしい居住環境計画 自然と共生できる都市づくり
研究キーワード	都市計画／居住環境計画／持続可能な都市づくり
主な研究活動等	《論文》「子育てに適した地域システム実現のための計画策定への参加手法に関する基礎的研究」（地域学研究31巻）、「Planning for political minority」（PROSCO 2005 in CD-ROM） 《所属学会》日本都市計画学会、日本建築学会、日本地域学会、都市住宅学会、日本計画行政学会他 《社会貢献活動》大津市都市計画審議会委員、大阪府入札監査委員会委員、滋賀県公共事業評価監視委員会委員など IPA、JAHA会員
一言コメント	大学時代は好きなことが好きだけ勉強できる時間です。身につけたことは一生の財産です。卒業までに自分の財産をどれだけ増やせるか、挑戦してください。 大学にはいるとき、獣医になろうかと迷いました。毎日、ネコに遊んでもらってエネルギーをもらい、すごしています。趣味は子どもの影響ではじめたバイオリン演奏。退職するまでにそれなりに弾けるようになりたいのですが
E-mail	susaki@world.ryukoku.ac.jp



鈴木 滋
SUZUKI, Shigeru

職名	教授
学歴・学位	京都大学大学院理学研究科研究指導認定退学 博士（理学）〔京都大学〕
専門分野	人類学／霊長類学
研究分野	生物学／人類学／自然人類学
研究テーマ	アフリカ大型類人猿ゴリラとチンパンジーの種間関係の生態学的研究 野生ニホンザルの社会学的研究
研究キーワード	人類進化論／霊長類／社会構造／文化／アフリカ／屋久島
主な研究活動等	サルから見た里山『里山学のすすめ』（昭和堂・2007） 国際霊長類学会、日本霊長類学会（会計理事 2003-2007）、日本人類学会所属
一言コメント	屋久島でニホンザルの、アフリカでゴリラとチンパンジーのフィールドワークをしてきました。サルをはじめとするヒトと自然の関係についても注目しています。
E-mail	suzuki@world.ryukoku.ac.jp



高 満也
DAKE, Mitsuya

職名	教授
学歴・学位	龍谷大学文学研究科博士後期課程単位取得 文学修士
専門分野	親鸞思想
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	親鸞の思想形成と本覚思想／仏教と環境思想／浄土 真宗の海外開教
研究キーワード	親鸞思想／本覚思想／環境思想／海外開教
主な研究活動等	『共生する世界－仏教と環境』（編著・法蔵館）、『親鸞読 み解き事典』（共編著・柏書房）、『仏教生命観の流れ』 （共編著・法蔵館）、『中国北方仏教文化研究の新視座』 （編著・永田文昌堂）、「親鸞における〈浄土真実〉と〈浄 土方便〉の構想」（『真宗学』107・108合併号）など （所属学会）真宗学会（理事）、国際真宗学会（事務局 長）、日本宗教学会、日本宗教倫理学会、日本印度学・ 仏教学会、日本国際文化学会
一言コメント	世の中には大きすぎて見えないものだけでなく、身近す ぎて見えないものがある。だから、対象だけでなく、 自己についても距離を置いて考える習慣は大切である。 最近、学生時代に聞いた「億劫相別れて而も須臾も離 れず、尽日相對して而も刹那も對せず」という大燈國師 の言葉が、身に滲みて考え合わせられる。
E-mail	dake@world.ryukoku.ac.jp



ターヒュン ノエル
TERHUNE, Noel

職名	教授
学歴・学位	Master of Education, TESL
専門分野	Computer Assisted Language Learning
研究分野	人文学／言語学／英語学
研究テーマ	Computer Assisted Language Learning
研究キーワード	Computer, Language Learning, autonomous learning,
主な研究活動等	Learning to learn English with technology, Internet resources for English language learners and teachers, Designed for the task: a look at some task- based CALL materials,
一言コメント	Visit beautiful places

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q

&

A

教

員

付

録



友永 雄吾
TOMONAGA, Yugo

職名	准教授
学歴・学位	総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻 修了（国立民族博物館） 博士（文学）
専門分野	文化人類学（含民族学・民俗学）／教育学／人文地理学／社会学
研究分野	社会・文化人類学、環境人類学
研究キーワード	国際関係論、国際協力論、教育社会学、国際理解教育
主な研究活動等	＜書籍＞（単著）：『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』（2013）、（共著）：『人権教育年表』（2013）等。 ＜論文＞（共著）：“Environmental Anthropological Study of Watershed Management”（2014）、 “Improvement of Water and Wastewater Treatment Process Using Various Sound Waves”（2014）、（単著）：「自治体が展開する国際理解教育としてのスタディツアーの意義」（2014）、 “The Buraku Situation after the Abolishment of the Law on Special Measures for Dowa Projects”（2014）等。
一言コメント	文献上の知識、頭だけでなく身体全体で確かめ、観察し考えることで得る知識や経験、それを社会で実践し自己を省察する、そうした「実践知」を共に学びましょう。



林 則仁
HAYASHI, Norihito

職名	講師
学歴・学位	ロンドン大学SOAS、B.A.、M.A.修了 龍谷大学大学院国際文化学研究科博士課程修了 博士（国際文化学）
専門分野	美術史／建築史・意匠
主な研究活動等	『アジアの芸術史・造形篇Ⅱ』（共著・幻冬舎・2013）、 「バルシアの細密画にみる創造物の不思議」『民族芸術』（28・2012）、 「The Turkman Commercial Style of Painting : Origins & Development Reconsidered」 （ORIENT・2012）
一言コメント	国内外の庭園を散策してまわることが好きです。最近はその写真を残すべく、カメラのテクニックを修得中。
E-mail	hayashi@world.ryukoku.ac.jp

朴 炫国
PARK, Hyunkuk

職名	教授
学歴・学位	円光大学校師範大学国語教育科（学士） 忠南大学校大学院国語国文学科（修士） 中央大学校大学院国語国文学科（博士）
専門分野	韓国文学／民俗学
研究分野	人文学／文学／各国文学・文学論
研究テーマ	韓国文学特に韓国口伝文学 民俗文化特に伝統的な村の祭りを含めて伝統文化
研究キーワード	韓国文学／口伝文学／民俗文化／村の祭り／伝統文化
主な研究活動等	「近江八幡の左義長祭りについて」、『比較民俗学』（第33輯・2007）、『韓国語発音と演習』（白帝社・2004）、『銅雀区の民俗文学』（民俗苑・1997）、『韓国空間説話研究』（国学資料院・1995）等。 朝鮮学会、民俗学会、比較民俗学会、昔話学会 等の会員
一言コメント	いつも新しい所や新しいことを捜して創造的な靈感を得ようとしています。
E-mail	paku@world.ryukoku.ac.jp



久松 英二
HISAMATSU, Eiji

職名	教授
学歴・学位	ウィーン大学大学院神学専攻博士課程修了・神学博士
専門分野	宗教学
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	諸宗教（とりわけキリスト教）／仏教／イスラーム教の 神秘思想の比較研究
研究キーワード	比較宗教／神秘思想
主な研究活動等	『Gregorios Sinaites als Lehrer des Gebetes』（単著）、 『キリスト教修道制』（共著）、『中世と近世のあいだ』（共著）、 『祈りの身心技法』（単著／キリスト教史学会学術奨励賞）、 ルードルフ・オットー著『聖なるもの』（岩波文庫）、 『ギリシア正教 東方の智』（単著／講談社選書メチエ）
一言コメント	キリスト教を専門とする私が本学で宗教を教え、研究することに大きな喜びと誇りを感じています。 諸宗教間の対話促進を目標に、教育・研究に励みたいと思っています
E-mail	hisamatsu@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



ファーマノフスキー マイケル
FURMANOVSKY, Michael

職名	教授
学歴・学位	UCLA M.A (U.S History) 1980 C. Phil (U.S History) 1982
専門分野	Popular Culture / American History / EFL
研究分野	総合領域
研究テーマ	Popular Music History Japanese Popular Culture Contemporary American History Content Teaching in EFL, CALL
研究キーワード	Popular Culture / African-American History / CALL / Vietnam / American Communist Party
主な研究活動等	「Jews in the American Communist Movement」(2002)、 「American Country Music in Post-War Japan」(2006)、 「Street Children in Vietnam」(2009)、「Outselling the Beatles」(2010).
一言コメント	Japanese Pop Music History, Street children in Asia, Bilingual Education
E-mail	michael@world.ryukoku.ac.jp
URL	http://mikefurm.livejournal.com



二葉 晃文
FUTABA, Terufumi

職名	教授
学歴・学位	Ph.D. in Educational Linguistics University of Pennsylvania (1994)
専門分野	Educational Linguistics
主な担当科目	英語 (今までの使用テキスト (こころの音読) 斎藤兆史著 講談社)
研究テーマ	Earth Pilgrim こころとことば
研究キーワード	地球巡礼 「心の免疫力を高める「ゆらぎ」の心理学」雄山真弓博士著 (詳伝社新書)
主な研究活動等	ナマケモノ倶楽部 (京都限定) 世話人 「はだして歩こう会」主宰
一言コメント	「いい人ぶらずに生きてみよう」千 玄室 (2010) 集英社新書
E-mail	futaba@world.ryukoku.ac.jp



古川 秀夫
FURUKAWA, Hideo

職名	教授
学歴・学位	大阪大学人間科学研究科博士課程後期単位取得退学 学術修士
専門分野	社会心理学／社会学／心理学
研究分野	社会科学／社会学
研究テーマ	サービスラーニングの心理・社会的影響
研究キーワード	サービス・ラーニング／ボランティア／インターン シップ／NPO、NGO／ゆとり／観光／働きがい
主な研究活動等	『現代日本のボランティア像（龍谷大学社会文化研究所 叢書1）』（思文閣出版・2002）、「学生ボランティアに関 する日英比較」（『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』 第8号・2006）、「中国の学生ボランティア」（『龍谷大 学国際社会文化研究所紀要』第9号・2007） 日本社会心理学会 日本社会学会 日本心理学会所属
一言コメント	教育・研究いずれも「遊び」の要素が大切です。単 位や業績の手段でなく、それ自体を楽しみたいです。 学会出張旅行やゼミ旅行も重要な「遊び」を構成し ます。
E-mail	furukawa@world.ryukoku.ac.jp



松居 竜五
MATSUI, Ryugo

職名	教授
学歴・学位	東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専 攻中退 学術修士
専門分野	比較文学比較文化
研究分野	人文学 文学 日本文学
研究テーマ	日本文化の比較文化的研究（特に南方熊楠の総合的 研究）／日本民俗学史の研究／マンガの影響力を中心 とするサブカルチャー研究
研究キーワード	比較文学／比較文化／民俗学／南方熊楠／生態学／ マンガ／サブカルチャー
主な研究活動等	著書に『南方熊楠、一切智の夢』（1991）、『達人た ちの大英博物館』（共著・1996）、『クマグスの森』 （2007）などがある。小泉八雲奨励賞受賞（1992）。 日本国際文化学会常任理事・学会誌編集委員。南方 熊楠顕彰会理事・学術委員。英国での日英元軍人による 和解活動への協力をおこなっている。
一言コメント	最近「研究」を離れて文学作品の古典を読むのが楽 しくてしかたありません。素直に読んで素直に楽し む。これに勝る贅沢はないように感じています。
E-mail	rmatsui@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



三谷 真澄
MITANI, Mazumi

職名	教授
学歴・学位	広島大学文学部哲学科インド哲学専攻 卒業 龍谷大学文学研究科博士課程仏教学専攻 単位取得 文学修士
専門分野	仏教文化学、古写本学
研究分野	人文学／哲学／印度哲学・仏教学
研究テーマ	アジアの仏教文化の諸相
研究キーワード	仏教文献学／古写本学／中央アジア／旅順博物館
主な研究活動等	「ブッダパーリタの言語観」（『親鸞と人間—光華会 宗教研究論集第三巻』永田文昌堂・2002）、「『賢愚 経』研究における諸問題」（『中国北方仏教文化研究 における新視座』永田文昌堂・2004）、「龍谷大学所 蔵青木文教師収集資料について」（『仏教学研究』 60・61合併号・2006） 《所属学会》 日本印度学仏教学会・日本仏教学会・龍谷仏教学会・ 仏教史学会・日本西蔵学会・日本国際文化学会等
一言コメント	自らを固定化せず、常に「驚き」のある日々を送り たい。一つの道を究めれば、国や言語の枠を越えて 多くの人々とつながっていくことを、学生諸君と共 有したいと思う。
E-mail	mitani@world.ryukoku.ac.jp



八幡 耕一
YAWATA, Koichi

職名	准教授
学歴・学位	北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士後期 課程修了 博士（国際広報メディア）
専門分野	社会学／政策科学
研究分野	社会科学／社会学
研究テーマ	メディア研究／情報文化論／情報通信／放送政策／ ジャーナリズム論／情報社会学
主な研究活動等	主要論文「ハクティビズムと情報文化空間の公益性 に関する考察:ミシェル・ド・セルトーの『戦術』概 念の観点から」、「情報文化の空間構造に関する試 論:『個』に焦点化した空間モデルを求めて」、「情 報文化の主体を眺める視座:オルタナティブとアノ ニマス」(以上、『情報文化学会誌』)等。 所属学会:情報文化学会、日本マス・コミュニケー ション学会、観光情報学会、日本リスクマネジメン ト学会、International Communication Association
一言コメント	「何かに疑いを持ったら、いつでもオリジナル・データ、 生のファクトにぶちあたるまで疑いをおしすすめよ」(立花 隆)
E-mail	yawata@world.ryukoku.ac.jp



劉虹
LIU, Hong

職名	教授
学歴・学位	上海外国語大学对外漢語教学研究科博士後期課程現代言語学専攻修了 博士（文学）〔上海外国語大学〕
専門分野	言語学
研究分野	社会科学
研究テーマ	会話分析／社会言語学／日中文化比較
研究キーワード	discourse analysis, conversational analysis, social linguistics. 会話分析、社会言語学、日中文化、現代中国
主な研究活動等	『中国語言語学』（北京語言文化大学出版社）、『会話結構分析』（北京大学出版社）、『いきいき中国語（上・下）』（中華書店）、『新編30天漢語通（初級・中級）』（中国華語教学出版社） The International Association of Chinese Linguistics 日本中国語学会 日本中国語教育学会
一言コメント	読書、音楽鑑賞と最も平凡なものを趣味としている。
E-mail	liu@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

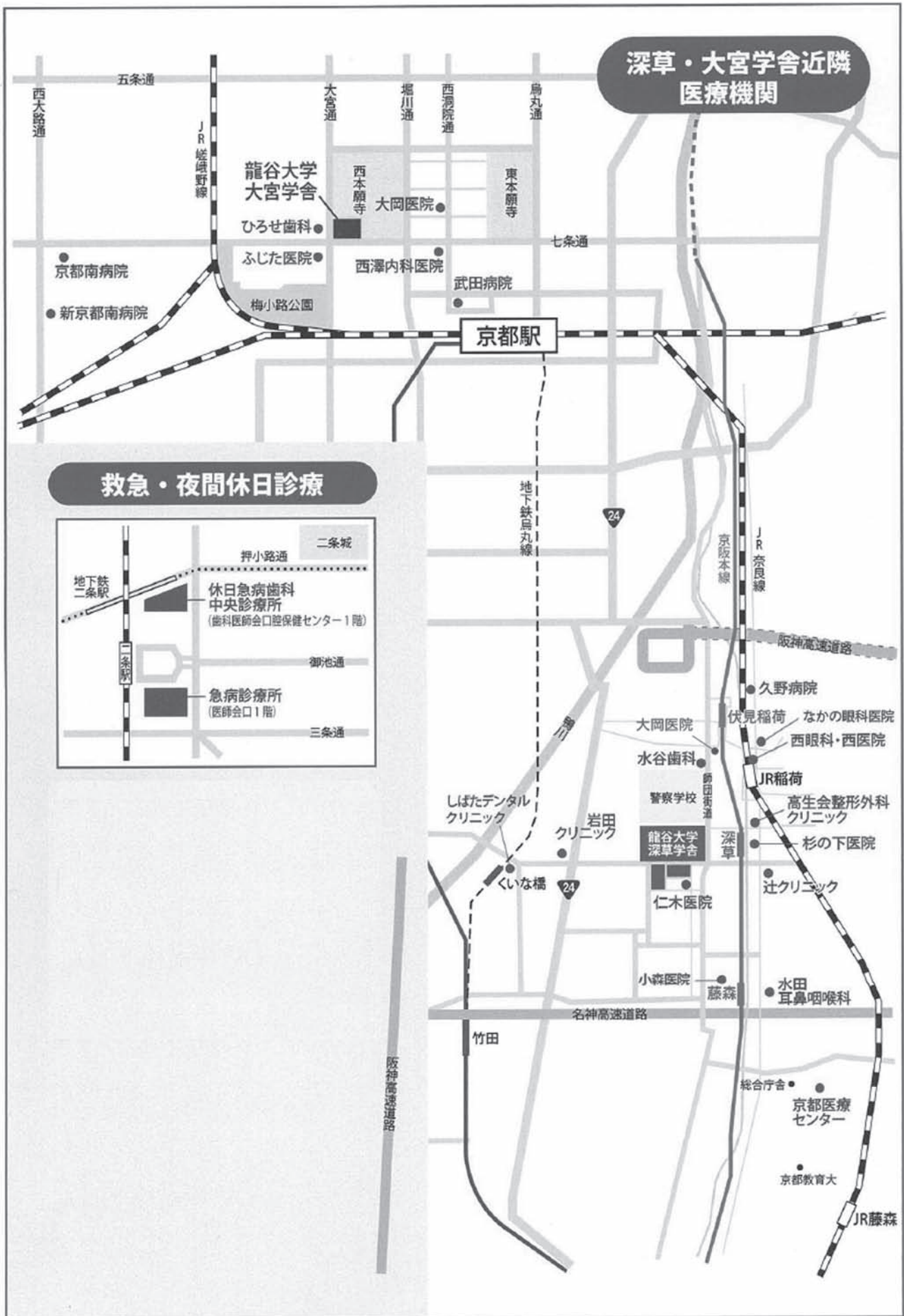
Q
&
A

教
員

付
録

付 録

深草・大宮学舎近隣医療機関	104
学舎・教室見取図	108
留学サポートデスクについて	131



救急・夜間休日診療

※ 夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療受付時間
京都市急病診療所	JR二条駅すぐ 京都市中京区西ノ京東桐尾町6 (京都府医師会館1階)	354-6021	内科 眼科 耳鼻咽喉科	<内科・眼科> 土: 18:00~22:00、 日・祝、8/15・16、12/29~1/4: 10:00~17:00、18:00~ 22:00 <耳鼻咽喉科> 日・祝、8/15・16、12/29~1/4: 10:00~17:00
京都市休日急病歯科中央診療所	京都市中京区西ノ京東桐尾町1 JR二条駅前 京都府歯科医師会口腔保健センター1階	812-8493	歯科	日・祝、8/15・16、12/29~1/4: 10:00~17:00
京都府精神科救急情報センター		323-5280	精神科	月~金: 17:00~翌日8:30 土日・祝及び年末年始: 24時間

深草・大宮学舎近隣医療機関

※ 診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

※ 救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認してください。

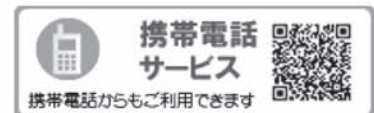
病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土		
総合病院	京都医療センター ※救急指定病院	深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑町1-1	641-9161	8:30~10:30	○	○	○	○	○	×	12/29~1/3休診
	久野病院 ※救急指定病院	JR「稲荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	8:45~12:00 ☆時間注意	○	○	○	○	○	○	☆ 月 17:15~20:00 火~土 17:45~20:00
	康生会 武田病院 ※救急指定病院	JR「京都」駅中央郵便局横 京都市下京区堀小路通西洞院東入東堀小路町 841-5	361-1351	8:00~12:30 13:00~16:00	☆診療科により 診療日異なる						
	京都市南病院	市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	8:30~12:00 13:30~16:30	☆診療科により 診療日異なる						
	新京都南病院 ※救急指定病院	市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御所ノ内北町94番地	322-3344	9:00~12:00 16:30~19:30	○	○	○	○	○	○	☆17:30~19:30
内科	仁木医院	砂川東児童公園横 京都市伏見区西蒲町4丁目21	641-2411	9:00~12:00 17:30~19:30	○	○	○	×	○	○	内科・循環器科
	西医院	「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	641-6251	9:00~11:30 17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科/眼科併設
	ふじた医院	七条大宮西南角 京都市下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	9:00~12:00 17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科
	西澤内科医院	JR「京都」駅より徒歩5分 京都市下京区七条西洞院七条下ル大黒町253	343-5022	9:00~13:00 16:30~19:30	○	○	☆	○	○	○	☆8:15~12:00 内科・神経内科・循環器科
外科	辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区直達橋9-184-2	641-3073	9:00~12:30 16:30~19:30	○	○	○	○	○	○	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科
	岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1	646-2880	8:40~12:00 17:10~20:00	○	○	○	○	○	○	外科・胃腸科・内科・皮膚 科・肛門科
外整形科	高生会整形外科クリニック	京阪「深草」駅 東へ徒歩1分 京都市伏見区直達橋10-157-2	647-2828	9:00~12:00 16:30~19:00	○	○	○	○	○	○	
眼科	西眼科クリニック	JR「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	646-1900	9:00~12:00 16:00~19:00	○	○	○	×	○	☆	☆9:00~13:00
	なかの眼科	JR「稲荷」駅下車 北へ 京都市伏見区深草稲荷中之町45	645-1572	9:00~12:00 17:00~19:00	○	○	○	○	○	○	
耳鼻科	大岡医院(稲荷診療所)	JR「稲荷」徒歩5分 京阪「伏見稲荷」徒歩2分 伏見区深草区深草菟川町21 ファインブルーム伏見稲荷 1F	642-3387	9:00~12:00 16:30~19:30	○	○	○	○	○	○	睡眠検査 水夜(要予約)
	大岡医院(七条診療所)	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院正面下ル鍛冶屋町435-1	371-3387	9:00~12:30 17:00~19:30	○	○	※	○	○	○	※手術・検査のみ
婦人科	杉の下医院(女医)	京阪「深草」駅東側 京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	9:00~12:00 17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	婦人科・内科・皮膚科
歯科	くいなばしばたデンタルクリニック	地下鉄「くいな橋」駅1番出口すぐ 京都市伏見区竹田中島町206 地下鉄くいな橋駅前ビル1階	643-3545	10:00~13:00 15:00~20:00	○	○	○	○	○	○	▲第2.4木曜午後休診 ※15:00~17:00 初診受付19:30まで
	水谷歯科	師団街道警察学校の北側 京都市伏見区深草菟川町24-1	641-0675	9:00~12:00 15:00~19:00	○	○	○	×	○	○	☆14:00~18:00
	ひろせ歯科医院	平安高校となり 京都市下京区大宮通り七条上ル御器屋町43	361-6480	9:00~13:00 15:00~19:00	○	○	○	○	○	○	【予約制】
皮膚科	小森医院	京阪「藤森」駅 出口2からすぐ 京都市伏見区深草堀田町10-10-スマンション藤森C204 マックスバリュー上	643-6355	9:30~12:45 14:00~15:45 17:00~19:45	○	○	○	○	○	○	

現在診療中の医療機関を探したいとき

【京都健康医療 よろずネット】

075-694-5499(自動音声・FAXサービス)

<http://www.mfis.pref.kvoto.lg.jp>



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学修引生活の

Q & A

教員

付録

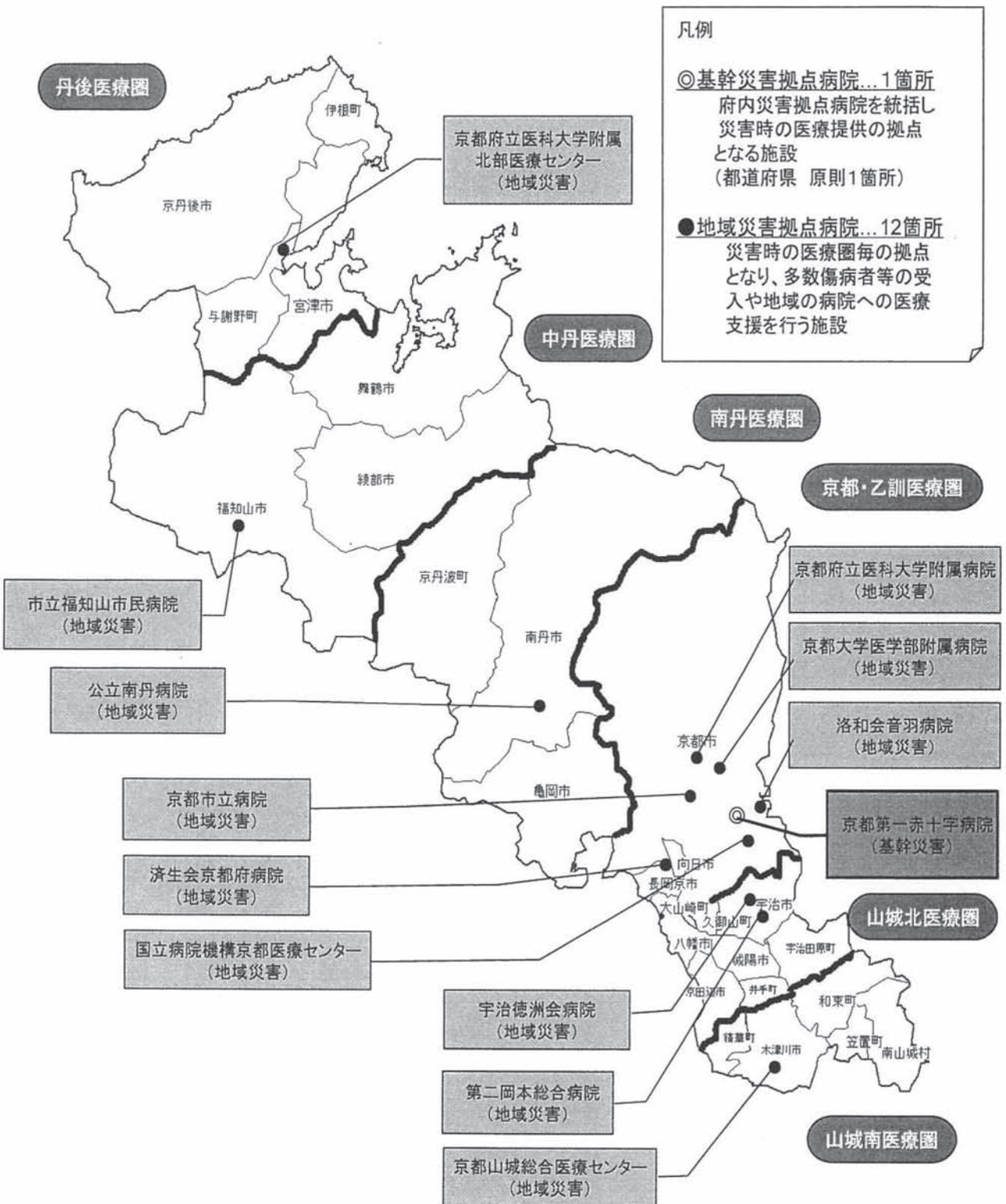
深草・大宮・瀬田学舎近隣処方箋受付薬局

	病院名	住所	電話番号	FAX	開局時間		
					平日	土曜日	日曜・祝日
深草	アビス薬局 伏見稲荷店	伏見区深草稲荷御前町72-1	075-624-8721	075-624-8722	9:00~20:00(月水金) 9:00~14:00(火木)	9:00~13:00	休局
	ほうめい薬局	伏見区深草直達橋11丁目140	075-646-2337	075-646-2447	9:00~13:00 16:00~19:00(13:00~16:00閉局)	9:00~12:30	休局
	つかさ薬局	伏見区深草西浦町7丁目73-1	075-647-3201	075-647-3202	9:00~17:00	9:00~12:00	休局
大宮	クローバー薬局	下京区大宮通七条下ル御器屋町66-1	075-342-5411	075-342-5412	9:00~19:30 9:00~17:00(火)	9:00~17:00	休局
	さくら薬局 京都駅前店	下京区塩小路通西洞院東	075-353-2066	075-353-2065	9:00~21:00 9:00~18:00(火・金)	9:00~17:00	休局
瀬田	スギ薬局 瀬田店	大津市大萱一丁目7-17	077-548-3901	077-548-3902	10:00~22:00	10:00~22:00	開局
	スズキ薬局	大津市大萱一丁目16-1 瀬田アーバンホテル1階	077-543-3331	077-543-3332	9:00~21:00	9:00~17:00	休局

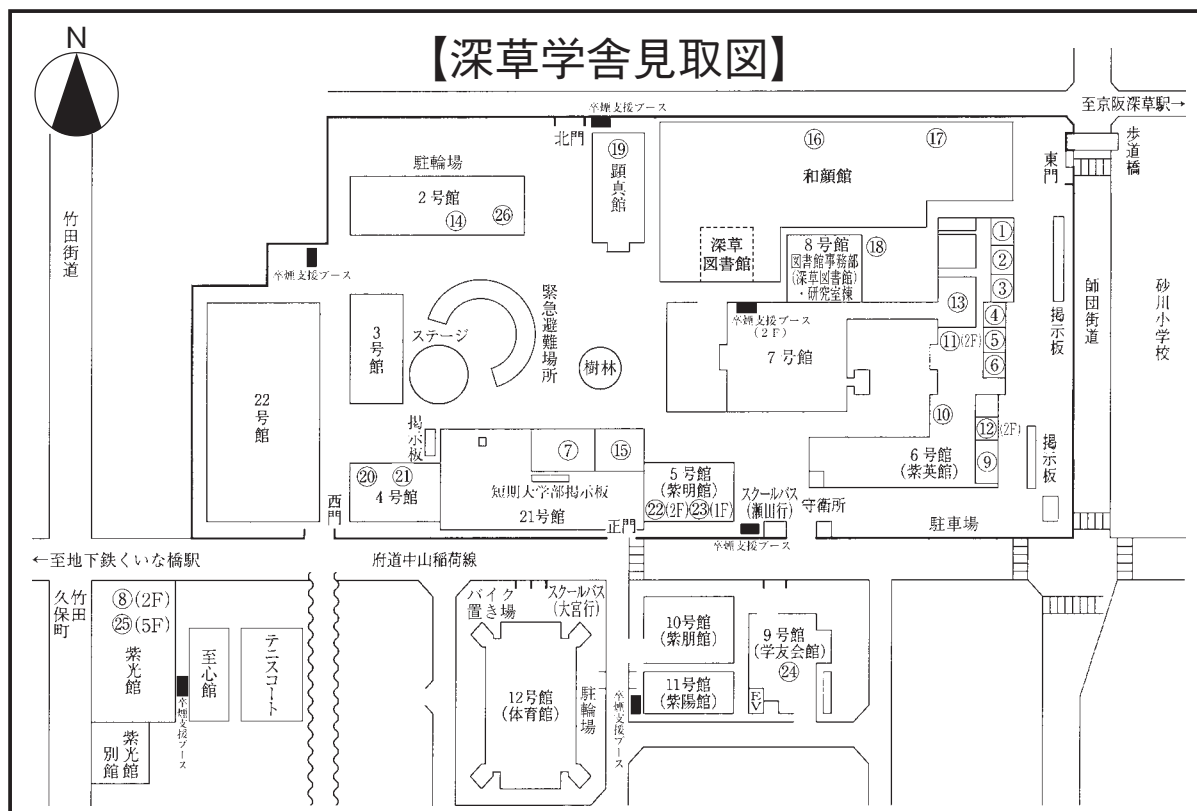


京都府における災害拠点病院

(平成27年4月1日現在)



履修の心得
教育課程
卒業論文
諸課程
手学修引生活の
Q & A
教員付録



深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

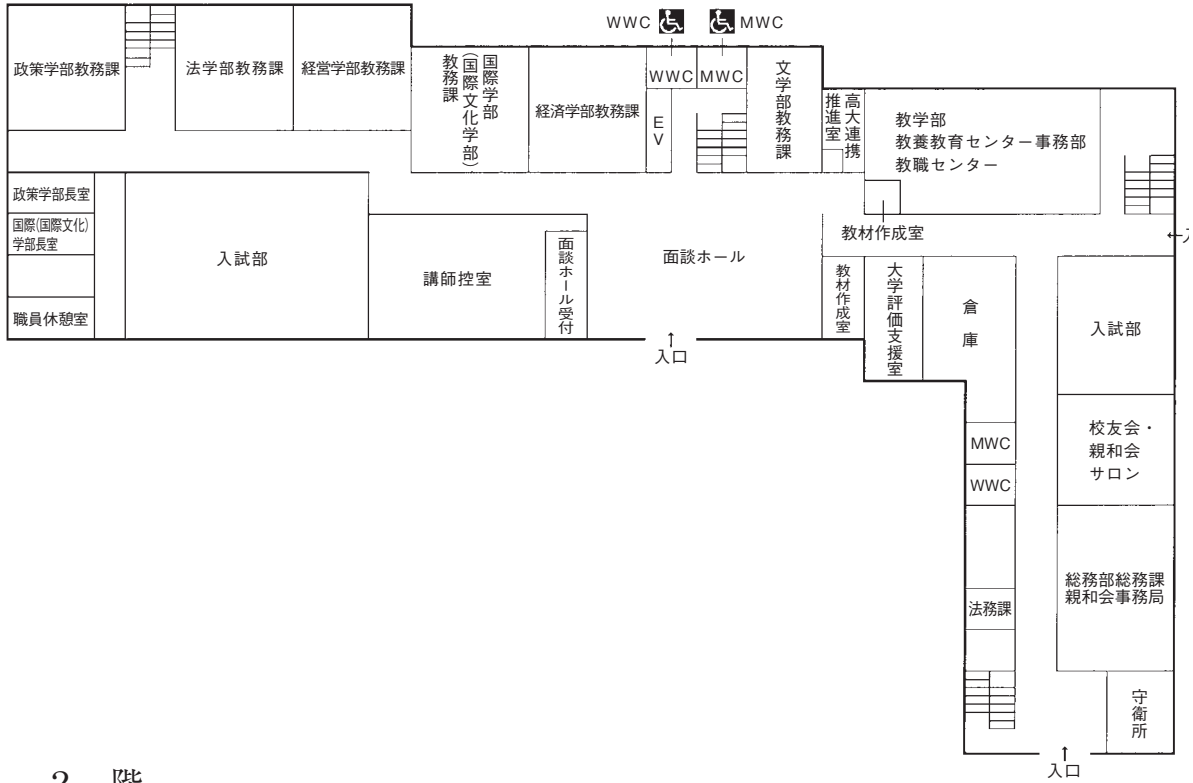
市外局番は「075」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 政策学部教務課	政策学部の科目に関すること	645-2285	645-2101
② 法学部教務課	法学部の科目に関すること	645-7896	643-9901
③ 経営学部教務課	経営学部の科目に関すること	645-7895	643-9901
④ 国際学部 (国際文化学部) 教務課	国際学部(国際文化学部)の科目に関すること	645-5645	645-6444
⑤ 経済学部教務課	経済学部の科目に関すること	645-7894	645-6444
⑥ 文学部教務課	文学部の科目に関すること	645-7893	645-6444
⑦ 短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター	短期大学部の科目・実習・社会活動に関すること	645-7897 645-7906	645-2825
⑧ 法科大学院教務課	法科大学院の科目に関すること	645-2070	645-2071
⑨ 教育学部 教養教育センター事務部 教職センター	深草・大宮学舎の教養教育科目に関すること 教室に関すること 教職課程に関すること	645-7891	643-5021
⑩ 教材作成室	印刷が必要な教材作成に関すること	645-7891	643-5021
⑪ 研究部(深草) [2階]	各種研究支援に関すること	645-7922	645-2033
⑫ 総務部人事課 [2階]	人事・給与に関すること	645-7874	645-8685
⑬ 講師控室(6号館)			
⑭ 講師控室(2号館)	大学からの通知・連絡		
⑮ 障がい学生支援室	障がい学生支援に関すること	645-5685	645-2825
⑯ 学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関すること	645-2163	645-2190
⑰ グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関すること	645-7898 645-5651	645-2020 645-5652
⑱ 図書館事務部(深草)	図書館利用に関すること	645-7885	645-8691
⑲ 宗教部	宗教教育・宗教行事に関すること	645-7880	645-7939
⑳ 学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関すること	645-7889	644-2988
㉑ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	645-7879	643-9909
㉒ 情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関すること メディア教材作成に関すること	645-2108	645-2109
㉓ キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	645-7878	645-5556
㉔ 龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関すること	645-2047	645-2064
㉕ REC事務部(京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関すること	645-7892	645-9222
㉖ 生活協同組合	購買(書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774

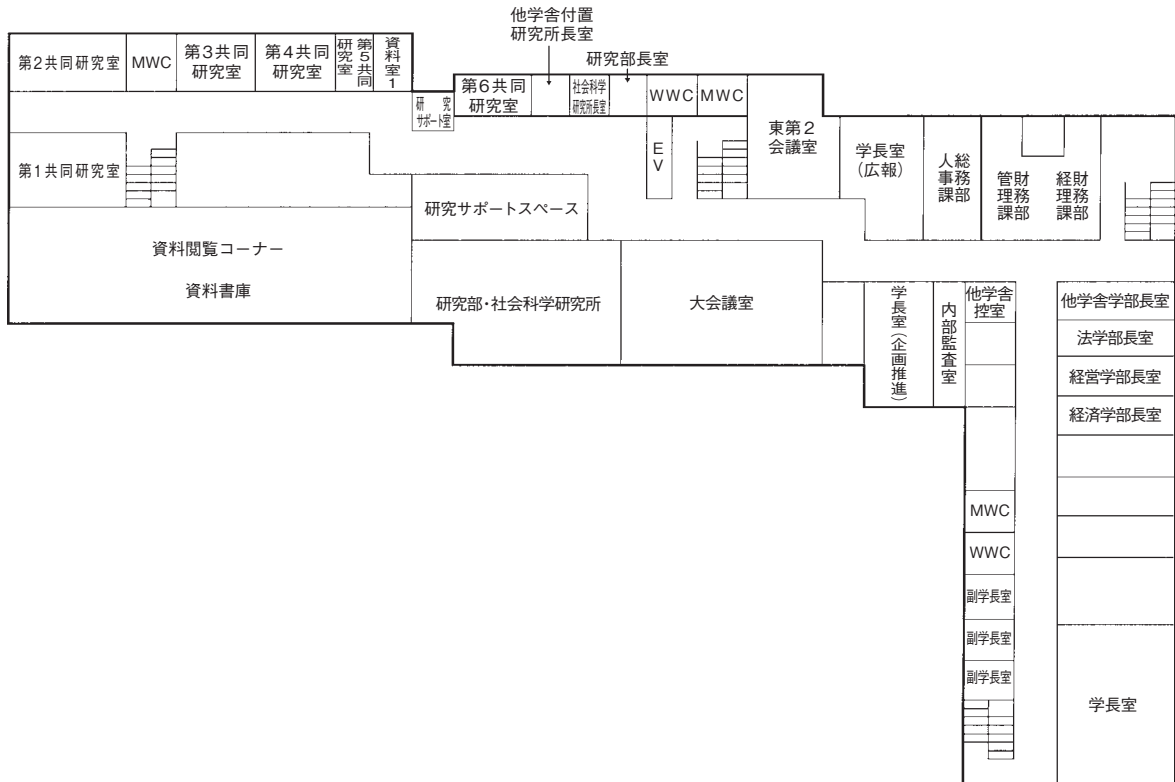


〈深草学舎〉 6 号 館 (紫英館)

1 階



2 階

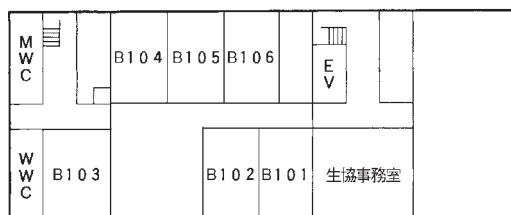


履修の心得
 教育課程
 卒業論文
 諸課程
 学修生活の手引き
 Q & A
 教員付録

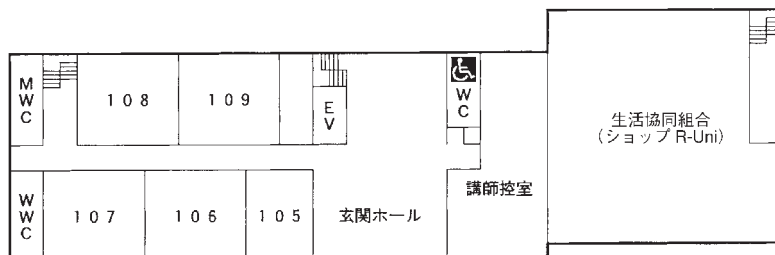


〈深草学舎〉 2 号 館

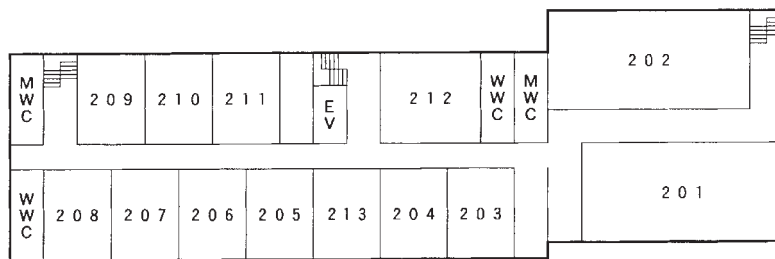
地階



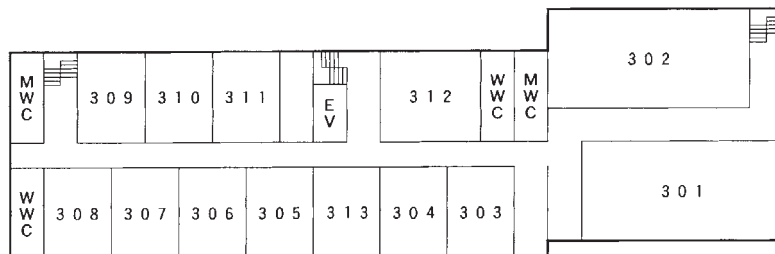
1階



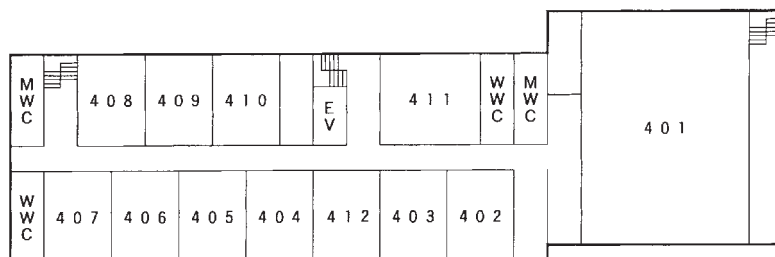
2階



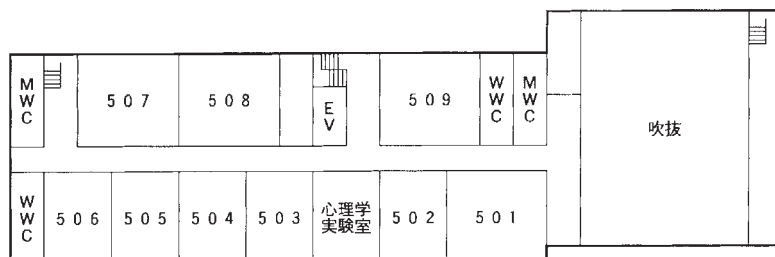
3階



4階



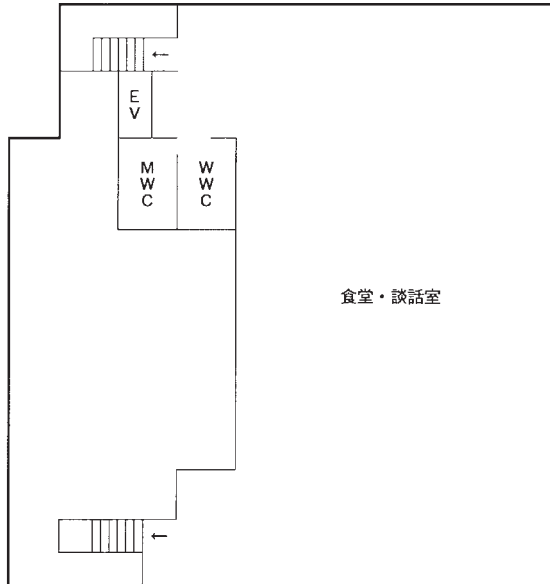
5階



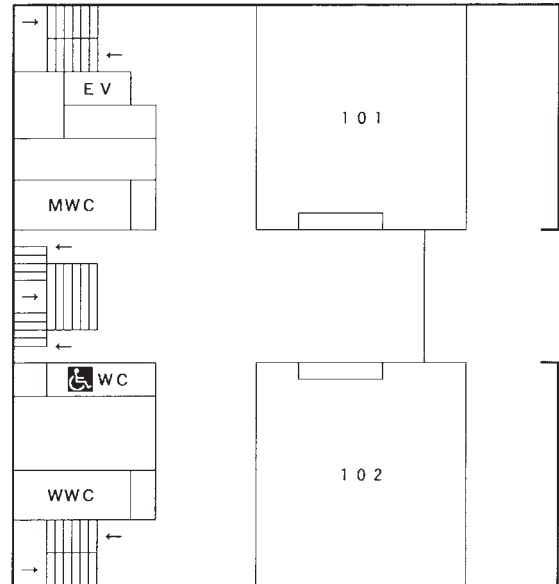


〈深草学舎〉 3 号 館

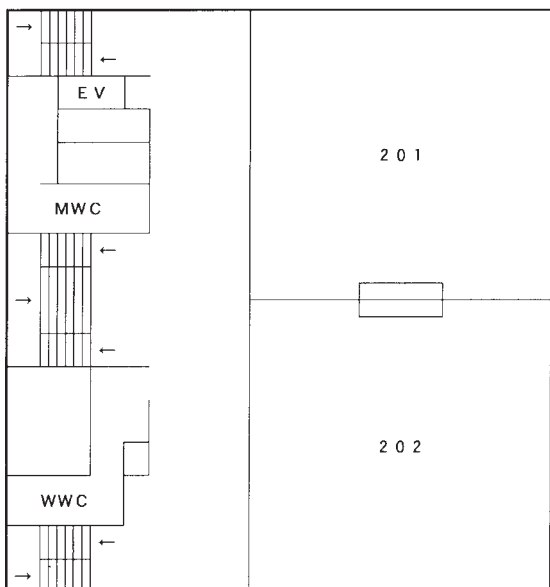
地 階



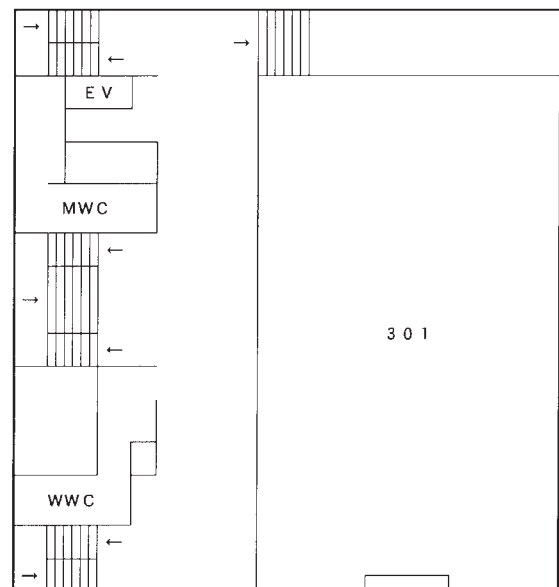
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学修引生活きのの

Q

&

A

教

員

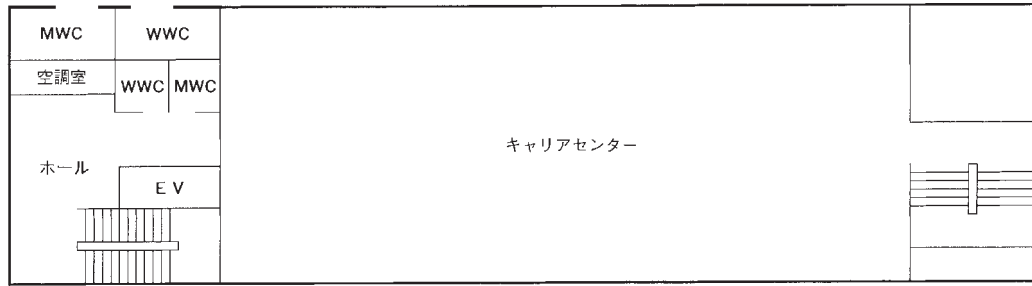
付

録

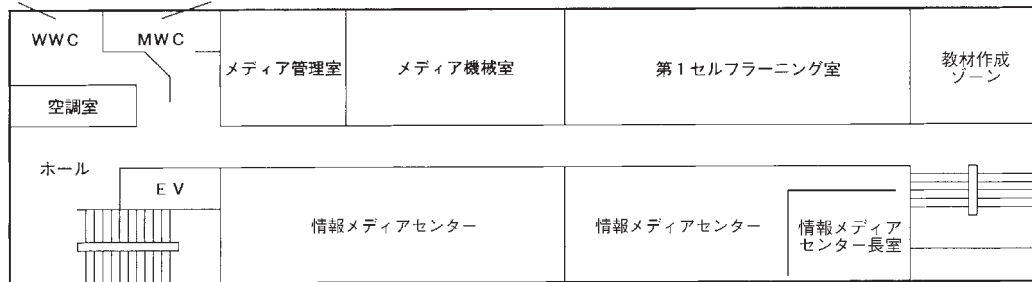


〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

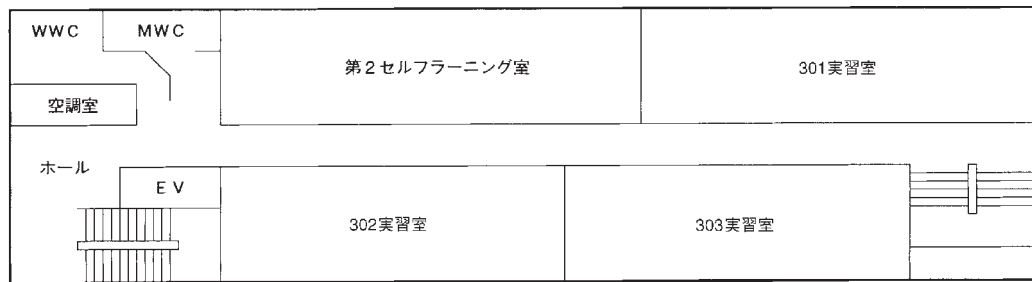
1 階



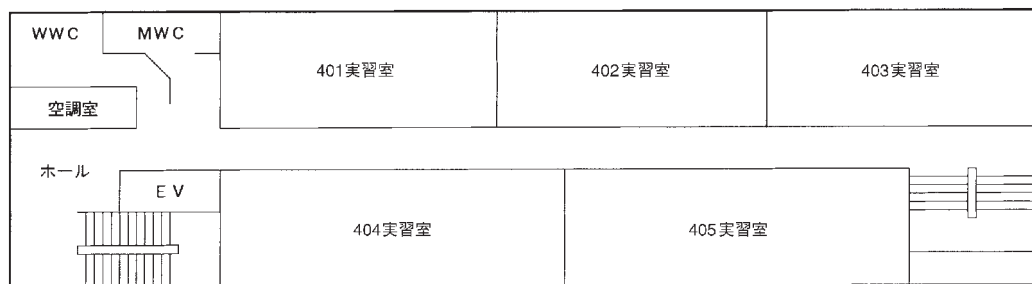
2 階



3 階

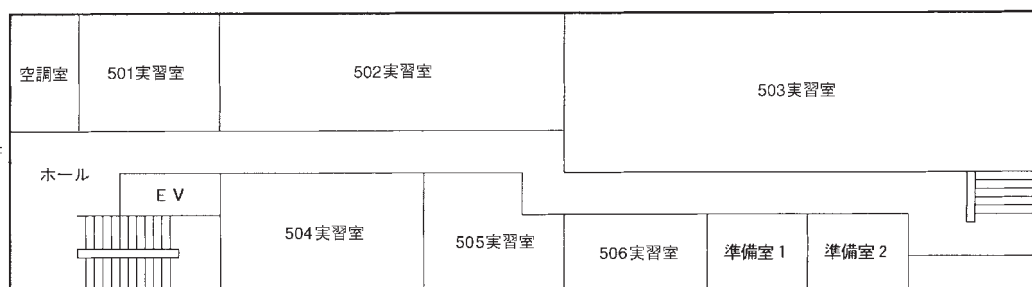


4 階



5 階

21号館4階へ



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員
付

録

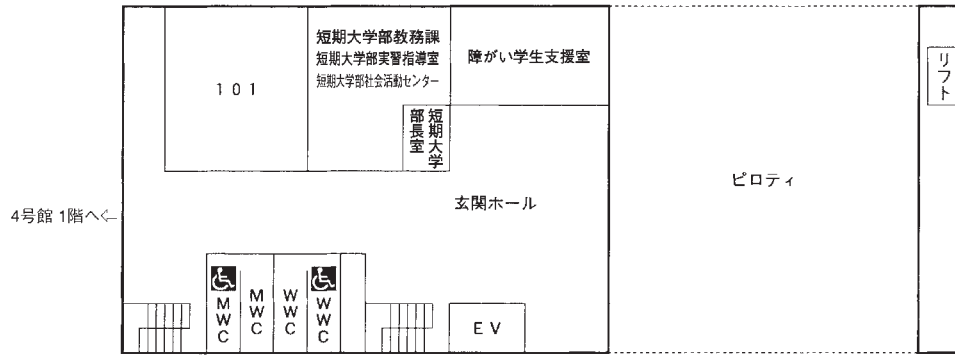


〈深草学舎〉 21 号 館

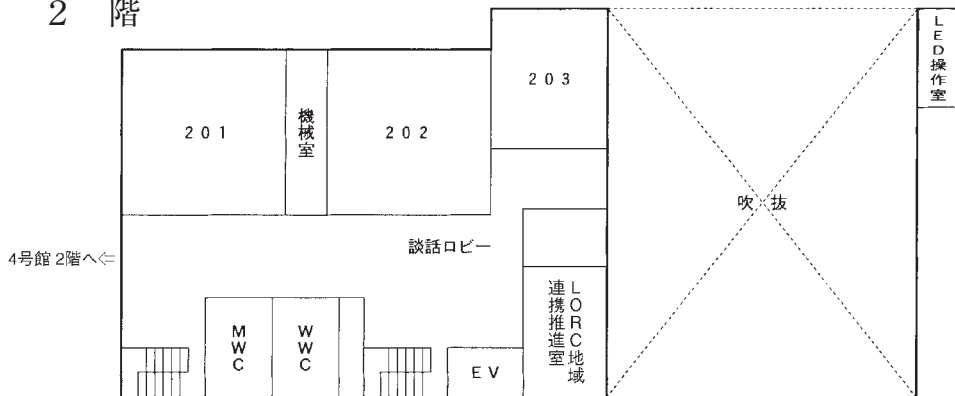
地下1階



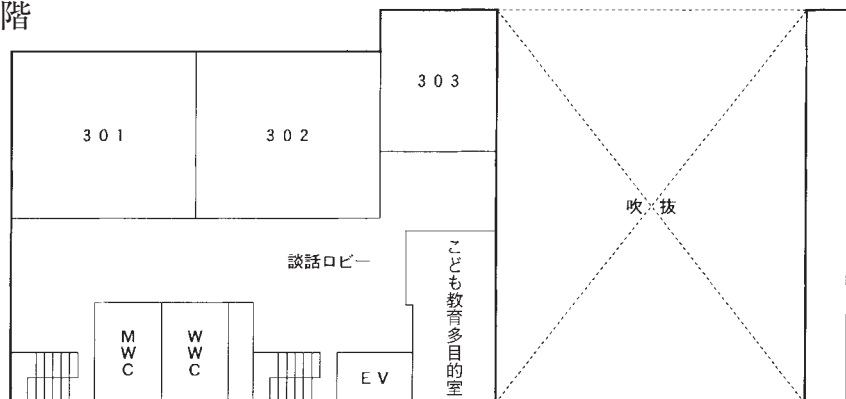
1 階



2 階

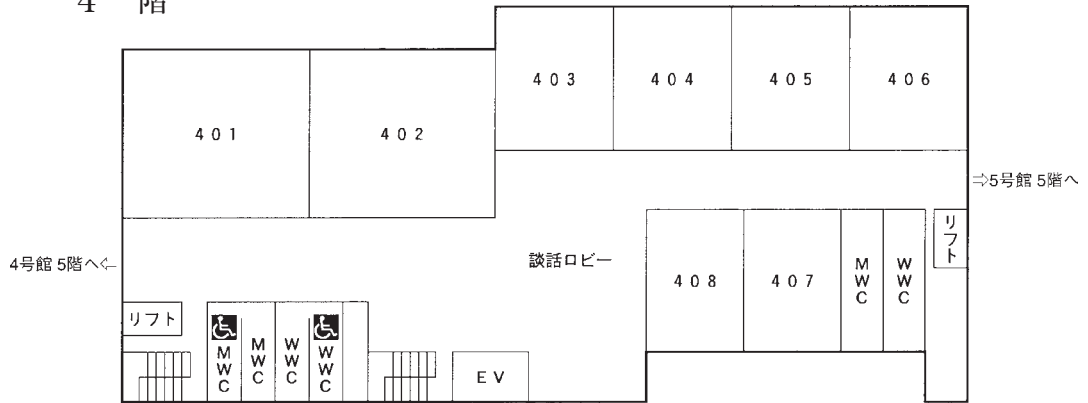


3 階

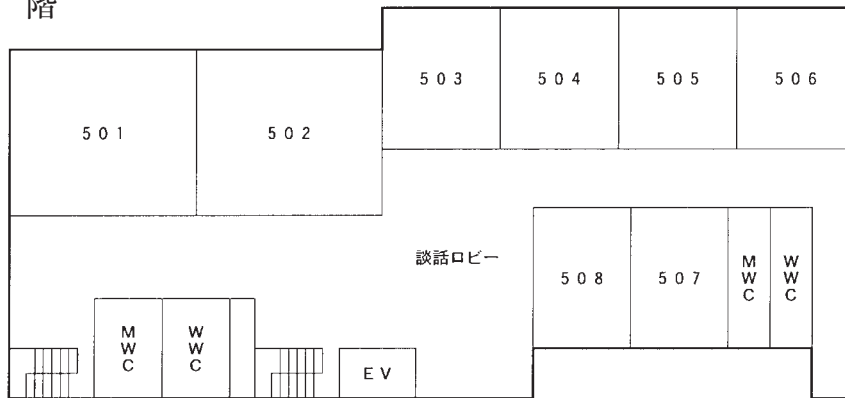




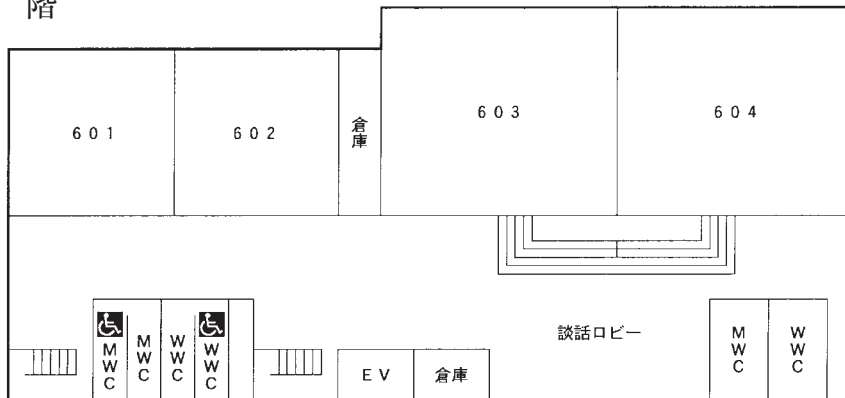
4 階



5 階



6 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q

&

A

教

員

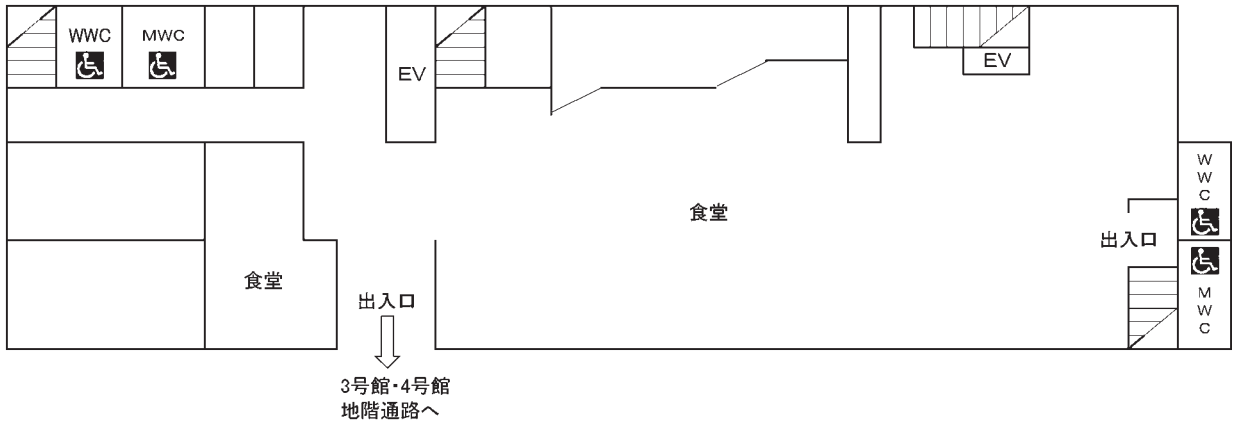
付

録

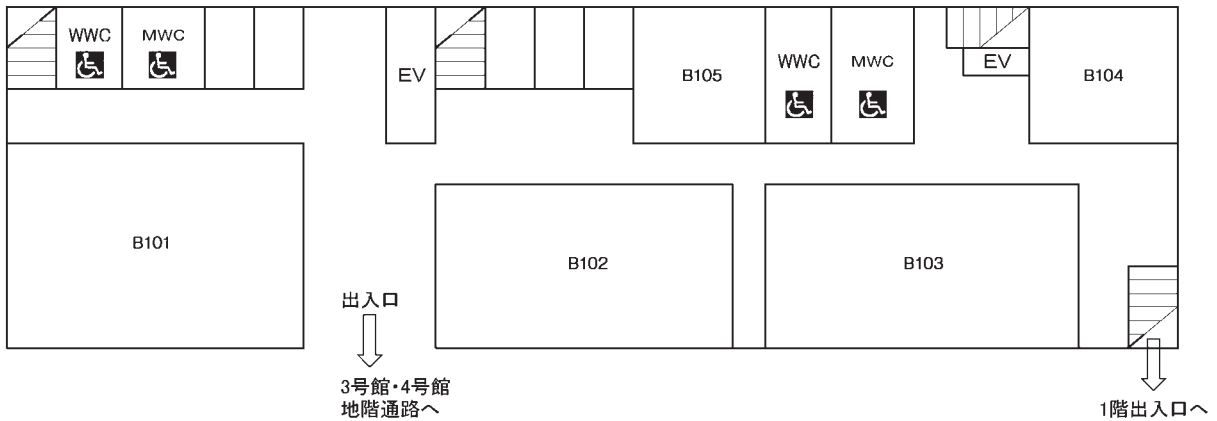


〈深草学舎〉 22 号 館

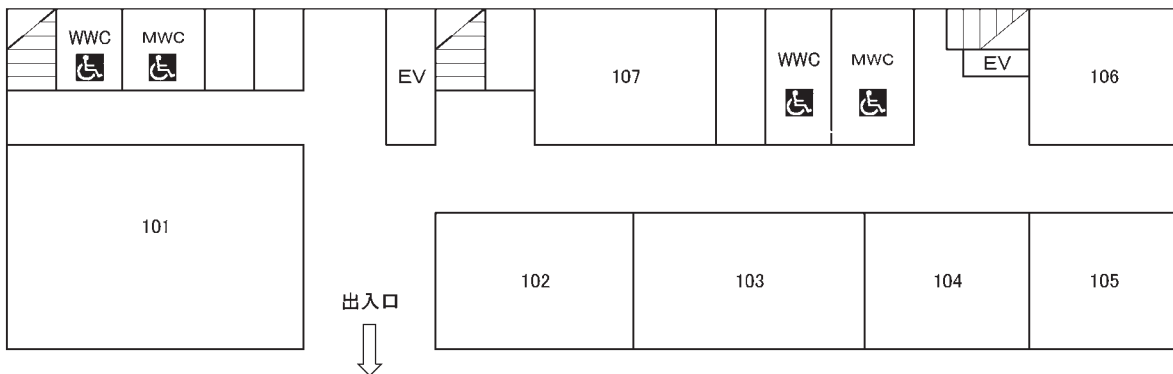
地下2階



地下1階

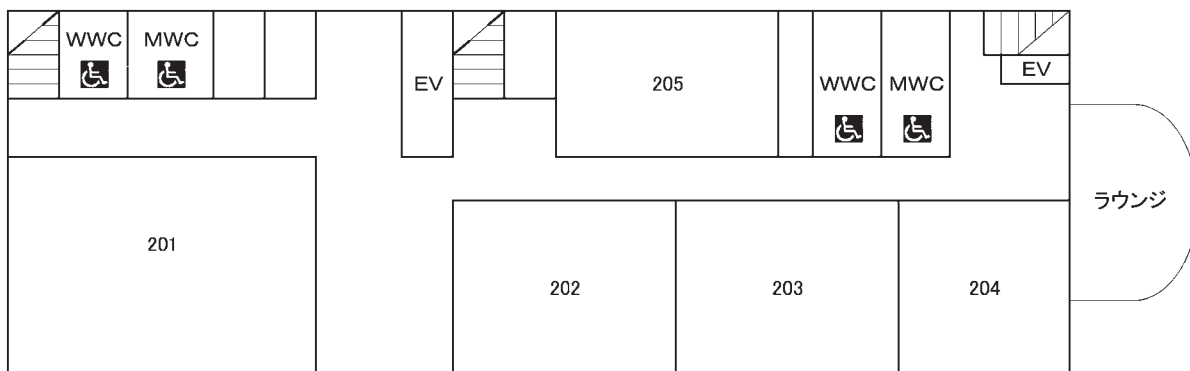


1 階

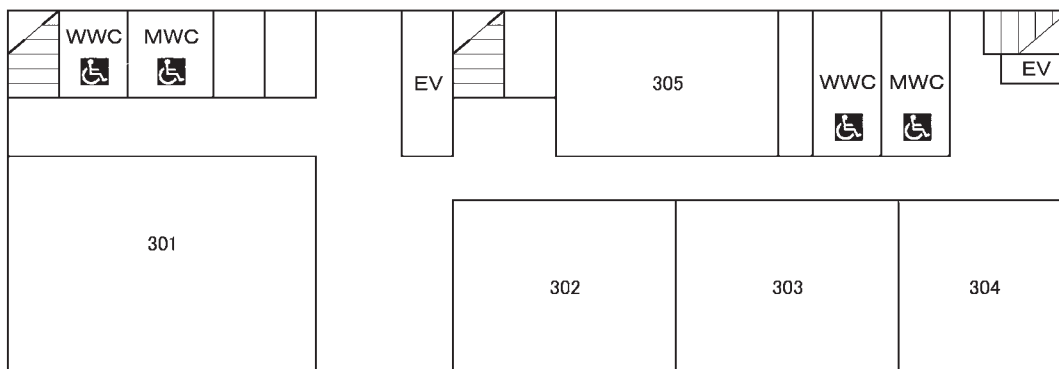




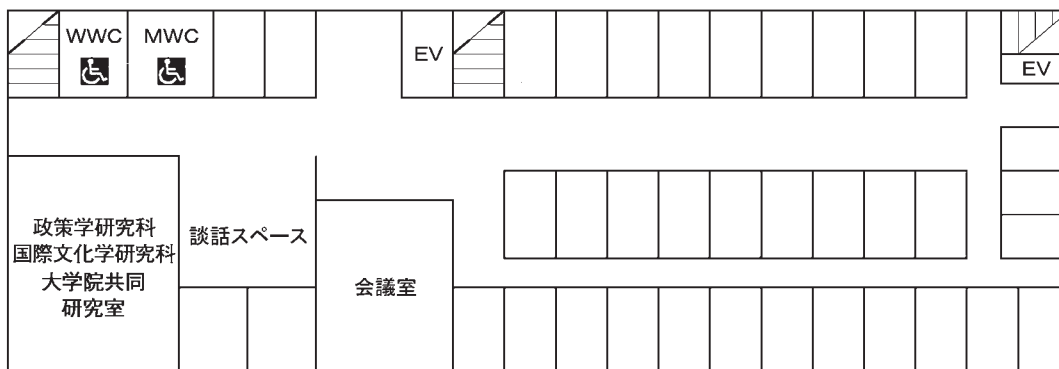
2 階



3 階



4 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
引生活
きのの

Q
&
A

教

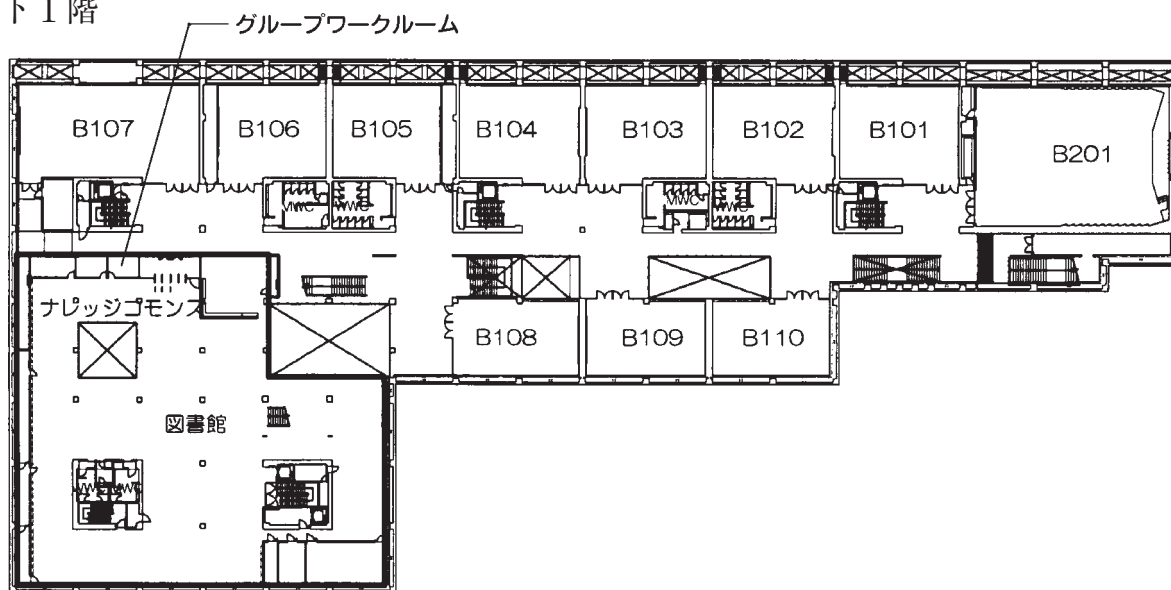
員
付

録

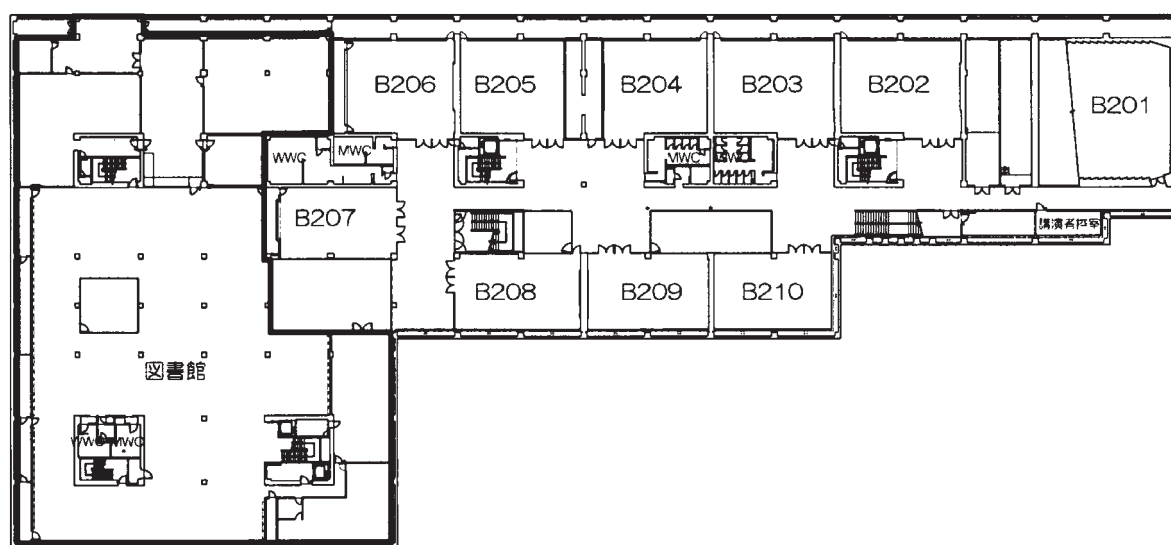


〈深草学舎〉 和 顔 館

地下1階

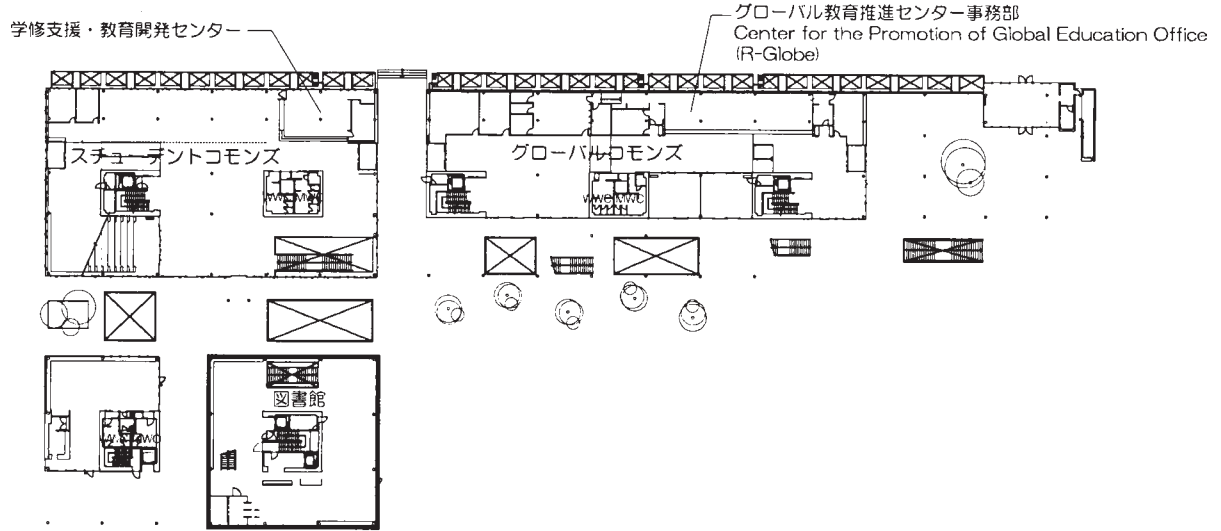


地下2階

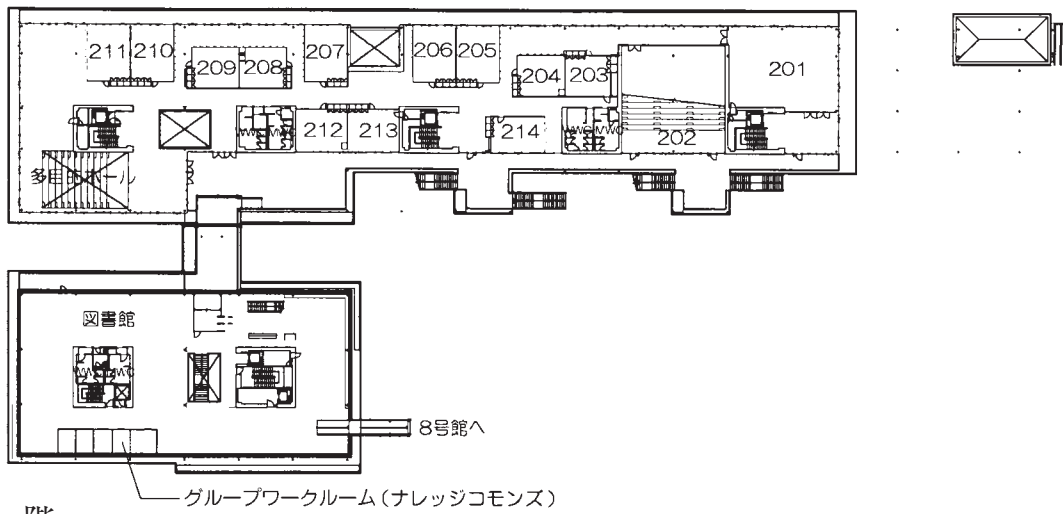




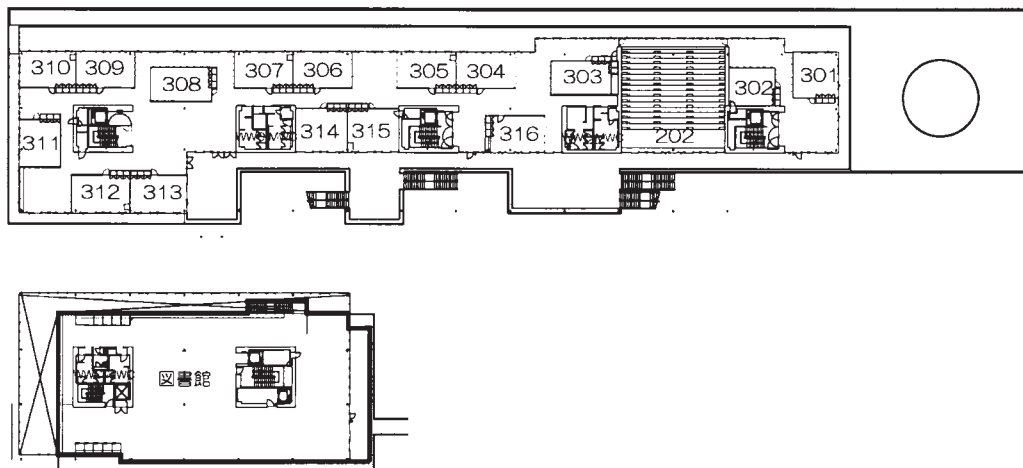
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q

&

A

教

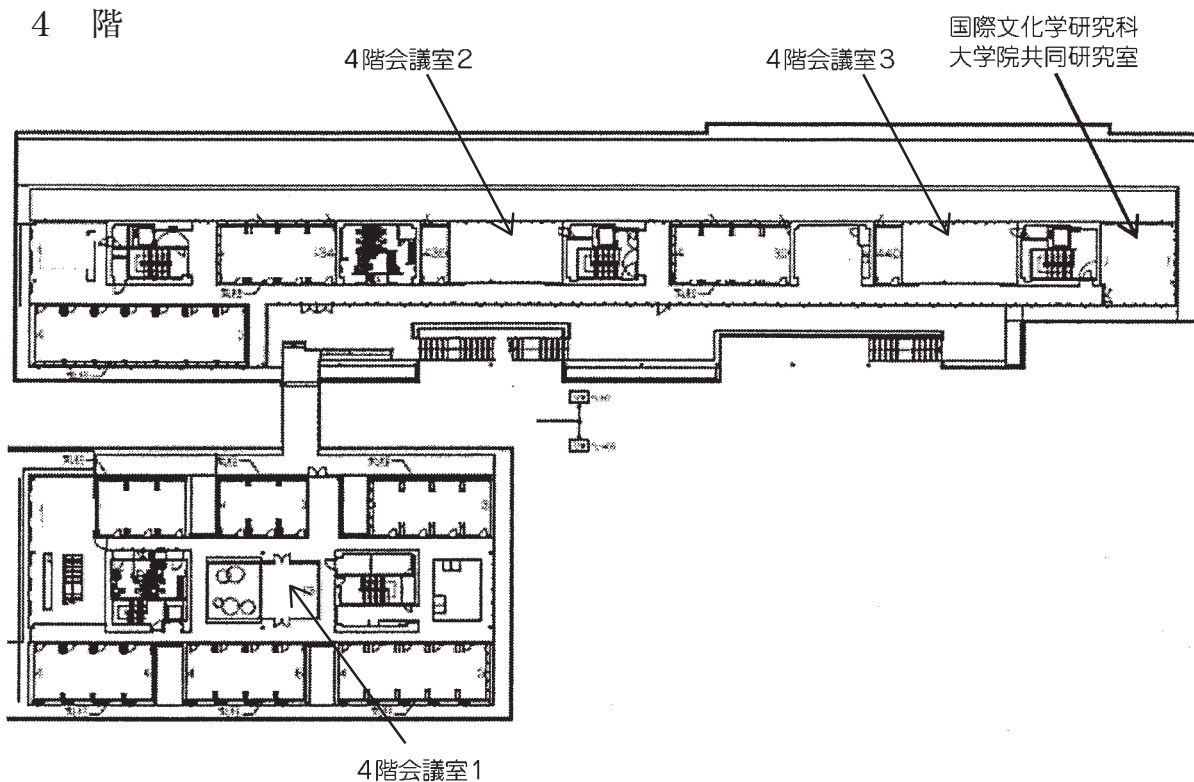
員

付

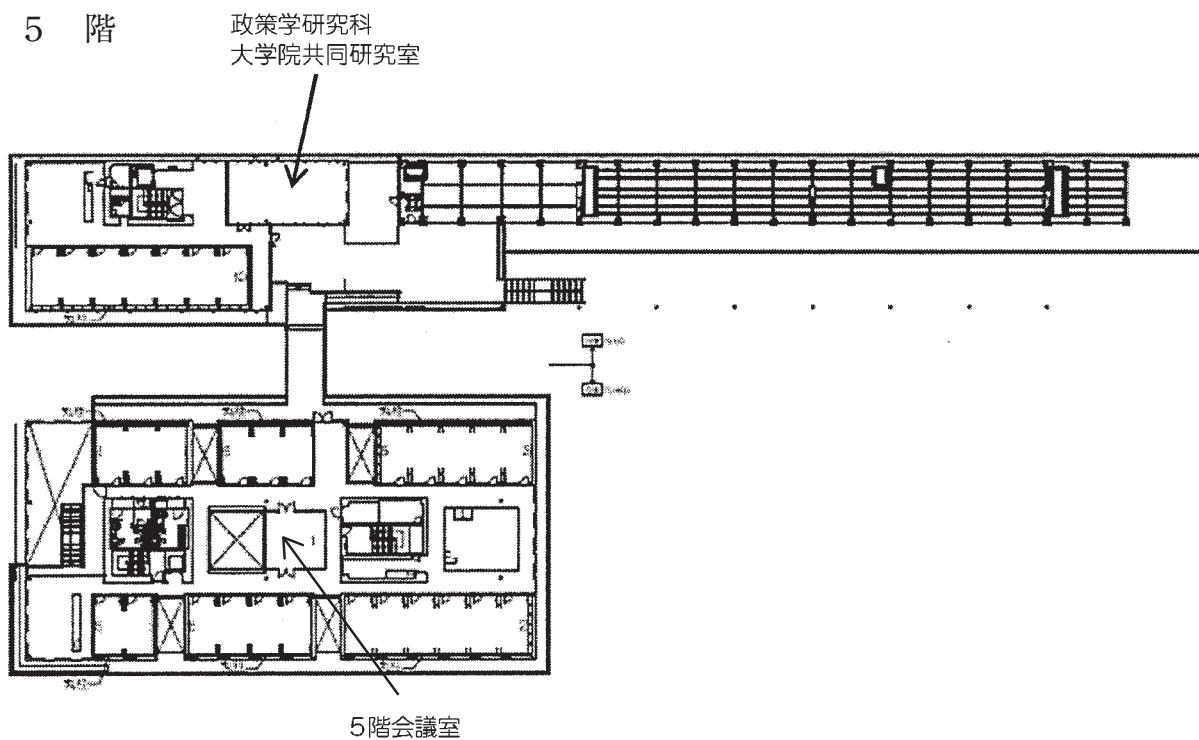
録



4 階



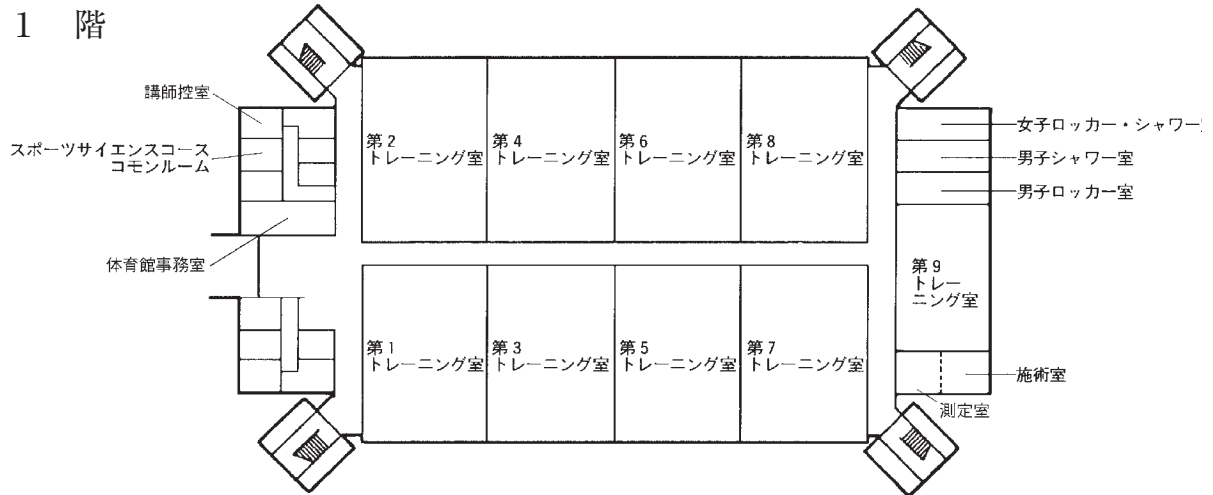
5 階



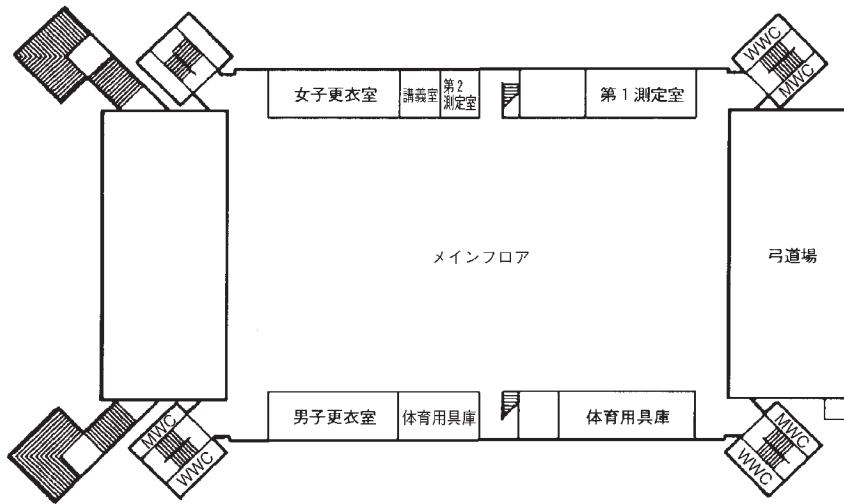


〈深草学舎〉 12号館 (体育館)

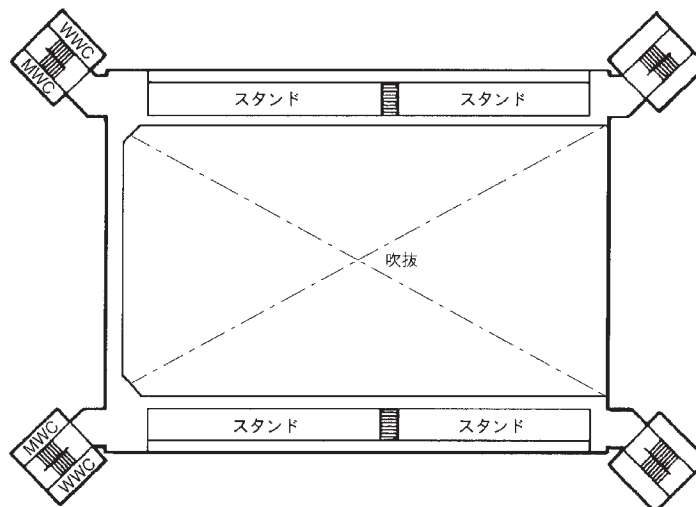
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&

A
教

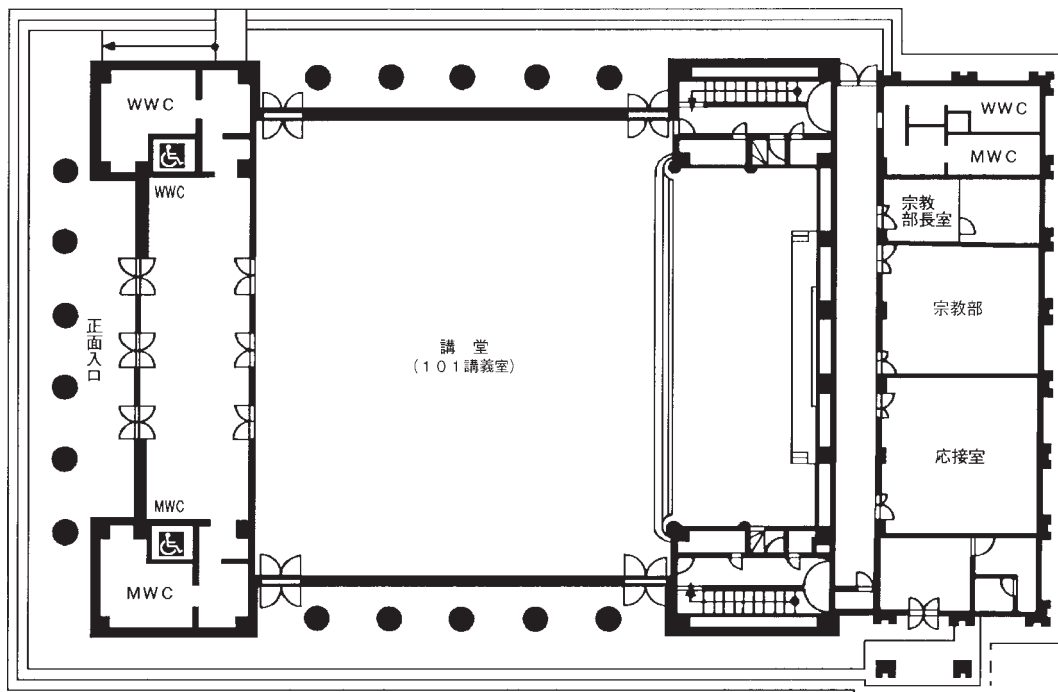
員
付

録

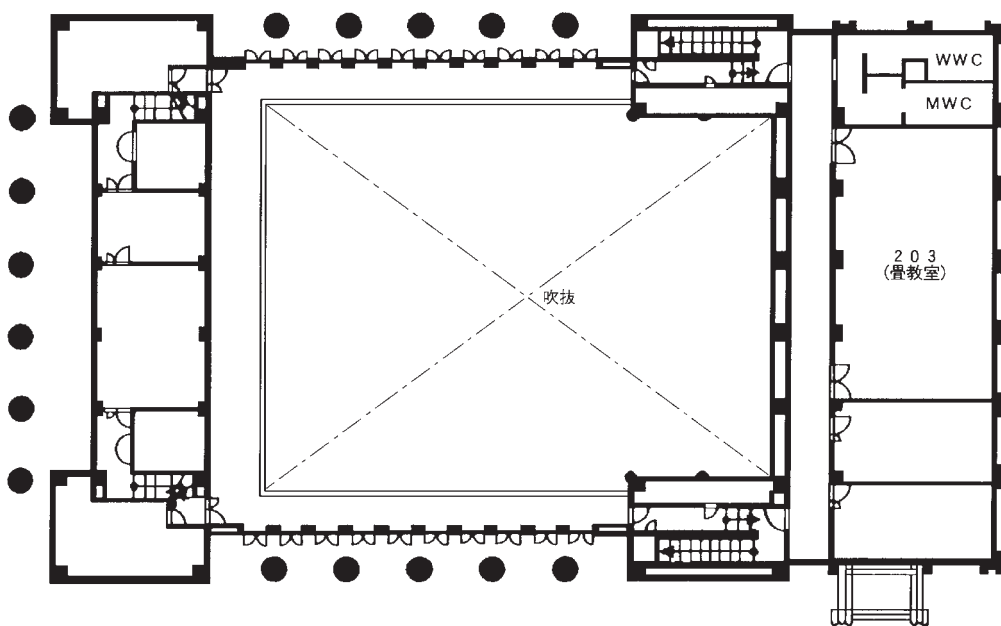


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



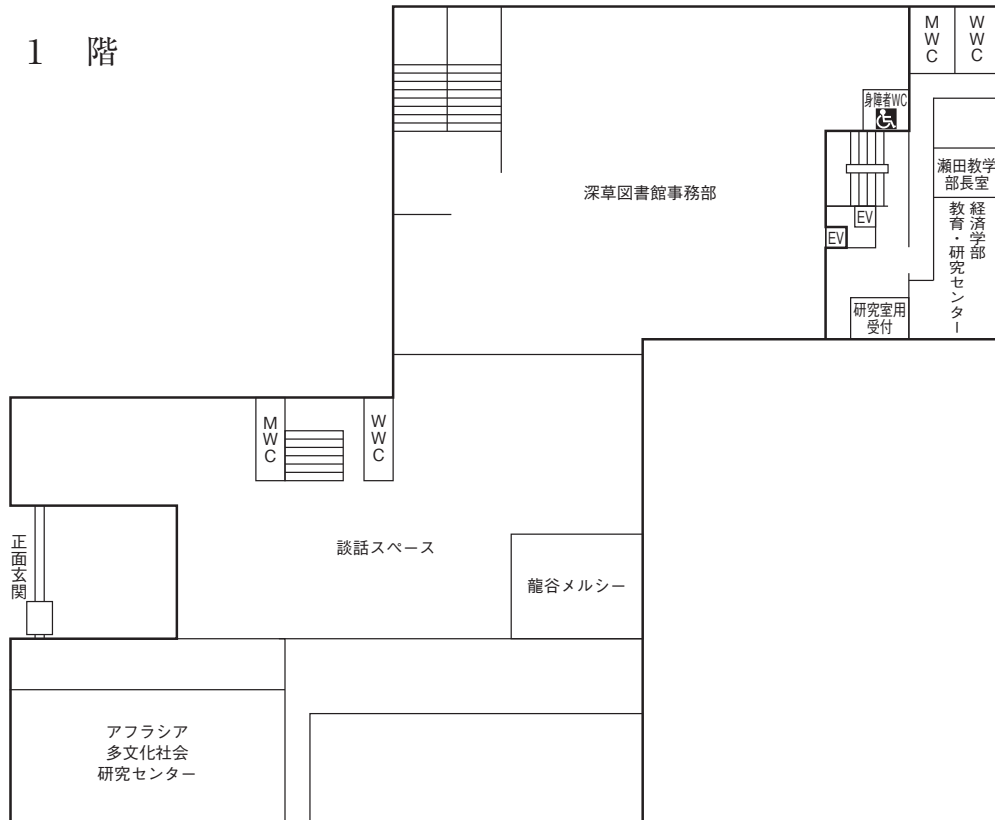
2 階



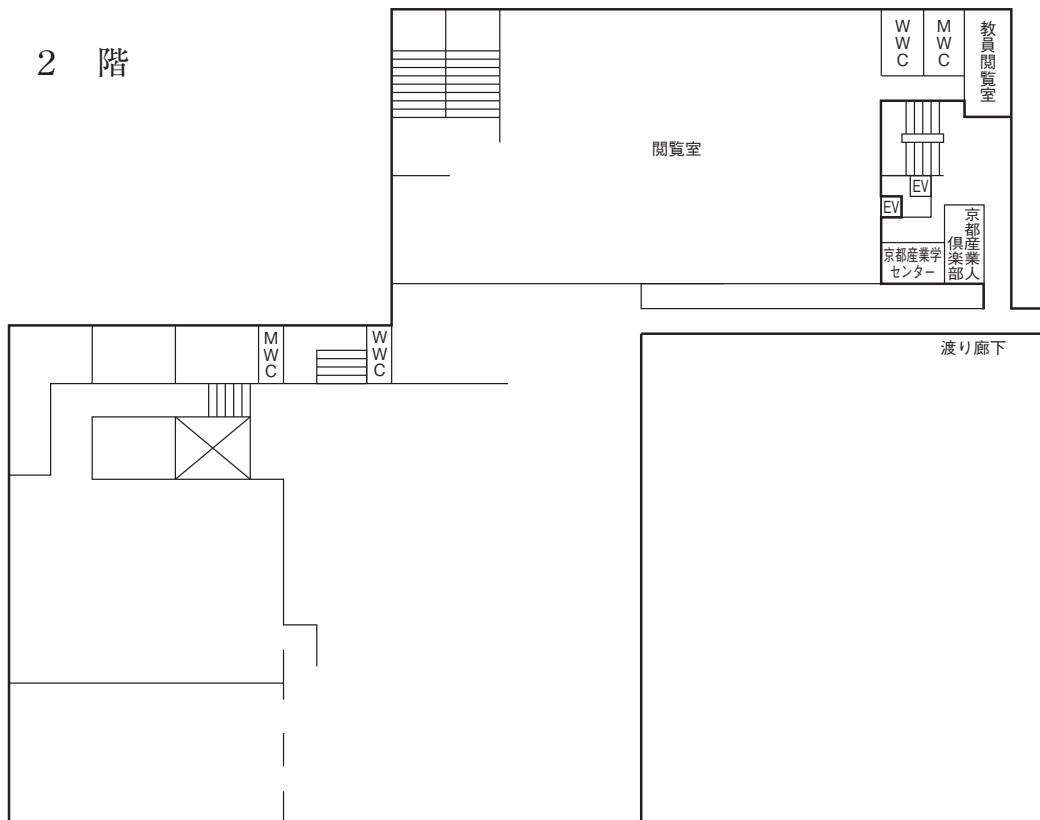


〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学修
引生活
きの

Q
&
A

教

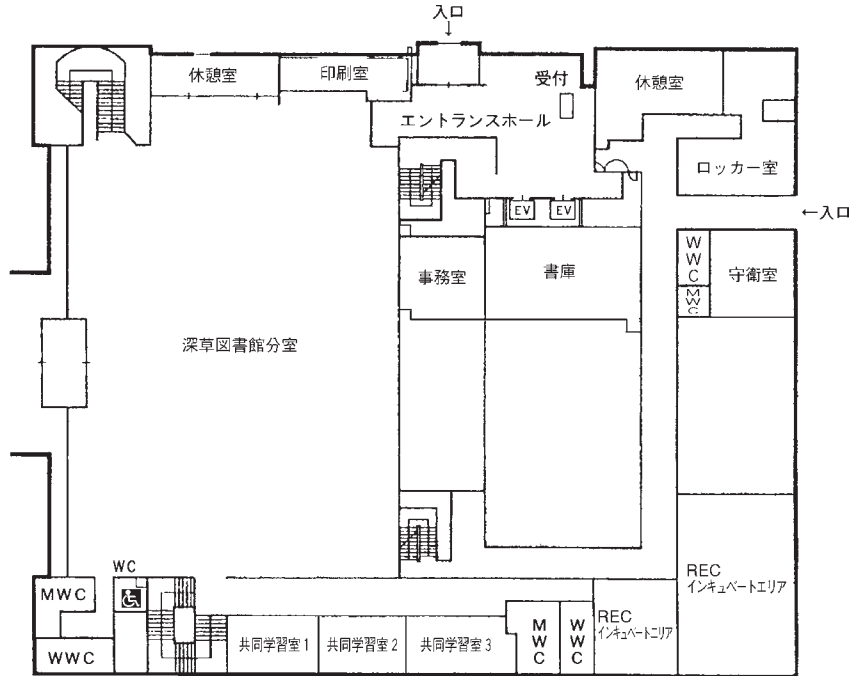
員
付

録

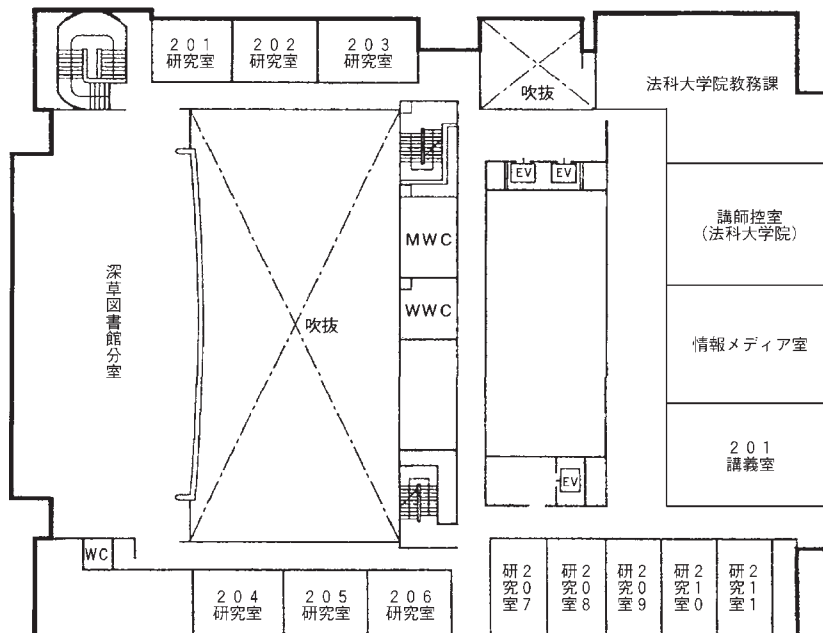


〈深草学舎〉 紫 光 館

1 階

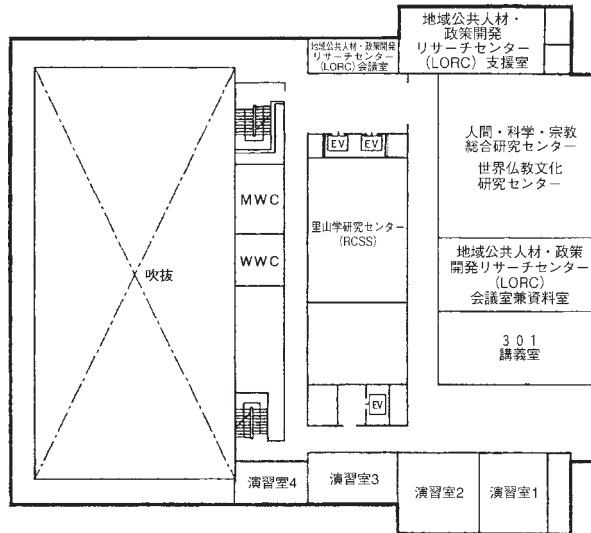


2 階

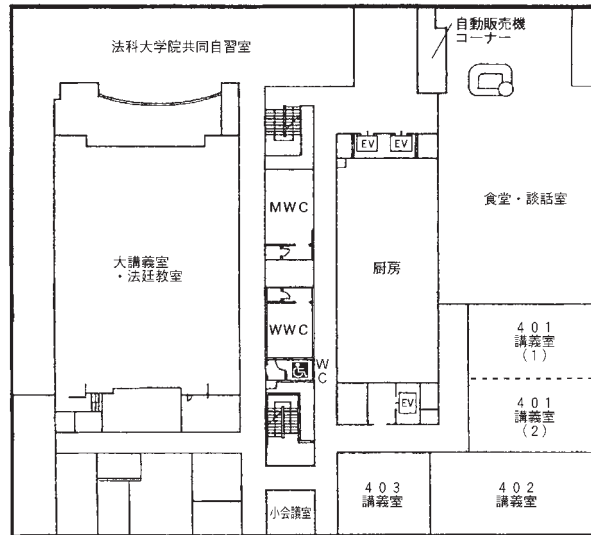




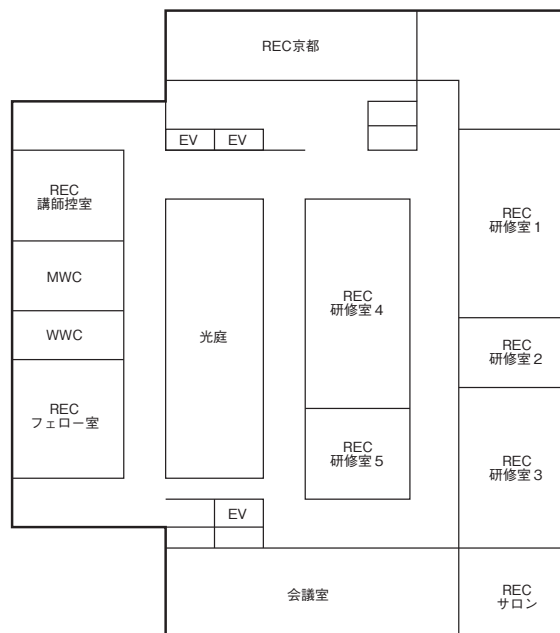
3 階



4 階



5 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

手学修生活の

Q & A

教

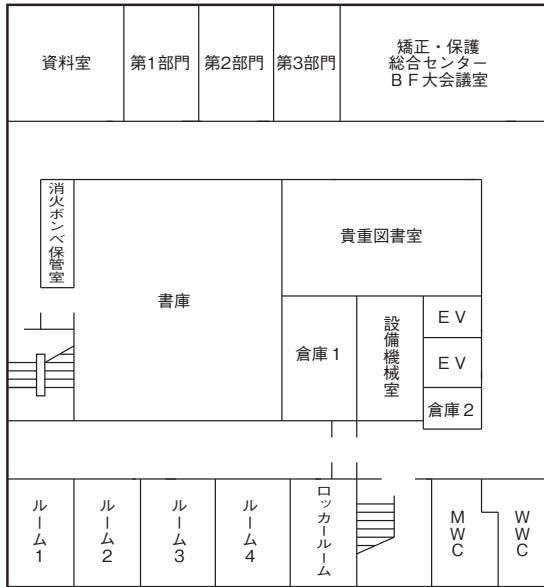
員付

録

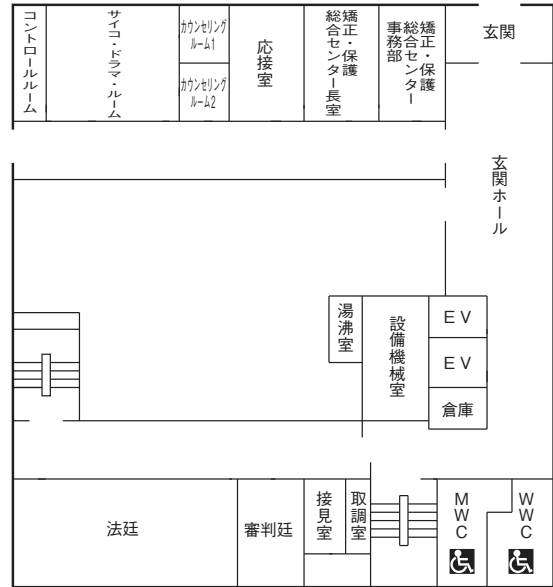


〈深草学舎〉 至心館

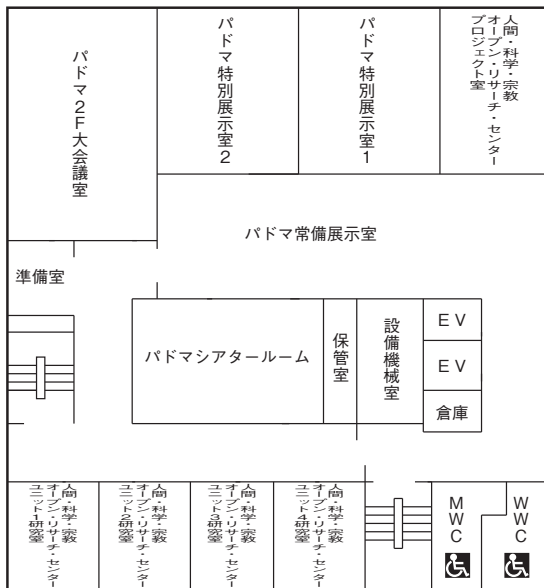
地下1階



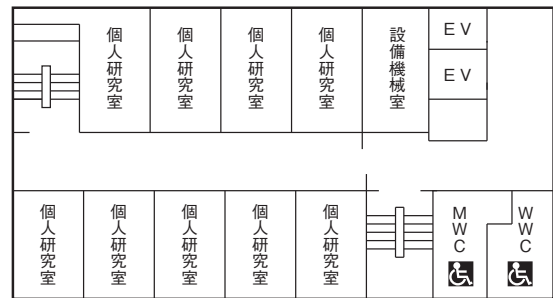
1階



2階



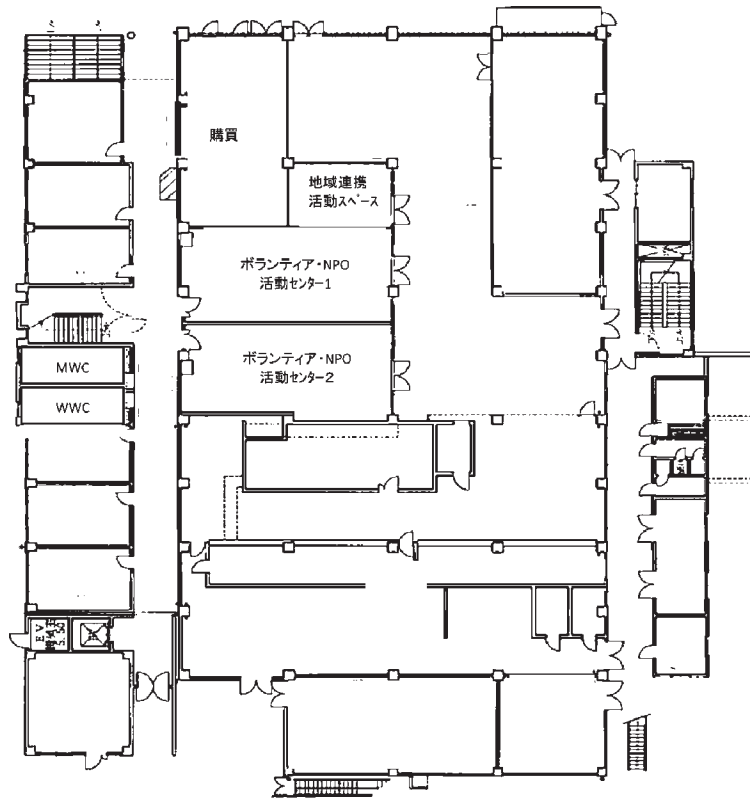
3階・4階・5階



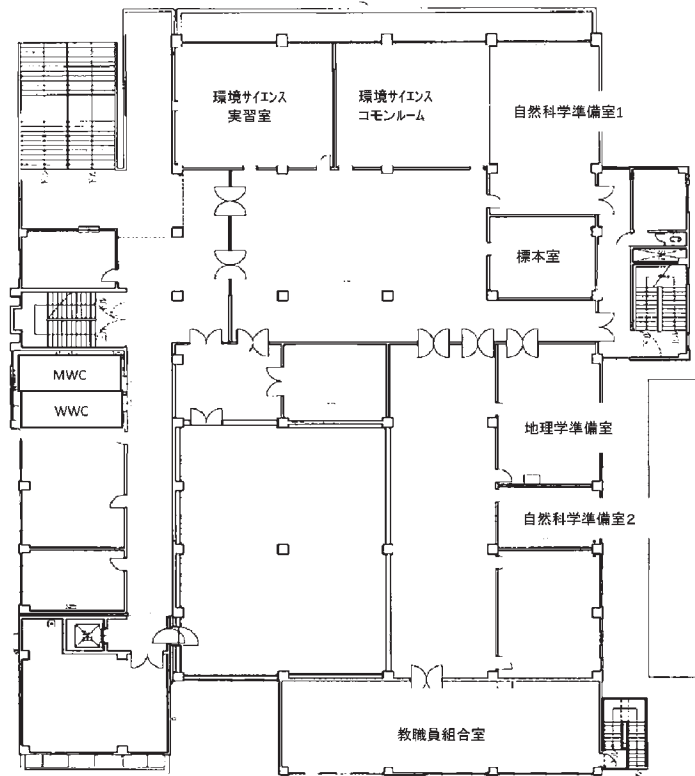


〈深草学舎〉 9 号 館 (学友会館)

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

学修生活の手引き

Q

&

A

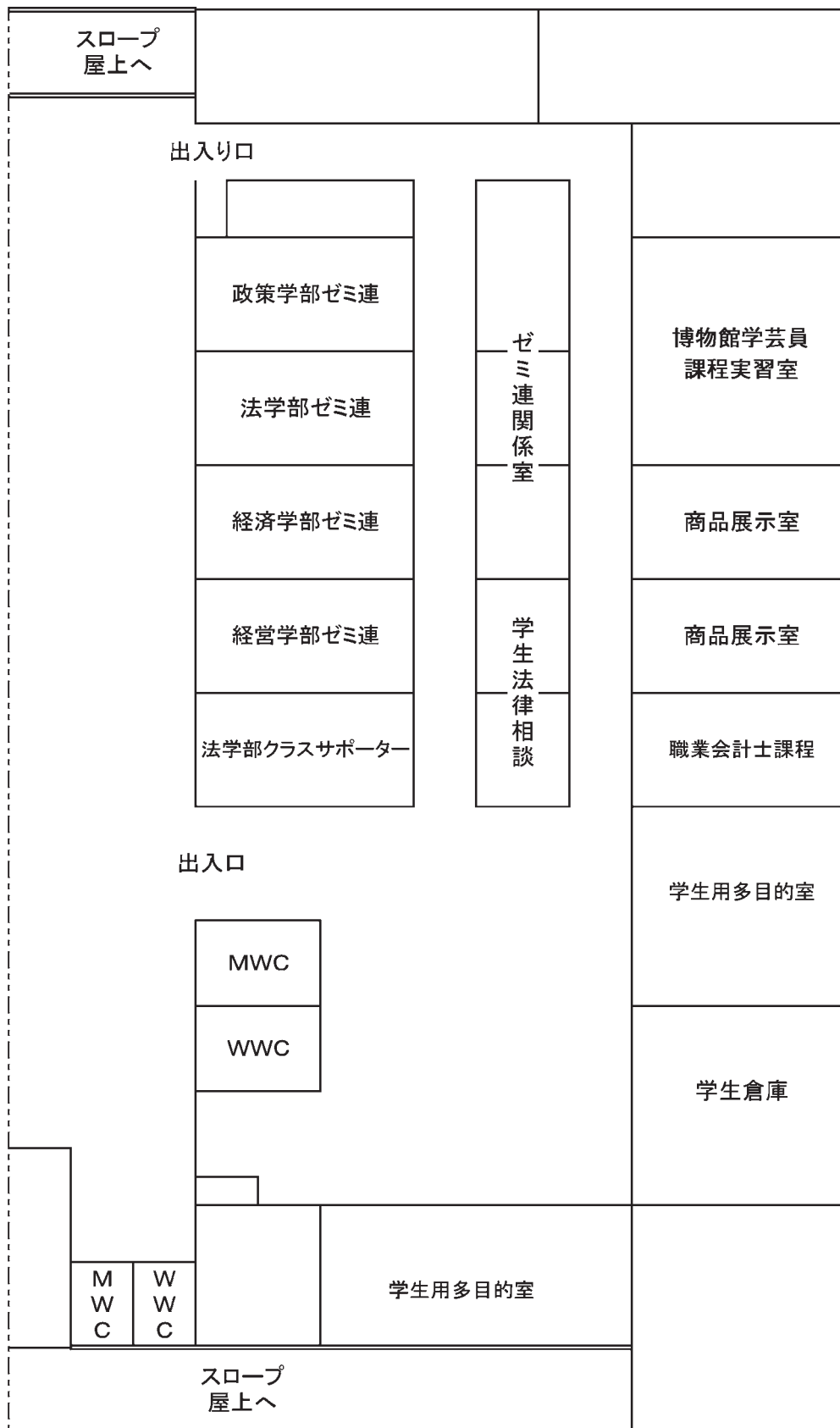
教

員

付

録

〈深草学舎〉 紫光館別館



国道 24 号線

履修の心得

教育課程

卒業論文

諸課程

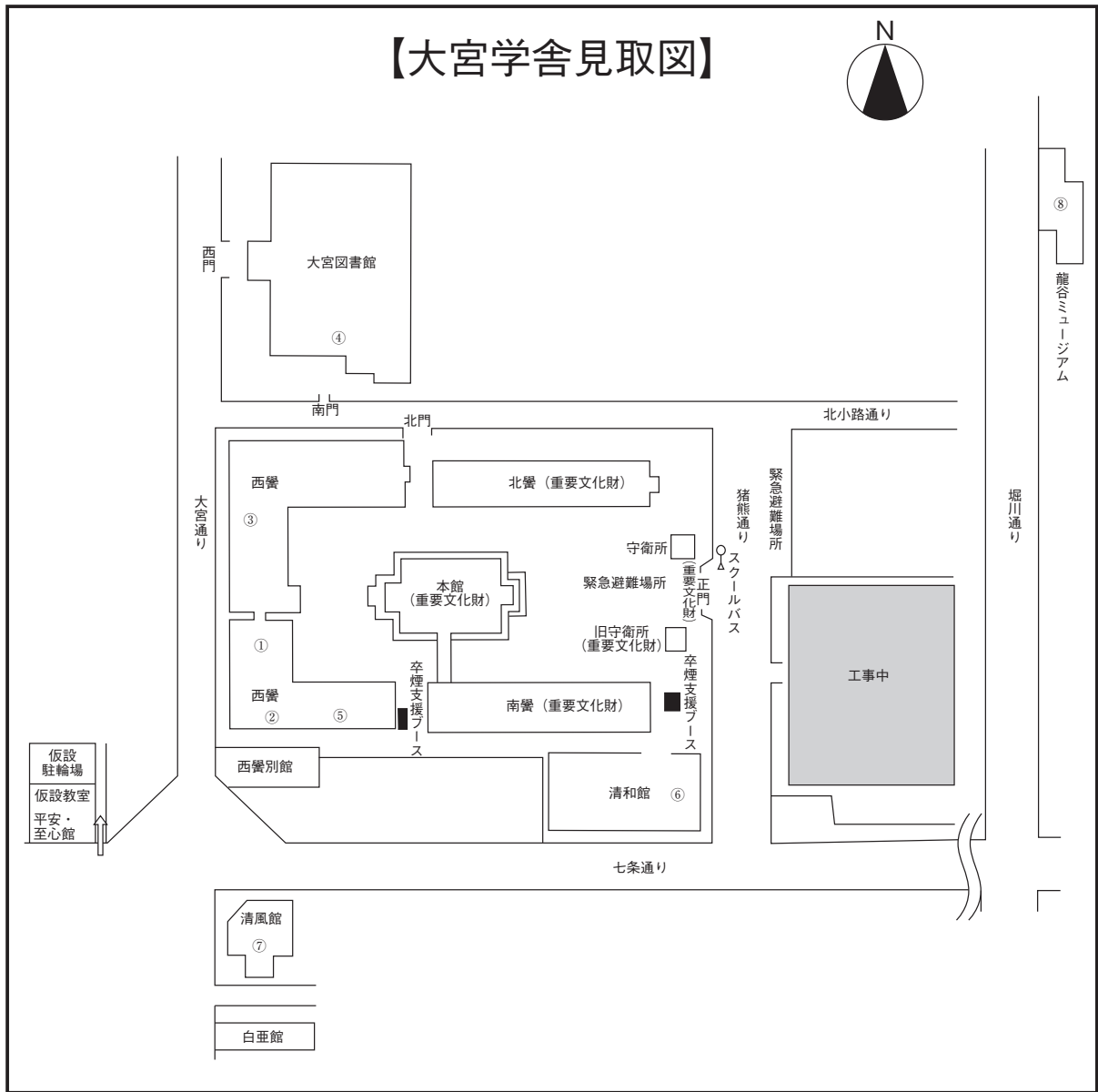
手学
引生
活きの

Q & A

教

員付

録



大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先 市外局番は「075」です。

	部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
①	文学部教務課	文学部の科目に関すること 教材作成に関すること	343-3317	343-4302
②	文学部教務課分室	夜間窓口	—	—
③	講師控室	大学からの通知・連絡	343-3311 (代表)	343-3319
④	図書館事務部 (大宮図書館)	図書館の利用に関すること	343-3318	343-3345
⑤	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	343-3322	343-3490
⑥	生活協同組合	購買(書籍、文具、チケット等)	352-3981	343-6428
⑦	情報メディアセンター (大宮)	情報実習室、メディア機器の利用に関すること	366-0612	366-0613
⑧	龍谷ミュージアム事務部		351-2500	351-2577

留学サポートデスクについて

グローバル教育推進センター(和顔館1F)には、
国際学部留学サポートデスクがあります。
留学経験のある日本人アドバイザー4名が担当しており、
様々なサポートをおこなっています。
わからないこと、不安なことがあれば、何でも気軽に相談してください。



留学アドバイザー からのメッセージ

日本を離れ、新しい世界に飛び込むのはとても勇気がいりますよね。留学を実現するために必要なこと、それは情報収集です。留学準備の段階で不安を少しでも解消できるように、留学する時期、国や学校の選び方、留学願書の書き方、学生ビザ等各種情報を提供しています。また、留学前のサポートだけではなく、留学中の質問にメールで答えたり、留学後にはみなさんの自主的な語学勉強会をお手伝いしたりすることで、留学前から留学後まで一貫したサポート体制を提供しています。忘れられない留学経験を作り上げ、将来のステップになるよう、私たちが全力でサポートします！

2016年度
国際学部 国際文化学科 履修要項

2016年4月1日発行

編集発行 龍谷大学国際学部
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-5645 (直通)
FAX 075-645-6444
e-mail-world@ad.ryukoku.ac.jp

印刷 アイNZ株式会社
